

平成26年度研修事業の概要

(各研修事業別個表)

各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長、副校長・教頭及び中堅教員等に対する学校経営研修

1. 教職員等中央研修

第1回 校長マネジメント研修	1
第2回 校長マネジメント研修	3
第1回 副校長・教頭等研修	5
第2回 副校長・教頭等研修	7
第3回 副校長・教頭等研修	9
第4回 副校長・教頭等研修	11
第5回 副校長・教頭等研修	13
第1回 中堅教員研修	15
第2回 中堅教員研修	17
第3回 中堅教員研修	19
第4回 中堅教員研修	21

2. 英語教育海外派遣研修 23

学校現場が抱える喫緊の重要課題について、地方公共団体が行う研修等の講師や企画・立案等を担う指導者の養成等を目的とした研修

1. 学校組織マネジメント指導者養成研修

第1回	25
第2回	27
第3回(高等学校事務職員)	29
第4回(小・中学校事務職員)	31

2. 言語活動指導者養成研修(国語力向上指導者養成研修) 33

3. 道徳教育指導者養成研修

中央指導者研修	35
北海道・東北ブロック	38
関東・甲信越ブロック	40
東海・北陸ブロック	42
近畿ブロック	44
中国・四国ブロック	46
九州ブロック	48

4. 学校教育の情報化指導者養成研修	
第1回	50
第2回	52
5. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修	
管理者用コース	54
日本語指導者用コース	56
6. 生徒指導指導者養成研修	60
7. 人権教育指導者養成研修	62
8. キャリア教育指導者養成研修	65
9. 教育相談指導者養成研修	68
10. いじめの問題に関する指導者養成研修	
北海道・東北ブロック	70
関東・甲信越ブロック	72
東海・北陸ブロック	74
近畿ブロック	76
中国・四国ブロック	78
九州ブロック	80
11. 子供の体力向上指導者養成研修	
東部ブロック	82
西部ブロック	84
12. 健康教育指導者養成研修	
健康コース（第1回）	86
健康コース（第2回）	88
食育（基礎）コース	90
食育（発展）コース	92
学校安全コース	94
13. 外国語指導助手研修	
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・第2次）	96
14. 教育課題研修指導者海外派遣プログラム	
学校経営の改善：A－1団	100
学校経営の改善：A－2団	101
言語力・コミュニケーション力の育成：B－1団	102
言語力・コミュニケーション力の育成：B－2団	103
PISA型学力の育成：C－1団	104
PISA型学力の育成：C－2団	105
PISA型学力の育成：C－3団	106
生徒指導・教育相談の充実：D－1団	107
生徒指導・教育相談の充実：D－2団	108
キャリア教育の充実：E－1団	109
体力・運動能力の向上：F－1団	110
学校教育の情報化・ICTの活用：G－1団	111
特別支援教育の充実：H－1団	112
学校と地域等の連携：I－1団	113
学校と地域等の連携：I－2団	114

地方公共団体の共益的事業として委託等により例外的に実施する研修

(所要経費の全額を派遣者が負担)

1. 産業・理科教育教員派遣研修	116
2. 産業・情報技術等指導者養成研修	
工業：B－1（技術者倫理・法令遵守・安全教育等に関する講義と実習）	118
商業：C－1（教科「商業」における授業改善に関する講義と実習）	120
家庭：E－1（社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービスなどの生活産業に関する講義と実習）	122
看護：F－1（看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習）	124
情報：G－1（ネットワークシステムの構築・運営管理とシステム設計に関する講義と実習）	126
福祉：H－1（医療的ケアを中心とした生活支援技術の講義と演習（医療的ケア教員講習）	128
技術・家庭（技術）：I－1（これからの日本を支える人材の育成を目指した技術分野の指導と評価）	130
技術・家庭（家庭）：J－1（学校における食育の推進：教科「技術・家庭」における食に関する指導（講義と実習）	132
3. 産業教育実習助手研修	
教科「農業」及び農業科教育法に関する講義と実習	134
教科「工業」及び工業科教育法に関する講義と実習	136
教科「水産」及び水産科教育法に関する講義と実習	138
4. 学校評価指導者養成研修	140
5. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	142
6. 小学校における英語活動等国际理解活動指導者養成研修	144

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回校長マネジメント研修 【第381回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の校長等 小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者					
開 催 期 日	平成26年 5月12日（月）～平成26年 5月16日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	75	人	受講者数	54	人 参加率 72.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,535 人、参加率 90.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義									
人数 (人)	割合 (%)	44	81.5	10	18.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	54
		54	100.0									

2. 研修内容に関する主な意見

・各都道府県で活躍されている先生方といろいろな意見交換ができ、大変有意義であった。また、講師の話が大変参考になった。 ・今の教育全体をリードする講師の話を聞き、今後の教育の方向性を考えるチャンスをもたらえたことが第一の成果。また、全国各地の校長と毎晩、意見交換でき、そのエネルギーをもたらえたことが第二の成果です。 ・全国から参加している研修なので、横のつながりができた。 ・素晴らしい講師陣と、素晴らしい研修環境、そして全国から集まった先生方、三拍子揃った研修でした。 ・普段取り組んでいる学校運営を、論理的・分析的に振り返る良い機会となった。 ・理念・理論にとどまらず、実践に向けたプロセスに重点が置かれていたと思います。具体的実践への見通しが、各講座でクリアに見えた点がよかったです。 ・もう少しじっくりと聞きたい講義もあり、時間がもう少しあるとよかったですと思います。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「校内指導体制の充実 ～道德教育・生徒指導等の充実～」を新設した。 ・「学校運営演習」の時間を拡充した。 次年度に向けて ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充する。 ・「班別協議」を新設し、研修成果の活用、普及、還元について協議する時間とする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度教職員等中央研修 第1回校長マネジメント研修

	5月12日(月)	5月13日(火)	5月14日(水)	5月15日(木)	5月16日(金)
		8:30～9:30 学校運営演習	8:30～9:30 学校運営演習	8:30～9:30 学校運営演習	8:30～10:00 講義
	受付				学校組織マネジメントⅣ (学校評価)
	9:00～10:00 オリエンテーション	9:45～11:45 講義・演習 校内指導体制の充実 (～道徳教育・生徒指導等の充実～)	9:45～11:45 講義・演習 リスクマネジメント	9:45～11:45 講義 学校組織マネジメントⅢ (教職員のメンタルヘルス)	浜田 博文
	10:10～10:30 開講式			河村 茂雄	10:15～11:45 講義
	10:30～11:45 新しい時代の教育	杉田 洋			リーダーシップとマネジメント ～民間に学ぶ～
	11:45～12:00 集合写真撮影				柴田 励司
	13:00～15:45 講義・演習 学校組織マネジメントⅠ (学校ビジョンと戦略)	13:00～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅡ (新しい時代の学校マネジメント実践)	13:00～17:00 講義・演習 リスクマネジメント	13:00～17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス (学校運営演習) 文部科学省	12:45～15:45 講義・演習 学校組織マネジメントⅤ (マネジメントの実践に向けて)
	北神 正行	藤原 和博			北神 正行
	16:00～17:00 学校運営演習				16:00～16:15 閉講式
	諸連絡	諸連絡	諸連絡	諸連絡	

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回校長マネジメント研修 【第388回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の校長等 小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者					
開 催 期 日	平成26年10月20日（月）～平成26年10月24日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	75	人	受講者数	103	参加率
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,535 人、参加率 90.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	90	87.4	12	11.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.0	103	
		102		99.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・他県の状況も知ることができ、またネットワークも広がり、大変有意義でした。 ・内容が濃く、中身が詰まった素晴らしい研修だったと思います。地方では聞くことの難しい講師の講演もあり、有意義な経験となったと思います。 ・講義の内容は新鮮で素晴らしいものでした。日頃の自分の取組を振り返るとともに、改善の方向を探る良い機会となりました。 ・「学校マネジメント」について、多角的に学ぶことができ、しかも実践的な内容で、戻ってすぐにでも取り組みたい内容ばかりであった。 ・それぞれのコマのねらい、手法は異なる部分がありますが、ベースとなる部分が共通で関連しており、効果的と感じたし、有意義でした。 ・講義だけでなく演習も組み込まれていて、主体的に研修に参加することができた。また、各県の校長と意見交換・交流ができて勉強になった。 ・グループで学ぶ内容にももう少しバリエーションがあると、より交流が深まり、得るものも多くなると思います。 ・時間の都合で説明が早口になり、メモが取りにくかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「校内指導体制の充実 ～道德教育・生徒指導等の充実～」を新設した。 ・「学校運営演習」の時間を拡充した。 次年度に向けて ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充する。 ・「班別協議」を新設し、研修成果の活用、普及、還元について協議する時間とする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度教職員等中央研修 第2回校長マネジメント研修

	10月20日(月)	10月21日(火)	10月22日(水)	10月23日(木)	10月24日(金)
		8:30～9:30 学校運営演習	8:30～9:30 学校運営演習	8:30～9:30 学校運営演習	8:30～10:00 講義
	受付				学校組織マネジメントⅣ (学校評価)
	9:00～10:00 オリエンテーション	9:45～11:45 講義・演習 校内指導体制の充実 (～道徳教育・生徒指導等の充実～)	9:45～11:45 講義・演習 リスクマネジメント	9:45～11:45 講義 学校組織マネジメントⅢ (教職員のメンタルヘルス)	浜田博文
	10:10～10:30 開講式			河村 茂雄	10:15～11:45 講義
	10:30～11:45 新しい時代の教育	押谷 由夫			リーダーシップとマネジメント ～民間に学ぶ～
	11:45～12:00 集合写真撮影				柴田 励司
	13:00～15:45 講義・演習 学校組織マネジメントⅠ (学校ビジョンと戦略)	13:00～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅡ (新しい時代の学校マネジメント実践)	13:00～17:00 講義・演習 リスクマネジメント	13:00～17:00 演習・協議 スクールコンプライアンス (学校運営演習) 文部科学省	12:45～15:45 講義・演習 学校組織マネジメントⅤ (マネジメントの実践に向けて)
	北神 正行	藤原 和博			北神 正行
	16:00～17:00 学校運営演習				16:00～16:15 閉講式
	諸連絡	諸連絡	諸連絡	諸連絡	

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修 【第384回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校・特別支援学校等の副校長・教頭等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。					
開 催 期 日	平成26年 7月23日（水）～平成26年 8月 8日（金）				17日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	75	人 参加率 75.0%
開 催 場 所	TKP博多駅前シティセンター（福岡県福岡市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,535 人、参加率 90.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	70	93.3	5	6.7	0	0.0	75
		75	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・今まで受けたことのない講義が多く、また、講義形式も多様で、中味の濃い研修でした。 ・今の教育、教育現場の課題に応じた広く深い内容、講師陣の充実には感動した。県の教育センター短研であれば、10年分の質量があったと感謝している。 ・内容が充実しており、学習したいと思っていたにもかかわらず、普段できなかった講義等ばかりでした。もっと若い間に受講したかったと思いました。 ・一度グループ協議をした後のレポートの書き直しは良かった。自分だけの見方で演習問題を見ていたので、違う視点から考え直すことができた。 ・中央研修を福岡で受講できることは、とても有難かったです。今後、全国に会場が移っていくかもしれませんが、貴重な機会に感謝しています。 ・福岡会場で、自宅から通いながら研修に参加でき、大変良かったです。福岡県以外の方の参加がもっと多くなれば、他県の方と交流できて、より有意義な研修になると思います。 ・持参物の「学校要覧」は大変困りました。本校は作っていないので。また、学校によって要覧に載せているものが異なりますし。「学校経営方針」とか「校務分掌組織」とか、具体的に指示してほしいです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ「道徳教育」を新設した。 ・児童相談所への相談件数、小・中・高校生の自殺者が共に増加傾向にあり、「児童虐待」「自殺予防」を選択講義から必修講義とした。 ・「研修講師となるための知識・技術」を60分→90分に拡充した。
次年度に向けて ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充する。 ・「学校組織マネジメントⅡ（人材育成とコーチング）」を180分→210分、「学校組織マネジメントⅣ（メンタルヘルスマネジメント）」を120分→150分、「学校組織マネジメント（戦略づくり）」を330分→375分に拡充。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修(福岡開催)

第1週	7月21日(月)	7月22日(火)	7月23日(水)	7月24日(木)	7月25日(金)	7月26日(土)	7月27日(日)
			9:30~9:50 受付	9:30~9:45 演習説明	9:30~14:45 教育法規Ⅱ		
			10:00~11:30 オリエンテーション	9:45~12:15 教育法規Ⅰ 加茂川 幸夫	三ツ角 直正		
			11:30~11:45写真撮影				
			13:00~13:20 開講式	13:30~15:30 防災管理	15:00~16:30 研修講師となるための 知識・技術		
			13:30~14:45 新しい時代の教育	佐藤 浩樹			
			15:00~16:30 特別講義 杉田 正明	15:45~16:30 実践研究			
第2週	7月28日(月)	7月29日(火)	7月30日(水)	7月31日(木)	8月1日(金)	8月2日(土)	8月3日(日)
	9:30~9:45 演習説明	9:30~11:30 道徳教育	9:30~11:30 実践研究	9:30~10:00 演習説明	9:30~16:30 リスクマネジメント		
	9:45~12:15 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 小松 郁夫	押谷 由夫		10:00~15:45 生徒指導 大坪 治彦			
	13:30~16:30 学校組織マネジメントⅡ (人材育成とコーチング) 武田 明典	12:45~15:15 特別支援教育 長澤 正樹	12:30~16:30 コミュニケーションカ 音楽座				
		15:30~16:30 実践研究		実践研究 16:00~16:30			
第3週	8月4日(月)	8月5日(火)	8月6日(水)	8月7日(木)	8月8日(金)	8月9日(土)	8月10日(日)
	9:30~11:30 メンタルヘルスマネジメント 藤原 忠雄	9:30~16:15 学校組織マネジメントⅢ (戦略づくり) 小林 清	9:30~9:45 演習説明	9:30~16:30 学校運営演習	9:30~16:00 学校運営演習		
	12:45~14:45 自殺予防 新井 肇		9:45~11:45 リーダーとなるために 小杉 俊哉				
	15:00~16:45 児童虐待 岡本 正子		13:00~16:30 学校マネジメント 藤原 和博		16:15~16:30 閉講式		
		16:15~16:30 演習説明					

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修 【第385回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校・特別支援学校等の副校長・教頭等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。							
開 催 期 日	平成26年 7月28日（月）～平成26年 8月13日（水）					17日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	100	人	参加率	100.0%
開 催 場 所	フォーラムエイト（東京都渋谷区）							

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,535 人、参加率 90.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	96	96.0	4	4.0	0	0.0	0	0.0	100
		100	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・ 講義と演習のバランスがとてもよく考えられていて、内容もよく工夫されていると思います。講師の先生方も非常にすばらしい方々ばかりなので、とても貴重な勉強と体験をさせていただきました。 ・ 今回、私たちはつくばではなく、東京会場での研修となりましたが、十分満足しています。通勤できる会場でよかったです。 ・ 全体として、リスクマネジメントなど演習時間が設定されていましたが、必要に応じて演習時間を多くとって、研修内容を深めたい課題もありました。 ・ 様々な立場の方が参加しているので、役職ごとのグループで意見交換できる場がほしかった。 ・ 学校運営演習を2日間設定してあるが、内容が法律で決まっていることなので、演習の問題そのもので協議することは少ない。内容的には、1日でよいのではないかと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ「道徳教育」を新設した。 ・ 児童相談所への相談件数、小・中・高校生の自殺者が共に増加傾向にあり、「児童虐待」「自殺予防」を選択講義から必修講義とした。 ・ 「研修講師となるための知識・技術」を60分→90分に拡充した。
次年度に向けて ・ 「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充する。 ・ 「学校組織マネジメントⅡ（人材育成とコーチング）」を180分→210分、「学校組織マネジメントⅣ（メンタルヘルスマネジメント）」を120分→150分、「学校組織マネジメント（戦略づくり）」を330分→375分に拡充。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修(東京開催)

第1週	7月28日(月)	7月29日(火)	7月30日(水)	7月31日(木)	8月1日(金)	8月2日(土)	8月3日(日)
	9:30～9:50 受付	9:30～9:45 演習説明	9:30～14:45 教育法規Ⅱ 山口 卓男	9:30～9:45 演習説明	9:30～11:30 道徳教育 七條 正典		
	10:00～11:30 オリエンテーション	9:45～12:15 教育法規Ⅰ 坂田 仰		9:45～12:15 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 岡田 行雄			
		11:30～11:45写真撮影		13:30～15:30 防災管理 渡邊 正樹	13:30～16:30 学校組織マネジメントⅡ (人材育成とコーチング) 武田 明典		
	13:00～13:20 開講式	15:00～16:30 研修講師となるための 知識・技術	音楽座				
	13:30～14:45 新しい時代の教育						
	15:00～16:30 特別講義 衣笠 祥雄			15:45～16:30 実践研究			
	第2週	8月4日(月)	8月5日(火)	8月6日(水)	8月7日(木)		
	9:30～10:00 演習説明	9:30～11:30 メンタルヘルスマネジメント	9:30～15:15 生徒指導 柳生 和男	9:30～16:15 学校組織マネジメントⅢ (戦略づくり) 浅野 良一	9:30～16:30 リスクマネジメント		
	10:00～12:30 特別支援教育 小林 倫代	12:45～14:45 自殺予防 内野 悌司		16:15～16:45 演習説明			
	13:45～16:30 実践研究						
第3週	8月11日(月)	8月12日(火)	8月13日(水)	8月14日(木)	8月15日(金)	8月16日(土)	8月17日(日)
	9:30～9:45 演習説明	9:30～16:30 学校運営演習	9:30～16:00 学校運営演習				
	9:45～11:45 リーダーとなるために 佐々木 常夫						
	13:00～16:30 学校マネジメント 藤原 和博						

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修 【第387回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	高等学校・特別支援学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。					
開 催 期 日	平成26年 9月24日（水）～平成26年10月10日（金）				17日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	120	人	受講者数	136	人 参加率 113.3%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,535 人、参加率 90.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	133	3	0	0	0	0	136
割合 (%)	97.8	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	136	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・これまでの私自身の教育活動を振り返るとともに、今後の教育活動の改善策を練る大変よい機会をいただきました。管理職研修全般には、大変満足させていただきました。 ・これ以上、日数は減らさず、全国ブロックに（分けたり）せず、中央研修を継続希望します。 ・学校運営演習のようなスタイルの他に、裁判になったような、現場で起こった事件・事故を題材にした法律上の話が聞けたら参考になると思いました。 ・危機管理の記者会見はとても緊張し、良い体験ができたが、その他にも最も多い学校事故や未然防止策の事例や対処による違いについて聞きたかった。 ・文科省の先生方から説明をいただくことはとても参考になりました。文科省の意図が知られることはとてもありがたいと思いました。 ・研修講師となるための知識・技術で、テキストに載っているが演習しなかった手法は、実際にやってみたかった。もう少し時間をとって、いろいろ演習できるとよいと感じた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ「道徳教育」を新設した。 ・児童相談所への相談件数、小・中・高校生の自殺者が共に増加傾向にあり、「児童虐待」「自殺予防」を選択講義から必修講義とした。
次年度に向けて ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充する。 ・研修期間中に3連休がある場合、土曜日を研修日とし、研修日数を確保しつつ、研修期間を短縮する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修

第1週	9月22日(月)	9月23日(火)	9月24日(水)	9月25日(木)	9月26日(金)	9月27日(土)	9月28日(日)
				8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究		
			9:30～9:50 受付	10:15～11:45 研修講師となるための知識・技術	9:15～14:45 教育法規Ⅱ		
			10:00～11:45 オリエンテーション		三ツ角 直正		
			13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ			
			13:30～14:45 新しい時代の教育 文部科学省	田中 壮一郎			
			14:45～15:15 写真撮影		15:00～17:00 自殺予防		
			15:30～17:00 特別講義 平尾 誠二	15:45～17:00 実践研究	新井 肇		
第2週	9月29日(月)	9月30日(火)	10月1日(水)	10月2日(木)	10月3日(金)	10月4日(土)	10月5日(日)
	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～17:00 リスクマネジメント		
	9:15～11:45 道徳教育 七條 正典	9:15～11:45 特別支援教育 尾崎 祐三	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 小松 郁夫	9:15～15:30 学校組織マネジメントⅡ (人材育成とコーチング) 嶋崎 政男			
	13:00～17:00 コミュニケーション力 音楽座	13:00～14:45 児童虐待 保坂 亨	13:00～15:30 メンタルヘルスマネジメント 河村 茂雄				
		15:00～17:00 防災管理 渡邊 正樹	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 教育と芸術 腰越・丸山			
第3週	10月6日(月)	10月7日(火)	10月8日(水)	10月9日(木)	10月10日(金)	10月11日(土)	10月12日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:30 班別協議	8:30～9:00 班別協議		
	9:15～15:30 生徒指導 桶谷 守	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅢ (戦略づくり) 北神 正行	9:45～17:00 学校運営演習	9:45～17:00 学校運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 國井 秀子		
					11:00～11:20 閉講式		
	15:45～17:00 実践研究						

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修 【第390回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の副校長・教頭等、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。					
開 催 期 日	平成27年 1月 6日（火）～平成27年 1月23日（金）				18日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	150	人	受講者数	188	人 参加率 125.3%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,535 人、参加率 90.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	180	95.7	7	3.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5		188
		187		99.5											

2. 研修内容に関する主な意見

・最先端で内容の濃い講義を聴くことができ、幸せに感じます。 ・1週間のスケジュールの組み方が大変効果的であったと思います。金曜日に山場があるような流れで、メリハリがあったよかったと思います。 ・学ぶ、考える、話し合う、振り返る等明確に示されており、その分課題意識を持って取り組むことができました。また音楽鑑賞でリラックスできる機会もあり、とてもバランスが良いと感じました。 ・文科省の講師の方々が非常にわかりやすく解説いただき、学校運営と法規との関連について、よく理解できました。 ・講義形式の研修も良いが、各校でかかえる問題点等話し合える時間をもう少し確保していただくと、より充実した研修となるような気がしました。 ・学力向上が本県・本校の最大の課題です。全国学力調査等の結果や上位県の取組等を踏まえた講座を開設していただくとありがたいです。OJTの推進についても、今後取り入れていただければ幸いです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ「道徳教育」を新設した。 ・児童相談所への相談件数、小・中・高校生の自殺者が共に増加傾向にあり、「児童虐待」「自殺予防」を選択講義から必修講義とした。 次年度に向けて ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充する。 ・研修期間中に3連休がある場合、土曜日を研修日とし、研修日数を確保しつつ、研修期間を短縮する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修

第1週	1月5日(月)	1月6日(火)	1月7日(水)	1月8日(木)	1月9日(金)	1月10日(土)	1月11日(日)
			8:30~10:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究		
		9:30~9:50 受付	10:15~11:45 研修講師となるための知識・技術	9:15~14:45 教育法規Ⅱ 山口 卓男	9:15~11:45 道德教育 七條 正典		
		10:00~11:45 オリエンテーション					
		13:00~13:20 開講式	13:00~15:30 教育法規Ⅰ 樋口 修資		13:00~17:00 コミュニケーション力 音楽座		
		13:30~14:45 新しい時代の教育 文部科学省					
		14:45~15:15 写真撮影		15:00~17:00 自殺予防 高橋 祥友			
		15:30~17:00 特別講義 大島 昌子	15:45~17:00 実践研究				
第2週	1月12日(月)	1月13日(火)	1月14日(水)	1月15日(木)	1月16日(金)	1月17日(土)	1月18日(日)
		8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:00 実践研究	8:30~17:00 リスクマネジメント		
		9:15~11:45 特別支援教育 澤田 真弓	9:15~11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 岡田 行雄	9:15~15:30 学校組織マネジメントⅡ (人材育成とコーチング) 嶋崎 政男			
		13:00~14:45 児童虐待 玉井 邦夫	13:00~15:30 メンタルヘルスマネジメント 河村 茂雄				
		15:00~17:00 防災管理 身崎 裕司	15:45~17:00 教育と芸術 清水良一・清水知子・伊坪淑子	15:45~17:00 実践研究			
第3週	1月19日(月)	1月20日(火)	1月21日(水)	1月22日(木)	1月23日(金)	1月24日(土)	1月25日(日)
	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 実践研究	8:30~9:30 実践研究	8:30~9:30 班別協議	8:30~9:00 班別協議		
	9:15~15:30 生徒指導 (小中 栗原 慎二) 保育的關係 (幼 神長 美津子)	9:15~17:00 学校組織マネジメントⅢ (戦略づくり) 浅野 良一	9:45~17:00 学校運営演習	9:45~17:00 学校運営演習	9:15~10:45 リーダーとなるために 木村 政雄		
					11:00~11:20 閉講式		
	15:45~17:00 実践研究						

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第5回副校長・教頭等研修 【第391回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校・特別支援学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。					
開 催 期 日	平成27年 1月 27日（火）～平成27年 2月13日（金）				18日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	130	人	受講者数	139	参加率 106.9%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,535 人、参加率 90.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	133	95.7	5	3.6	0	0.0	139
		138	99.3					

2. 研修内容に関する主な意見

・どの講義、演習も大変すばらしい講師で大変ありがたかった。本当に勉強になりました。各県、各校の実践の交流も大変よかった。 ・大変充実した講師の先生方でした。きちんとした根拠を持ち、よい研修ができました。 ・多くの身近な課題に即したグループ討議、演習、ロールプレイング等が適切に盛り込まれており、大変良かったです。個人的にはロールプレイングを多く取り入れ、実践的な力を身につけることは非常に効果的であると感じます。 ・教育実践や学校経営に関わる事例等をもとに演習をしていただき、心に残るものが多かった。地域や教職員に伝えるためにもさっそく自分自身で工夫を行い、学んだことを伝えたい。 ・子どもへの直接的な指導にかかわる内容については、臨床的内容や具体的な実例をもとに話を構成いただけるとありがたい。 ・講義のスタイルが、一方通行であると、受身になりがちなので、適宜、意見交換の時間を設けていただけるとよいと思います。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ「道徳教育」を新設する。 ・児童相談所への相談件数、小・中・高校生の自殺者が共に増加傾向にあり、「児童虐待」「自殺予防」を選択講義から必修講義とする。 次年度に向けて ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度教職員等中央研修 第5回副校長・教頭等研修

第1週	1月26日(月)	1月27日(火)	1月28日(水)	1月29日(木)	1月30日(金)	1月31日(土)	2月1日(日)					
			8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究							
		9:30～9:50 受付	10:15～11:45 研修講師となるための知識・技術	9:15～14:45 教育法規Ⅱ 清水 幹裕	9:15～11:45 道徳教育 藤永 芳純							
		10:00～11:45 オリエンテーション			13:00～17:00 コミュニケーション力 音楽座							
		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 惣脇 宏	15:00～17:00 自殺予防 内野 悌司								
		13:30～14:45 新しい時代の教育 文部科学省										
		14:45～15:15 写真撮影										
		15:30～17:00 特別講義 左野 勝司	15:45～17:00 実践研究									
第2週	2月2日(月)	2月3日(火)	2月4日(水)	2月5日(木)	2月6日(金)	2月7日(土)	2月8日(日)					
	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～17:00 リスクマネジメント							
	9:15～11:45 特別支援教育 長澤 正樹	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 小松 郁夫	9:15～15:30 学校組織マネジメントⅡ (人材育成とコーチング) 嶋崎 政男	9:15～15:30 生徒指導 桶谷 守								
	13:00～14:45 児童虐待 島 善信	13:00～15:30 メンタルヘルスマネジメント 河村 茂雄										
	15:00～17:00 防災管理 佐藤 浩樹	15:45～17:00 実践研究		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 教育と芸術 市川・竹澤・岩河							
第3週	2月9日(月)	2月10日(火)	2月11日(水)	2月12日(木)	2月13日(金)	2月14日(土)	2月15日(日)					
	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:30 実践研究		8:30～9:30 班別協議	8:30～9:00 班別協議							
	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅢ (戦略づくり) 北神 正行	9:45～17:00 学校運営演習		9:45～17:00 学校運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 小杉 俊哉							
					11:00～11:20 閉講式							

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回中堅教員研修 【第382回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭等で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者						
開 催 期 日	平成26年 6月 2日（月）～平成26年 6月26日（木）					25日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	170	人	受講者数	120	人	参加率 70.6%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,535 人、参加率 90.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	113	94.2	7	5.8	0	0.0	120
		120	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・多くの優秀な先生方と長期間過ごし、大変刺激になった。また、素晴らしい講師の先生の講義は、自分のこれからの教員人生に大きな力になると思った。
・日常では気づけない多くの教育の原点や本質に触れることができ、大変勉強になりました。
・同じ目的を持った仲間が集中して受講し協議できたことが、次の現場で生かせると思いました。
・全国の仲間と触れ合うことができた。また、校種を超えての発見が多かった。
・多岐に渡る分野の話がうまく組み込まれていたのも、現場を思い出しながら考えることができました。
・日頃聴くことのできない講師の方々の話は参考になりました。
・事前課題を殆ど使わない演習もあったので、活用できる演習内容・方法にしていただけたらと思います。
・小・中・高・特別支援と、校種のバランスは考えてほしい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・人材育成にかかるニーズの高まりから「コーチング」を新設した。
・道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ、「道徳教育」を150分→300分に拡充した。
次年度に向けて
・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度教職員等中央研修 第1回中堅教員研修

第1週	6月2日(月)	6月3日(火)	6月4日(水)	6月5日(木)	6月6日(金)	6月7日(土)	6月8日(日)
		8:30～10:00 オリエンテーション②	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
	9:30～9:50 受付		9:15～15:30 教育法規Ⅱ	9:15～15:30 学校組織マネジメントⅠ (教職員のメンタルヘルスマネジメント)	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅡ (学校評価)		
	10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 大桃 敏行	三ツ角 直正	諸富 祥彦	日永 龍彦		
	13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ			13:00～17:00 研修講師となるための の知識・技術		
	13:30～14:45 新しい時代の教育	坂田 仰			土屋 研 山尾 健一		
	14:45～15:15 写真撮影						
	15:30～17:00 特別講義 小川 三夫	15:45～17:00 班別協議	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第2週	6月9日(月)	6月10日(火)	6月11日(水)	6月12日(木)	6月13日(金)	6月14日(土)	6月15日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～17:00		
	9:15～11:45 人権教育 梅野 正信	9:15～15:30 キャリア教育 松井 賢二	9:15～11:45 道徳教育Ⅰ (小中 藤永 芳純) (高 横山 利弘)	9:15～11:45 道徳教育Ⅱ 押谷 由夫	リスクマネジメントⅡ (危機の未然防止方策)		
	13:00～17:00 学校組織マネジメントⅢ (コミュニケーション力) 音楽座		13:00～15:30 リスクマネジメントⅠ (リスクマネジメントの基礎知識) 阪根 健二	13:00～15:30 学校組織マネジメントⅣ (コーチング) 佐藤 敬子			
		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第3週	6月16日(月)	6月17日(火)	6月18日(水)	6月19日(木)	6月20日(金)	6月21日(土)	6月22日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
	9:15～15:30 特別支援教育 花輪 敏男	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 池田 幸也 藤本 勇二 高橋 純 鬼頭 英明	9:15～11:45 国際理解教育 多田 孝志	9:15～15:30 生徒指導Ⅱ 河村 茂雄	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅤ (戦略づくり) 加藤 崇英		
			13:00～15:30 生徒指導Ⅰ 柳生 和男				
	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 班別協議	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 教育と芸術 市川・竹澤・岩河			
第4週	6月23日(月)	6月24日(火)	6月25日(水)	6月26日(木)	6月27日(金)	6月28日(土)	6月29日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:30 班別協議	8:30～9:30 班別協議	8:30～9:00 班別協議			
	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅥ (ミドルリーダーの役割) 藤川 章	文部科学省	文部科学省	9:15～10:45 リーダーとなるために 黒岩 禅			
	13:00～17:00 学校運営演習 文部科学省			11:00～11:20 閉講式			

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回中堅教員研修 【第383回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	主として小学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭等で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者						
開 催 期 日	平成26年 7月22日（火）～平成26年 8月 8日（金）					18日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	280	人	受講者数	261	人	参加率 93.2%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,535 人、参加率 90.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	254	97.3	7	2.7	0	0.0	261
		261	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・全国からの先生方とともに学び会えたことが、かけがえのない財産となりました。 ・ミドルリーダーとしての役割や意義を認識し、学校改善の中核となる意欲がもてた。 ・教師であることの素晴らしさや責任を感じ、初心に戻ることができました。 ・講師陣、講義・演習内容共にすぐに役立つもの、今後継続して役立つものと大変充実していました。 ・法規等の見方等を班のメンバーから詳しく聞けたり、新たな教育の流れが確認できたりしました。 ・研修の前や研修中に出された事前課題や準備してきた資料を全く使わない講座があった。何のために多忙な時間をやりくりして準備してきたのか疑問である。 ・3週間と期間を短くしたため仕方なかったとは思いますが、事前課題が多くて、通常授業をしながら取り組むのは大変でした。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・3週間（夏季集中）プログラムに変更し日程を15日間とすることで、第2・3回中堅教員研修の日程を夏季休業期間内に収めた。 ・宿泊型研修のメリットを活かすために、研修期間中、土曜日を研修日（期間中1回）とした。 次年度に向けて ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充する。 ・人材育成のニーズを受け、3週間（夏季集中）プログラムにおいても、「コーチング」を新設する。 ・研修期間中に3連休がある場合、土曜日を研修日とし、研修日数を確保しつつ、研修期間を短縮する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度教職員等中央研修 第2回中堅教員研修

第1週	7月21日(月)	7月22日(火)	7月23日(水)	7月24日(木)	7月25日(金)	7月26日(土)	7月27日(日)
			8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:30 演習準備	
		9:30～9:50 受付	10:15～11:45 地方教育行財政制度	9:15～15:30 教育法規Ⅱ 清水 幹裕	9:15～11:45 人権教育 有村 久春	9:45～14:30 テーマ協議	
		10:00～11:45 オリエンテーション					
		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ		13:00～15:30 特別支援教育		
		13:30～14:45 新しい時代の教育	坂田 仰		長澤 正樹	14:45～16:00 実践研究	
		14:45～15:15 写真撮影					
		15:30～17:00 特別講義 童門 冬二	15:45～17:00 班別協議	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	16:15～17:00 振り返り	
第2週	7月28日(月)	7月29日(火)	7月30日(水)	7月31日(木)	8月1日(金)	8月2日(土)	8月3日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～17:00	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
	9:15～11:45 道徳教育 谷田 増幸	9:15～11:45 キャリア教育 藤田 晃之	リスクマネジメントⅡ (危機の未然防止方策)	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅡ (学校評価) 天笠 茂	9:15～15:30 生徒指導 平松 義樹		
	13:00～17:00 学校組織マネジメントⅠ (コミュニケーション力) 音楽座	13:00～15:30 リスクマネジメントⅠ (リスクマネジメントの基礎知識) 飯野 真幸		13:00～17:00 学校組織マネジメントⅢ (教職員のメンタルヘルスマネジメント) 諸富 祥彦			
		15:45～17:00 実践研究			15:45～17:00 教育と芸術 村上・土屋		
第3週	8月4日(月)	8月5日(火)	8月6日(水)	8月7日(木)	8月8日(金)		
	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:30 班別協議	8:30～9:30 班別協議	8:30～9:30 班別協議		
	9:15～11:45 国際理解教育 佐藤 郡衛	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅤ (戦略作り) 加藤 崇英	9:45～17:00 学校運営演習 文部科学省	9:45～17:00 学校運営演習 文部科学省	9:45～11:45 研修講師となるための 知識・技術		
	13:00～15:30 学校組織マネジメントⅣ (ミドルリーダーの役割) 西留 安雄				13:00～14:30 リーダーとなるために 酒巻 久		
	15:45～17:00 実践研究 演習準備				14:45～15:00 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第3回中堅教員研修 【第386回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	主として中学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭等で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者					
開 催 期 日	平成26年 8月12日（火）～平成26年 8月29日（金）				18日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	250	人	受講者数	183	人 参加率 73.2%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,535 人、参加率 90.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	179	97.8	3	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	183	
		182		99.5											

2. 研修内容に関する主な意見

・素晴らしい講師の先生方、充実した研修内容でした。 ・本当に沢山のことが学べました。自分自身で意識が変わったと思います。自分の中に宝物ができました。 ・まさに中堅教員としての自覚を十分に促していただけるものだった。 ・現場ですぐ生かせるものと、自分の資質向上のものと両方あった。 ・リスクマネジメントはとても緊張感のあるものでした。知る・わかるところまでで精一杯だったので、もう少し時間をとって現場を想定して、いくつかの事例を取り上げ、グループで対応を検討することができたらいいなと思いました。 ・学校現場のことを考えると、夏休み中に終わる方がよいと思いますが、研修の内容や貴重な機会であることを考えると、4週間あった方がよいと感じました。 ・今年度新設された「コーチング」が第3回中堅教員研修で削られてしまったことが、非常に残念でした。期間を短縮したことが理由かと思いますが、検討していただきたいです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・3週間（夏季集中）プログラムに変更し日程を15日間とすることで、第2・3回中堅教員研修の日程を夏季休業期間内に収めた。 ・宿泊型研修のメリットを活かすために、研修期間中、土曜日を研修日（期間中1回）とした。 次年度に向けて ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充する。 ・人材育成のニーズを受け、3週間（夏季集中）プログラムにおいても、「コーチング」を新設する。 ・研修期間中に3連休がある場合、土曜日を研修日とし、研修日数を確保しつつ、研修期間を短縮する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度教職員等中央研修 第3回中堅教員研修

第1週	8月11日(月)	8月12日(火)	8月13日(水)	8月14日(木)	8月15日(金)	8月16日(土)	8月17日(日)
			8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:30 演習準備	
		9:30～9:50 受付	10:15～11:45 地方教育行財政制度	9:15～15:30 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 キャリア教育	9:45～14:30 テーマ協議	
		10:00～11:45 オリエンテーション	大桃 敏行	三ツ角 直正	藤田 晃之		
		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ		13:00～17:00 学校組織マネジメントⅠ (教職員のメンタル ヘルスマネジメント)	14:45～16:00 実践研究	
		13:30～14:45 新しい時代の教育	樋口 修資		諸富 祥彦	16:15～17:00 振り返り	
		14:45～15:15 写真撮影		15:45～17:00 実践研究			
		15:30～17:00 特別講義 竹内 一郎	15:45～17:00 班別協議				
第2週	8月18日(月)	8月19日(火)	8月20日(水)	8月21日(木)	8月22日(金)	8月23日(土)	8月24日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～17:00		
	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅢ (学校評価)	9:15～11:45 人権教育	9:15～15:30 生徒指導	9:15～11:45 道徳教育	リスクマネジメントⅡ (危機の未然防止方策)		
	天笠 茂	有村 久春	平松 義樹	谷田 増幸			
	13:00～17:00 学校組織マネジメントⅡ (コミュニケーション力)	13:00～15:30 特別支援教育		13:00～15:30 リスクマネジメントⅠ (リスクマネジメントの基礎知識)			
	音楽座	曾山 和彦		飯野 眞幸			
		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 教育と芸術 腰越・丸山	15:45～17:00 実践研究			
第3週	8月25日(月)	8月26日(火)	8月27日(水)	8月28日(木)	8月29日(金)		
	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:30 班別協議	8:30～9:30 班別協議	8:30～9:30 班別協議		
	9:15～11:45 国際理解教育	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅤ (戦略作り)	9:45～17:00 学校運営演習	9:45～17:00 学校運営演習	9:45～11:45 研修講師となるための 知識・技術		
	多田 孝志	加藤 崇英	文部科学省	文部科学省			
	13:00～15:30 学校組織マネジメントⅣ (ミドルリーダーの役割)				13:00～14:30 リーダーとなるために		
	藤川 章				大竹 美喜		
	15:45～17:00 実践研究 演習準備				14:45～15:00 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回中堅教員研修 【第389回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度で専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭等で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者					
開 催 期 日	平成26年11月17日（月）～平成26年12月12日（金）				26日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	250	人	受講者数	176	人 参加率 70.4%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,700 人、受講者数 1,535 人、参加率 90.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	167	94.9	9	5.1	0	0.0	176
		176	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・学校現場に戻り、還元できそうな研修がとて多かった。人との出会いが財産となった。 ・後半になって気づいたことですが、全ての講義が系統だてて設けられていて、一流の講義内容だったので、受講できたことを心から感謝しています。 ・同じような立場の全国の皆さんと一緒に研修できたのは良かった。県という単位の教師ではなく、一人の日本の教師としてしっかりしなければいけないと感じました。 ・リスクマネジメントの演習は、日常では体験できない緊張や焦りを感じることができ、そこから得るものは大きかった。 ・なんとなく捉えていた諸々の教育課題が鮮明になった。 ・毎日の講義・演習が中身が濃すぎて、咀嚼しきれないうちに次の講義があるという感じだった。振り返りの時間を班で与えていただくと、情報交換できて、より理解が深まったような気がします。 ・研修を終え各都道府県で活用していく上で、どうしても講師の方々のプロフェッショナルな内容まで伝えきれないと、不安が大きかった。活用計画書に沿った計画を助ける素材が欲しいなあとと思った。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・人材育成にかかるニーズの高まりから「コーチング」を新設した。 ・道徳の教科化に向けた国の動向を踏まえ、「道徳教育」を150分→300分に拡充した。 次年度に向けて ・「新しい時代の教育」について、男女共同参画に係る学内マネジメントと指導の内容を含め、75分→85分に拡充する。 ・研修期間中に3連休がある場合、土曜日を研修日とし、研修日数を確保しつつ、研修期間を短縮する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度教職員等中央研修 第4回中堅教員研修

第1週	11月17日(月)	11月18日(火)	11月19日(水)	11月20日(木)	11月21日(金)	11月22日(土)	11月23日(日)
		8:30~10:00 オリエンテーション	8:30~9:00 演習準備	8:30~9:00 演習準備	8:30~9:00 演習準備		
	9:30~9:50 受付		9:15~15:30 教育法規Ⅱ	9:15~15:30 キャリア教育	9:15~11:45 人権教育		
	10:00~11:45 オリエンテーション	10:15~11:45 地方教育行財政制度 尾崎 春樹	清水 幹裕	中許 善弘	有村 久春		
	13:00~13:20 開講式	13:00~15:30 教育法規Ⅰ			13:00~17:00 研修講師となるための知識・技術		
	13:30~14:45 新しい時代の教育	伊勢呂 裕史					
	14:45~15:15 写真撮影						
	15:30~17:00 特別講義 安田 泰敏	15:45~17:00 班別協議	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究			
第2週	11月24日(月)	11月25日(火)	11月26日(水)	11月27日(木)	11月28日(金)	11月29日(土)	11月30日(日)
		8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 演習準備	8:30~9:00 演習準備	8:30~9:00 演習準備		
		9:15~15:30 学校組織マネジメントⅠ (教職員のメンタルヘルスマネジメント) 諸富 祥彦	9:15~15:30 特別支援教育 花輪 敏男	9:15~11:45 道徳教育Ⅰ (小中 柴原 弘志) (高 藤永 芳純)	9:15~11:45 道徳教育Ⅱ 押谷 由夫		
				13:00~15:30 学校組織マネジメントⅡ (コーチング) 佐藤 敬子	13:00~15:30 生徒指導Ⅰ (小中 大坪 治彦) (高 柳生 和男)		
		15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究	15:45~17:00 実践研究		
第3週	12月1日(月)	12月2日(火)	12月3日(水)	12月4日(木)	12月5日(金)	12月6日(土)	12月7日(日)
	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 演習準備	8:30~9:00 演習準備	8:30~9:00 演習準備	8:30~17:00		
	9:15~11:45 国際理解教育 音楽座	9:15~15:30 生徒指導Ⅱ	9:15~15:30 特色あるカリキュラム編成	9:15~11:45 学校組織マネジメントⅣ (学校評価) 阪根 健二	リスクマネジメントⅡ (危機の未然防止方策)		
		15:45~17:00 教育と芸術 家田・金井	15:45~17:00 班別協議	15:45~17:00 実践研究			
第4週	12月8日(月)	12月9日(火)	12月10日(水)	12月11日(木)	12月12日(金)	12月13日(土)	12月14日(日)
	8:30~9:00 オリエンテーション	8:30~9:00 演習準備	8:30~9:30 班別協議	8:30~9:30 班別協議	8:30~9:00 班別協議		
	9:15~17:00 学校組織マネジメントⅤ (戦略づくり) 加藤 崇英	9:15~11:45 学校組織マネジメントⅥ (ミドルリーダーの役割) 藤川 章	9:45~17:00 学校運営演習 文部科学省	9:45~17:00 学校運営演習 文部科学省	9:15~10:45 リーダーとなるために 浦野光人		
					11:00~11:20 閉講式		
		13:00~17:00 学校運営演習 文部科学省					

I 研修概要

研 修 名	英語教育海外派遣研修					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ					
研 修 目 的	各地域において英語教育を推進する中核的教員を海外に派遣し、英語教育に関する指導方法等についての実践的な研究、大学等での専門的な授業及び実生活を通じ、確かな知識の習得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修に活かし、各域内全体の英語教育の改善に資する。					
受 講 対 象	以下の者であって、かつ健康で海外における所定の期間の研修及び生活に適応できる者 ①中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の英語科教員 ②都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ③50歳以下の者で、英語教育を推進する中核的教員又は中核的教員として活躍が期待される者(年齢は平成26年度末現在) ④過去に文部科学省又はセンターが実施した教職員等海外派遣研修により派遣されたことがない者					
開 催 期 日	別紙の通り			別紙の通り		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	30	人 参加率 100.0%
開 催 場 所	別紙のとおり					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	27	3	0	0	0	0	30
割合 (%)	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

本当に素晴らしい講師の先生に出逢えました。私たちの抱える課題をよく理解されているので、どの授業も実践的なものばかりでした。与えられるだけではなく、それらをどのように実践していけるのか、よく考え、プレゼン後には、詳細なフィードバックをいただきました。 参加者10名が英語でコミュニケーションすることに同意し、それを2ヶ月間やり遂げられたことは非常に大きな成果だった。講師の先生も、そこを大きく評価してくださいました。 常に私たちの本来の目的に近づくように、授業を工夫・改善していただいた。 今回から、ホームステイが先で、大学寮が後という形式になったとうかがいました。そのように変更していただき、本当に良かったと感謝しております。大学寮に入ってからホストファミリーとは交流できましたし、後半の方が授業内容が忙しいので、集中して取り組みました。 「質」には満足でしたが、せっかくの機会なので、もっと「量」がほしかったです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・助言講師からの生活面、大学研修面についての説明時間が短いという指摘があったため、60分から100分に変更した。 ・事後研修会での模擬授業形式について、単なる活用事例の発表ではなく、今後どのように活用した教授法を発展させるのかといった内容も盛り込ませた内容の形式に変更した。
次年度に向けて ・カリキュラム等検討会議での調査官の意見を受け、事前研修会や事後研修会の発表等は、使用言語を日本語から英語に統一し、研修参加者が研修に対する意識の向上を図るようにする。 ・事前研修会の講義で、質疑応答の時間があつた方が良いとの意見を受けて、講義後に質疑応答の時間を設けた日程構成に変更する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成26年度英語教育海外派遣研修

派遣国	大学名	参加人数	事前研修会	派遣期間	日数	事後研修会
イギリス	エクセター大学	10	5/8(木)～9(金) 教員研修センター (茨城県つくば市)	6/21(土)～8/18(月)	59	11/27(木)～28(金) 教員研修センター (茨城県つくば市)
	バーミンガム大学	9		7/18(金)～9/14(日)	59	
	デンバー大学	11		7/13(日)～9/9(火)	59	
計		30				

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第1回）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、マネジメントの基礎・基本を身に付け、的確な現状把握に基づいた戦略を構築し、学校の資源を活用することができる学校組織マネジメントを推進する指導者を養成することを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実・研修企画を担当している者並びにそれに準ずる者 幼稚園の園長、副園長並びに小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成26年 9月29日（月）～平成26年10月 3日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	133	人	参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員（全体計画人数） 540 人、 受講者数 557 人、 参加率 103.1%
※ 第1回～第2回 受講定員 220 人、 受講者数 251 人、 参加率 114.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	120	90.2	13	9.8	0	0.0	0	0.0	133
		133	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・ 講義とともに、他県の先生方とのネットワークを構築することができ、大変有意義でした。 ・ 演習を体験できたのは今後の講座運営に役立ち、大変有意義だった。 ・ 現場の教諭であったとき、成果があった時・なかった時の理論的な裏づけを知ることができたので、理論と経験を結びつけた組織マネジメントを実践したい。 ・ 講義と演習のバランスの大切さを感じた。どちらか1つばかりではどうしても研修の充実につながらないと思った。自分の講座の参考にしたい。 ・ 7～10日間の余裕ある日程で研修したかった。 ・ 全国の先生方が一堂に会する貴重な機会が得られるので、各県の有効かつユニークな取り組み等を、学校組織マネジメントの観点から発表し合うことで、考察し合い、現場の戦術を模索する活動などにも有効ではないかと考える。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 初日の民間人講師による講義の時間を短縮し、オリエンテーションや、受講者の協議の時間に充てた。
次年度に向けて ・ 研修第2日目「学校経営の基本」で、過去の受講者による実践発表の時間を増やし、受講者が指導者として活動する実態をつかみやすくする。 ・ 研修第5日目「研修企画書の検討」を新設し、指導計画案の発表・指導講評の充実を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第1回) 日程表

第1回 平成26年9月29日～10月3日

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
9月29日		受付 (30)	オリエンテー ション(1) 主任指導主 事 (50)	開 講 式	講義 教育改革の動向 講師:文部科学省初 等中等教育局視学 官 杉田 洋 (75)	屋食・休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～民間の組織経営に学ぶ～ 株式会社イマージェンス 代表取締役 桑畑 英紀 (120)	休憩	協議 学校組織マネジメント上 での課題の分析(1) 主任指導主事 (90)								
9月30日	協議 学校組織マネジ メント上での課 題の分析(2) 主任指導主事 (60)	休 憩	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー教員にとってのマ ネジメントの課題～ 国士館大学教授 北神 正行 (135)	屋食・休憩	実践発表 マネジメントの改善 発表者 大府市立東山小学校長 小 竹 紀代子 上越市立牧中学校長 岩城 淑樹 講評:国士館大学教授 北神 正行 (105)	休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子 (120)										
	演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学教授 浅野 良一 (210)	屋食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学教授 浅野 良一 (240)														
10月2日	講義・演習 特色ある学校づくりのための財務マネジメント 茨城大学准教授 加藤 崇英 (165)	休憩	演習 学校組織マネジ メントの指導計 画案の作成 主任指導主事 (60)	屋食・休憩	講義・演習 やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソー スマネジメント 早稲田大学教授 河村 茂雄 (210)												
10月3日	オリエン テーション (2)	協議・講義 学校組織マネジメントの指導者となるために 高崎経済大学講師 飯野 真幸 (210)	閉 講 式														

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第2回）					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、マネジメントの基礎・基本を身に付け、的確な現状把握に基づいた戦略を構築し、学校の資源を活用することができる学校組織マネジメントを推進する指導者を養成することを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実・研修企画を担当している者並びにそれに準ずる者 幼稚園の園長、副園長並びに小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成26年10月27日（月）～平成26年10月31日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	118	人
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 540 人、受講者数 557 人、参加率 103.1%
(全体計画人数)

※ 第1回～第2回 220 人、受講者数 251 人、参加率 114.1%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	114	4	0	0	0	0	118
割合 (%)	96.6	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	118	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・ 今後に生かせる、とても良い研修でした。 ・ 学校組織マネジメントの具体的な方策について学ぶことができ、業務に生かす見通しをもった。 ・ 体系的に理解することができ、今まで苦慮していた原因と解釈の手立てが見えた。是非、同じ悩みをもつ方たちに伝えていきたいと思う。 ・ 学校の核となる部分について、様々な切り口で学ぶことができた。 ・ 教育改革の最新動向は有益でした。自分自身のポジションと今後何をなすべきかを理解することができました。同様の講義を続けてほしいと思います。 ・ メンタルヘルスマネジメントについては、具体的な事例から対応の方法について学べるものにしていただきたい。 ・ 演習の時間をもっと増やしていただけるといいかと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 初日の民間人講師による講義の時間を短縮し、オリエンテーションや、受講者の協議の時間に充てる。
次年度に向けて ・ 研修第2日目「学校経営の基本」で、過去の受講者による実践発表の時間を増やし、受講者が指導者として活動する実態をつかみやすくする。 ・ 研修第5日目「研修企画書の検討」を新設し、指導計画案の発表・指導講評の充実を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第2回) 日程表

第2回 平成26年10月27日～10月31日

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
10月27日		受付 (30)	オリエンテーション(1) 主任指導主事 (50)	開講式	講義 教育改革の動向 講師：文部科学省初等中等教育局視学官 中尾 敏朗 (75)	屋食・休憩	講義 リーダーシップとマネジメント～民間の組織経営に学ぶ～ 株式会社イマージェンス代表取締役 桑畑 英紀 (120)	休憩	協議 学校組織マネジメント上の課題の分析(1) 主任指導主事 (90)								
10月28日	協議 学校組織マネジメント上の課題の分析(2) 主任指導主事 (60)		講義 学校経営の基本～管理職とリーダー教員にとってのマネジメントの課題～ 国士館大学教授 北神 正行 (135)		屋食・休憩	実践発表 マネジメントの改善 発表者 一宮市立大和中学校長 山田 貞二 上越市立直江津小学校校長 吉越 勉 講評：国士館大学教授 北神 正行 (105)	講義 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子 (120)										
10月29日	演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学教授 浅野 良一 (210)				屋食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学教授 浅野 良一 (240)											
10月30日	講義・演習 やる気を引き出す教員集団づくりのためのヒューマンリソースマネジメント 早稲田大学教授 河村 茂雄 (210)				屋食・休憩	講義・演習 特色ある学校づくりのための財務マネジメント 茨城大学准教授 加藤 崇英 (165)		演習 学校組織マネジメントの指導計画の作成 主任指導主事 (60)									
10月31日	オリエンテーション(2)	協議・講義 学校組織マネジメントの指導者となるために 高崎経済大学講師 飯野 眞幸 (210)	閉講式														

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第3回）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。							
受 講 対 象	高等学校及び特別支援学校の事務長及び同等の事務職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成26年11月10日（月）～平成26年11月14日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	160	人	受講者数	123	人	参加率	76.9%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 540 人、 受講者数 557 人、 参加率 103.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	80	65.0	43	35.0	0	0.0	123
		123	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・学校組織として、事務長、事務部も攻めのマネジメントの姿勢で学校経営に参画することの重要性を理解し、大変有意義だった。現実では、事務負担増等の問題への対応にどう関わっていくかなど、今後自校で検討していきたいと思う。 ・なぜ特色ある学校づくりが必要で、なぜ組織マネジメントが必要なのか、なぜ学校評議員や外部評価が必要なのかについて、体系的に理解することができたと思う。躊躇していた教育活動への参画について意欲が高まった。 ・日本全国から集まった同じ仕事をしている人の意見を聞いたことは非常に有意義だった。共感できる部分もあるし、考えられない発想で取り組んでおられる部分もあった。また、ノウハウだけではなく考え方や取り組み方についても、この研修に参加しなければ会得できないところもあり、大変有意義だった。 ・SWOT分析は、自校の課題についての再認識・気づきに特に有効な手段だと感じた。 ・学校組織マネジメントについては大いに理解が深まったが、学校事務に対してどう活かすのかが大変難しかった。もっと成功事例を聞いてみたかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・受講生の更なるレベルアップを図るため、各コマ後の振り返りシートの作成、発表時の評価シートの作成、個人での学校改善シートの作成など、新たな課題を複数課した。
次年度に向けて ・引き続き、受講生の参加率改善を目指し、自治体等への働きかけ、魅力的な研修内容の構築及び講師の獲得に努める。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第3回) 日程表
～高等学校事務職員～

		9:30	10:00	10:35	11:45	12:45	14:15	14:30	14:45	【第2研修棟2階】		17:00
		9:30	10:00	10:35	11:45	12:45	14:15	14:30	14:45	【第2研修棟2階】		17:00
11月10日(月)		受付	オリエンテーション 開講式	講義1 「教育改革の動向について」 文部科学省初等中等教育局視学官 (伊生) 酒井 貢 目的: 最新の教育改革等について理解を深める	屋 休 食 憩	屋 休 食 憩	講義2 「学習指導要領とこれからの学校運営」 文部科学省初等中等教育局視学官 長尾 篤志 目的: 学習指導要領の理念や内容について理解を深める	休 憩	演 習 説明	演習1 「自校の取組」 目的: 他校の特色ある取組について共有する		【第2研修棟2階】
11月11日(火)		受付	講義3 「信頼される開かれた学校づくりのために」 千葉大学教育学部教授 天笠 茂 目的: 学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえ、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深める	屋 休 食 憩	屋 休 食 憩	講義・演習1 「学校組織マネジメント①」 教育改革実践家 杉並区立和田中学校・元校長 藤原 和博 目的: 学校組織マネジメントの実践について					【講堂】	
11月12日(水)		受付	講義・演習2 「学校組織マネジメント②」 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 准教授 大野 裕己 目的: 各地域で取り組まれている教育改革に係る学校運営の事例を知る	屋 休 食 憩	屋 休 食 憩	事例発表 「特色ある学校運営の取組」 ①【第2研修棟2階】 千葉県立東葉崎高等学校 事務主幹 高村 孝一郎 ②【第2研修棟2階】 埼玉県立児玉白鳩高等学校 事務室長 青木 一夫 ③【特別研修棟研修室B】 東京都立久我山青光学園 経営企画室長 遠藤 通代 目的: 特色ある学校運営の事例を知るとともに、事務職員が持つ課題解決の手がかりを探る	休 憩	休 憩	演習2 「学校運営を支える事務長の役割」 目的: 学校運営における事務職員の役割について振り返る		【班別会場】	
11月13日(木)		受付	講義・演習3 「学校組織マネジメント③」 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 笠沙 知章 目的: 学校組織マネジメントによる望ましい学校運営を図るための検討方法について具体的に理解を深める	屋 休 食 憩	屋 休 食 憩	演習3 「学校運営を支える事務長の役割」 (指導助言者) 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 藤原 文雄 目的: 学校運営における課題に対する解決方法を検討するとともに、今後の学校事務職員の役割を整理する	【分科会発表】		【分科会発表】		【分科会別会場】	
11月14日(金)		受付	演習4 「学校運営を支える事務長の役割」 (指導助言者) 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 藤原 文雄 【全体発表】	休 憩	休 憩	講義4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 主任視学官 清原 洋一 閉講式	【演習3・4 指導助言者】 東京都立小山台高等学校 経営企画室長 原 ととき枝 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 主査兼事務長 秋田 剛 茨城県立つくば特別支援学校 事務長 富田 英明 茨城県立水戸特別支援学校 主査兼事務長 榎 元 千葉県立船橋法典高等学校 事務長 太田 秀男					

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第4回）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。						
受 講 対 象	小学校及び中学校の事務長及びそれに準じる者であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等として、活動を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成27年2月23日（月）～平成27年2月27日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	160	人	受講者数	183	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 540 人、受講者数 557 人、参加率 103.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	150	29	1	0	3	0	183
割合 (%)	82.0	15.8	0.5	0.0	1.6	0.0	
	179	97.8					

2. 研修内容に関する主な意見

・学校組織マネジメントの仕組み全体を学ぶことができ、大変有意義な研修だった。制度や社会の変化に伴う「学校の生き残り」のための手法が学校組織マネジメントであり、コミュニケーションや評価（PDCA）方法、分析（SWOT）方法、ロードマップ（ビジョン・ミッション）など、基礎から実践までの演習を受けられたことがよかったと感じた。 ・前の講義が後の講義・演習に効き、段々理解していける系統だったカリキュラムが大変良かった。ひとつひとつの講義も素晴らしくとても有意義な5日間だった。 ・最新の教育情報伝達から始まり、学校組織マネジメントの定義及び手法、そして課題演習と、系統的で実効性の高い研修だった。まずは共同実施の導入及び本校事務部の年間経営計画を提案していきたい。 ・受講前は主に事務組織の中での活用を意識していたが、“学校”をより意識することができ、“学校組織マネジメント”について校内でもっと活用していきたいと思った。 ・研修内容が充実していて自分が変わるきっかけをいただいた。県外の方との交流もでき、仲間ができた。今回学び、受けた刺激を継続できるよう、地域や学校で活かせるよう、今の気持ちを大切にしたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・受講生の更なるレベルアップを図るため、各コマ後の振り返りシートの作成、発表時の評価シートの作成、個人での学校改善シートの作成など、新たな課題を複数課した。 ・受講生の更なるレベルアップを図るため、研修内容を高校学校・特別支援学校対象研修と同じ内容に引き上げた（例年、分科会発表で終わっていたところ、全体発表まで実施する）。 ・運営で入っていただく事務職員協会にお願いし、全分科会に指導助言者を配置していただいた（例年数人足りなかったところ）。 次年度に向けて ・上記のとおり、今年度、研修内容を高校と同じ内容に引き上げたところだが（例年、分科会発表で終わっていたところ、高校学校・特別支援学校対象研修と同様全体発表まで実施）、演習における協議時間が足りないという意見が多数あったため、演習時間の確保を検討する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第4回) 日程表

～小・中学校事務職員～

9:30		10:00	10:35	【第2研修棟2階】		11:45	12:45	【第2研修棟2階】		14:15	14:30	14:45	【第2研修棟2階】		17:00
受付		オリエンテーション 開講式		講義1 「教育改革の動向について」 文部科学省初等中等教育局視学官 (伊生) 進学政策局情報教育課情報教育振興室長 酒井 貢 目的: 最新の教育改革等について理解を深める		休	講義2 「学習指導要領とこれからの学校運営」 文部科学省初等中等教育局視学官 長尾 篤志 目的: 学習指導要領の理念や内容を踏まえ、今後の学校運営の在り方について理解を深める	休	演習1 「自校の取組」 演習説明	休		演習1 「自校の取組」 演習説明	休		目的: 他校の特色ある取組について共有する

9:00		11:45		12:45		17:00	
【第2研修棟2階】		【第2研修棟2階】		【第2研修棟2階】		【第2研修棟2階】	
講義3 「信頼される開かれた学校づくりのために」 九州大学大学院人間環境学研究院 教授 元兼 正浩		屋 休 食 憩		講義・演習1 「学校組織マネジメント①」 教育改革実践家 杉並区立和田中学校・元校長 藤原 和博		目的: 学校組織マネジメントの実際について理解を深める	
受 付							
2月24日(火)							

		9:00	12:00	13:00	14:50	15:05	17:00
		【第2研修棟2階】		【第2研修棟2階】		【分科会別会場】	
2月25日(水)	受	講義・演習2 「学校組織マネジメント②」 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 准教授 大野 裕己 目的: 学校組織マネジメントの発想・枠組みについて理解を深めるとともに、組織の環境分析手法の一つであるSWOT分析の基本的な手法を習得する	休	事例発表 「特色ある学校運営の取組」	休	演習2 「学校運営を支える学校事務職員の役割」	目的: 学校運営における事務職員の役割について振り返る
	付			事例発表① 宇都宮市立一条中学校 事務長 一条地域学校園 事務室長 樋口 良広 事例発表② 長岡市立南中学校 総括事務主幹 中島 裕子 目的: 特色ある学校運営の事例を知るとともに、事務職員が持つ課題解決の手がかりを探る			

		8:30	11:15	11:30	12:30	14:50	15:05	17:00
		【第2研修棟2階】				休 憩		【分科会別会場】
2月26日(木)	受付	講義・演習3 「学校組織マネジメント③」 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 笠沙 知章 目的:学校組織マネジメントによる望ましい学校運営を図るための検討方法について、具体的に理解を深める		演 習 説 明	屋 休 食 憩	演習3 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 (指導助言者) 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 藤原 文雄		【分科会発表】
						目的:学校運営における課題に対する解決方法を検討するとともに、今後の学校事務職員の役割を整理する		

		8:30	10:30	10:45	11:25	12:15	12:35
		休憩		【第2研修棟2階】		【第2研修棟2階】	
2月27日(金)	受付	演習4 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 (指導助言者) 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 藤原 文雄		講義4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 視学官 杉田 洋		休憩(5分)	
		【全体発表】		閉講式			

【演習3・4 指導助言者】
芦屋市立瀬見中学校 学校副主幹 鳥本 安博
磐田市立城山中学校 統括事務主幹 横山 泉
盛岡市立昇前中学校 事務主任 阿部 貴子
川口市立新郷南小学校 事務主査 荻野 恵美
名古屋市中神田区立神田中学校 主査 幸島 克昌
加須市立東中学校 事務主幹 長倉 久登
嵐山町立花崎北小学校 事務主幹 前田 由美子
嵐山町立菅谷中学校 事務主幹 前田 雄仁

I 研修概要

研 修 名	言語活動指導者養成研修（国語力向上指導者養成研修）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	学習指導要領の改訂を踏まえ、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、本研修を踏まえた各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭（特に研修主任や研究主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成26年10月15日（水）～平成26年10月17日（金）					3 日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	220	人	受講者数	198	人	参加率	90.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	190	96.0	8	4.0	0	0.0	0	0.0	198
		198	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・講義も演習も学ぶことができてよかった内容ばかりであった。特に2日目の演習では、1つの指導案をベースにした検討に教科調査官の先生に入っていただき、何をどのように捉えるのか、どこに重点を置くべきなのかを助言していただいたり、同じグループの方々と力を合わせて課題に取り組むことができたりした。 ・今後育成すべき資質・能力について、大きなビジョン、方向性を示していただいたことで、言語活動を充実させる意義がよく分かった。教師のしいたルールに子供を乗せるのではなく、子供が主体的に言語活動を進めていけるように授業をつくっていききたい。 ・言語活動の意義がよく理解できた。どうして言語活動の充実が必要なのが納得できたことは、研修に取り組む意欲につながると感じた。 ・国語力から言語活動への流れがはっきり分かり、改めて学校全体で言語活動に取り組む必要性を感じた。 ・全国で1ヶ所に集まることで、普段はあまり交流できない先生方とも交流することができ、非常によかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・音楽、図工・美術の教科を増やした。 ・全体発表では、全体を大きな部屋で行うのではなく、部会ごとに部屋を分けて行き来しやすいようにし、運営や共有の仕方を工夫した。
次年度に向けて ・研修成果活用案の作成や活用については時間配分等を再考する必要がある。 ・コース名を変更する必要がある。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成26年度言語活動指導者養成研修（国語力向上指導者養成研修） 日程表

第1日目										
10月15日 (水)	9:15	9:45	10:10	11:00	11:10	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
	受付	開講式・オリエンテーション	講義1	休 憩	講義・事例発表	屋 休 憩	13:00	休 憩	研究協議1	◎目的：各学校種での言語活動の充実について「各学校種での言語活動の充実について」 ・小学校科学省初等中等教育局 文部科学省初等中等教育局 水戸部 修治 ・中学校科学省初等中等教育局 文部科学省初等中等教育局 富山 哲也 ・高等学校科学省初等中等教育局 文部科学省初等中等教育局 大滝 一登
			「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」	1. 諸外国における取組 横浜国立大学 教授 高木 展郎	1. 諸外国における取組 横浜国立大学 教授 高木 展郎	14:45	15:00			
			文部科学省 初等中等教育局 教育課程課教科調査官 富山 哲也	2. 国内における取組 ・事例発表、質疑応答 津若松市立謹教小学校 校長 教諭 宗田 正尚 ・事例発表、質疑応答 福岡県立南高等学校 校長 教諭 高橋 裕介 ・事例発表、質疑応答 岡山県立倉敷南高等学校 校長 教諭 山下 陽子	2. 国内における取組 ・事例発表、質疑応答 津若松市立謹教小学校 校長 教諭 宗田 正尚 ・事例発表、質疑応答 福岡県立南高等学校 校長 教諭 高橋 裕介 ・事例発表、質疑応答 岡山県立倉敷南高等学校 校長 教諭 山下 陽子	14:45	15:00			
◎目的：言語活動の充実に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の先進校の取組を知り、各地域・学校で今後実践していくための方法について理解を深める。										
第2日目										
10月16日 (木)	9:00	12:00	13:00	17:00						
	【初等分科会】 国立教育政策研究所 岡山大学大学院教育学研究科	名譽所員 准教授	長崎 栄三 浮田 真弓	【中等分科会】 横浜国立大学 横浜国立大学附属鎌倉中学校 広島県立教育センター 東京都立西高等学校 神奈川県立総合教育センター	教授 副校長 副校長 指導主事	高木 展郎 青木 弘 門戸 千幸 佐藤 和彦 松澤 直子	◎目的：言語活動の充実と必要事項を整理し、効果的なアクションプランを作成する。 また、作成したアクションプランを各地域に還元する際の知識・方法を習得する。			
			【各教科等の学習指導計画作成コース】							
			【国 語】 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治 富山 哲也 大滝 一登 樋口 雅夫 水谷 尚人 笠井 健一	【理 科】 【音 楽】 【図画工作・美術・芸術】 【総合的な学習の時間】	文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 主任視学官 教育課程課教科調査官 教育課程課教科調査官 武庫川女子大学文学部教育学科 講師	清原 洋一 津田 雅之 東良 正人 酒井 達哉				
◎目的：言語活動を充実するための方策や指導の工夫などを研修時に活用できるような学習指導計画を作成する。 また、作成した学習指導計画を地域に還元する際の知識・方法を習得する。										
3日目										
10月17日 (金)	9:00	11:30	12:30	15:15						
	全体会 「コース別演習の発表」	学校全体のアクションプラン作成コース 各教科等の学習指導計画作成コース 講師 講師	屋 休 憩	研究協議2	閉 講 式					
			「研修講師となるために」	文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治 前年度受講者 石川県教育センター 秋田県にかほ市立金浦小学校 指導主事 指江 真美 教諭 工藤 伸子	15:15					
			◎目的：第2日目のコース別演習での成果を発表し、言語活動の充実方策について理解を深める。							

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成26年5月26日（月）～平成26年5月30日（金）				5 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	220	人	受講者数	233	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 880 人、 受講者数 820 人、 参加率 93.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義						
人数 (人)	割合 (%)	221	94.8	11	4.7	0	0.0	0	233
		232	99.6			1	0.4	0	

2. 研修内容に関する主な意見

・各県での道徳教育における取組の様子を知ることができて良かった。「私たちの道徳」の活用に際して、とても参考になる取組の事例も入手でき、大変有意義な研修となった。 ・大変密度の濃い研修だった。こうした研修を広く日本全国の教員が受講することができれば、日本の教育の質はさらに高まるものと感じ、そうした観点からも伝達講習を行う私たちの資質も問われているのだと思う。 ・「私たちの道徳」の活用例や道徳の教科化について、はっきりとした内容でよくわかった。 ・道徳教育を再度見つめ直すよい機会となった。日頃実践していく中で欠けていた点などを認識することができた。道徳教育で学校を変えるという言葉にすごく共感できた。自分自身の道徳実践を変えていくと共に多くの先生方に今日の研修を伝達していこうと思う。 ・全体計画を見直すことや内容項目との関連をしっかりと持つことの重要性がわかった。しかし、高校では、中学校の内容項目もよくわかっていないことを実感し、次に研究していかなければならないこと、現場でこれから課題としていることが明確になった。 ・全国の実践に触れられ、また講師の講義も大変わかりやすくよかった。授業の組み立て方や指導案の立て方などが具体的にわかった。最後の「研修講師となるために」はもう少し時間がほしかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・演習1において、課題様式を受講生がより書きやすくするため、記載例を示した。 ・「私たちの道徳」の活用や中教審の審議状況など周知する内容が多いため、行政説明時間を拡充した。
次年度に向けて ・個人で研修計画を作成する時間を設定する。 ・「私たちの道徳」のさらなる活用を目指し、「私たちの道徳活用のための指導資料（小・中）」を何らかの方法で配布する。 ・演習時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度 道德教育指導者養成研修（中央指導者研修）
日程表

第1日目

5月26日 (月)		9:15	10:15	10:55	11:35	12:35	13:55	14:05	15:05	15:20	17:00
受 付	開 講 式	行政説明 「道德教育の充実 について」			屋 食 ・ 休 憩	講義 1 「今、求められる道德教育の充実を目指して」	休 憩	演習 1 「道德教育推進上の課題－発達の段 階に応じた指導内容の重点化－」			◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階 に応じた指導内容の重点化について課題をもつ
		オリエンテーション 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長補佐 美濃 亮						文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀博行 澤田浩一			

第2日目

5月27日 (火)		9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	15:15	15:30	17:00
受 付	講義 2 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 【授業づくりの要点 1】 東京学芸大学教授 永田 繁雄	講義 3 「体験活動や実践活動を通して道徳教育」 【授業づくりの要点 2】 國學院大學教授 宮川 八岐	屋 食 ・ 休 憩			事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」	休 憩	講義 4 『私たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 京都市教育委員会指導部長 柴原 弘志	◎目的：「私たちの道徳」の活用方法について、執筆者からねらいと活用方法について具体的に学ぶ
	◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める			◎目的：具体的な事例をととして、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ					

第3日目

5月28日（水）		9:00	10:15	10:30	11:30	12:30	14:00	14:15	15:45	16:00	17:00
小・中学校部会	受	演習2 「道德教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（模範活動、私たちの道德の生かし活用）」 【授業づくりの要点3】	休憩	屋食・休憩	講義5 「『道德の時間』の充実を図るため に」 【授業づくりの要点4】 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 赤堀博行	休憩	演習3 「道德の授業づくり（魅力的な教材の選と活用をめぐって）とその評価」	休憩			
	付	◎目的：道德教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成について理解を深め、課題とその解決策を探る ＜小・中学校部会：演習2・3指導助言者＞ 岐阜市立市橋小学校 校長 河合 宣昌 中野区立緑野小学校 校長 宇賀神 佳子 秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威 深谷市立豊里小学校 教頭 浅見 哲也	休憩	屋食・休憩	◎目的：「道德の時間」について理解を深め、授業改善への視座を得る	◎目的：魅力ある教材の開発と活用等、「道德の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法及び評価の在り方について理解を深め、課題とその解決策を探る					
高等学校部会	受	講義5 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 澤田 浩一	休憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 千葉県立大多喜高等学校 教諭 森田 圭一	屋食・休憩	演習2 「学校の教育活動全体を通じて 行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院教授 谷田 増幸	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における 具体的な教材研究・実践」	休憩	全体会・演習のまとめ		
	付	◎目的：高等学校における道德教育の在り方について理解を深める	◎目的：具体的な事例をとおして、高等学校における道德教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ	◎目的：全体計画等の検討を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	◎目的：「道德の時間」について理解を深め、課題とその解決策を探る	◎目的：「道德の時間」について理解を深め、課題とその解決策を探る	◎目的：「道德の時間」について理解を深め、課題とその解決策を探る	◎目的：「道德の時間」について理解を深め、課題とその解決策を探る	◎目的：「道德の時間」について理解を深め、課題とその解決策を探る	◎目的：「道德の時間」について理解を深め、課題とその解決策を探る	◎目的：「道德の時間」について理解を深め、課題とその解決策を探る

5月29日(木)	9:00		12:30	13:40	17:00
	小・中学校部会	演習4-1 「子供の心に響く道徳教育の実践Ⅰー学習指導案の作成・検討ー」	屋食・休憩	演習4-2 「子供の心に響く道徳教育の実践Ⅱー模擬授業の発表・協議ー」 〈指導助言者〉 明星大学 特任准教授 大原 龍一 東京都教職員研修センター 教授 高橋 妃彩子 東京都教職員研修センター 教授 峯川 一義 練馬区立中村西小学校 校長 福田 純子 荒川区立ひぐらし小学校 校長 山本 洋 法政大学教育課程研究センター市ヶ谷相談室 相談指導員 木村 俊二 高知大学教育学部 准教授 田邊 重任 元相模原市立相模丘中学校 校長 藤村 公三郎 ◎目的:「道徳の時間」における学習指導案作成等に取り組むことを通して、創意工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方を学ぶ	◎目的:各分科会ごとに模擬授業を行い、「道徳の時間」の授業における創意工夫の在り方等について理解を深める
	高等学校部会	9:00 演習4-1 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅰー全体計画等の改善策・展開例の検討ー」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院教授 谷田増幸 くらしき作陽大学教授 秋山博正 文京学院大学教授 小泉博明	12:00 13:00 屋食・休憩	14:45 15:00 演習4-2 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の実践Ⅱー全体計画等の改善策・展開例の発表・協議ー」	
◎目的:全体計画等の検討および発表をとおして、高等学校における道徳教育を充実するための知識・方法を得る					

5月30日(金)	9:00		12:00	13:00	14:40
	受付	演習4-3 「子供の心に響く道徳教育の実践Ⅲー代表班による模擬授業の発表・協議ー」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀博行 澤田浩一 (小中部会)◎目的:各分科会の代表班が模擬授業を行い、「道徳の時間」の充実に向けた指導の展開方策について理解を深める (高校部会)◎目的:小・中学校における「道徳の時間」の授業の実際について理解を深める	屋食・休憩	講義6 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀博行 澤田浩一 ◎目的:各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（北海道・東北ブロック）									
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ									
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。									
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者									
開 催 期 日	平成26年8月19日（火）～平成26年8月21日（木）								3 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	79	人	参加率	※		
開 催 場 所	ウェディングプラザアラスカ									

※ 全体受講定員 880 人、 受講者数 820 人、 参加率 93.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	64	81.0	13	16.5	0	0.0	0	0.0	2	2.5	0	0.0	79
		77		97.5										

2. 研修内容に関する主な意見

・本研修の全体構造・流れを明確に示していただけだったので、この3日間何をすればよいのか、何を学ぶのがブレることがなかった。地元に戻り、これを伝えていかなければならないと強く感じた。 ・グループのメンバーが毎回変わり、いろいろな意見を聞くことができて有意義だった。改めて道徳をもっと深く教育に組み入れ、重要視しなくてはならないと思った。 ・演習中心の研修だったため深く考えながら、また実践を意識しながら取り組むことができた。会場も静かで交通の便もよく、利用しやすかった。 ・課題を持ちより、演習で実際に試作し、話し合い練り上げて、3日目には自分がこれから何をやっていけばよいのか、だんだん見えてきた。研修内容の配列が絶妙だったことに後で気づいた。 ・高校における道徳は難しいものであると感じながら、研修を受ける中で、高校の教科、特別活動の中で、いかに埋め込んで行けるかイメージが出来てきた。他教員との意識の共有の課題は残るが、ぜひ実践して行きたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・演習1について、事前課題（様式の作成）を課す方法を改め、演習の中で様式を作成することとした。 ・「私たちの道徳」の活用や中教審の審議状況など周知する内容が多いため、行政説明時間を拡充した。 ・演習2について、指導助言者が模擬授業を行う（受講生は聴講）方法から、受講生が指導案を作成する方法に改めた。 ・演習3（研修計画の作成）について、時間を拡充した。
次年度に向けて ・「私たちの道徳」のさらなる活用を目指し、「私たちの道徳活用のための指導資料（小・中）」を何らかの方法で配布する。 ・演習時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【北海道・東北ブロック】

基 本 日 程 表

	9:20	9:50	10:25	11:00 11:10	12:30	13:30	15:00 15:15	17:00
8月19日（火）		受付	開講式	オリエンテーション	行政説明	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	講義2 「体験活動や実践活動をととした道徳教育」 國學院大學教授 宮川 八岐	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行
						◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

	9:00	10:35 10:50	12:30	13:30	15:00 15:15	17:00
8月20日（水）	受付	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 八戸市立旭ヶ丘小学校 教諭 湊 洋子 青森市立佃中学校 教諭 加藤 日寿	演習2－1 「子供の心に響く道徳教育の実践－学習指導案の作成・検討①－」 ＜指導助言者＞ 青森県教育庁東青教育事務所 指導主事 澤田 裕一 平川市立金田小学校 教諭 佐藤 牧子 青森県教育庁上北教育事務所 指導主事 金澤 希代子 むつ市立川内中学校 教諭 領毛 律子	演習2－2 「子供の心に響く道徳教育の実践－学習指導案の作成・検討②－」 ＜指導助言者＞ 青森県教育庁東青教育事務所 指導主事 澤田 裕一 平川市立金田小学校 教諭 佐藤 牧子 青森県教育庁上北教育事務所 指導主事 金澤 希代子 むつ市立川内中学校 教諭 領毛 律子	休憩	発表・協議
		◎目的：具体的事例をとおして、道徳教育の充実に向けた新たな視点を見出すとともに、課題をもつ	◎目的：「道徳の時間」における学習指導案の作成および部会内で発表を行うことをとおして、創意工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方等について理解を深める			
9:00	高等学校部会	講義・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ＜指導助言者＞ 文京学院大学教授 小泉 博明	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 埼玉県立白岡高等学校 教諭 野口 真澄	演習2－1 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ＜指導助言者＞ 文京学院大学教授 小泉 博明	演習2－2 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 小泉 博明	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」
		◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る				

	9:00	10:30 10:45	12:30	13:30	15:00 15:15	
8月21日（木）	受付	講義3 「『私たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 京都市教育委員会 指導部長 柴原 弘志	演習3 「道徳教育の効果的な推進方策－研修プランの作成－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	講義4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式	
		◎目的：「私たちの道徳」のねらいと活用方法等について、執筆から具体的に学ぶ	◎目的：研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の生かし方について理解を深める	◎目的：各地域で道徳教育推進教師を養成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる		

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）									
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ									
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。									
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者									
開 催 期 日	平成26年8月4日（月）～平成26年8月6日（水）								3 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	114	人	参加率	※		
開 催 場 所	つくば国際会議場									

※ 全体受講定員 880 人、 受講者数 820 人、 参加率 93.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	92	80.7	17	14.9	1	0.9	0	0.0	4	3.5	0	0.0	114
		109		95.6										

2. 研修内容に関する主な意見

・「私たちの道徳」をいかに活用していくかが明確となった。学校教育全体を通して道徳教育を推進していく上での自己の役割を認識し、目標を持つことができた。
・基本的なところから応用まで、内容の濃い研修だった。学校に戻って自分が伝えられること出来ることを実践していきたい。今回の研修は指導者養成だが、自分ではそこまでの何があるのか、つきつけられた場面も多くあった。今後も教師としてスキルをあげていくよう努力したい。
・めったに来れないつくば市の国際会議場で開催していただきありがたかった。静寂な土地でとてもよかった。講義も大変ためになった。演習も最初はぎこちなさがあったが、時間とともに連帯感が生まれた。
・教職30年になるが、今までにこんなに深く、道徳教育についてじっくりと取りくんだことはなかった。校内のみならず、いろいろな機会において、本研修で学んだことを活かし、特に後進の指導にぜひとも役立たせたい。
・この研修は小中を中心としたものではあったが、高校に所属する者として大変刺激をうけることができた。今後、学校へ戻って教育活動の充実につなげて行きたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・演習1について、事前課題（様式の作成）を課す方法を改め、演習の中で様式を作成することとした。
・「私たちの道徳」の活用や中教審の審議状況など周知する内容が多いため、行政説明時間を拡充した。
・演習2について、指導助言者が模擬授業を行う（受講生は聴講）方法から、受講生が指導案を作成する方法に改めた。
・演習3（研修計画の作成）について、時間を拡充した。
次年度に向けて
・「私たちの道徳」のさらなる活用を目指し、「私たちの道徳活用のための指導資料（小・中）」を何らかの方法で配布する。
・演習時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（東海・北陸ブロック）									
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ									
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。									
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者									
開 催 期 日	平成26年10月22日（水）～平成26年10月24日（金）								3 日間	
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	96	人	参加率	※		
開 催 場 所	金沢勤労者プラザ									

※ 全体受講定員 880 人、 受講者数 820 人、 参加率 93.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	78	81.3	16	16.7	0	0.0	0	0.0	2	2.1	0	0.0	96
		94		97.9										

2. 研修内容に関する主な意見

・道徳の教科化を巡る動向から、指導案検討、研修プラン作成まで、たくさんの重要な内容がもり込まれた研修だった。特に講師の先生方がみなさん人間として魅力的で、お話もすばらしく、学びのあるものだった。学校に戻ってどれだけ還元できるかわからないが、努力したいと思う。
・道徳の補充、深化、統合について、また私たちの道徳の活用の視点について、実践事例を協議し改善できたことは、校内研修会でもぜひ生かしたい。
・「道徳の時間」を充実させることを目的として参加したのだが、「道徳の時間」は道徳の要としてももちろん最重要であるが、各教科、特活、日常の生徒指導など全教育活動で指導していくことを再認識できた。他県の様子や様々な情報交換の場もあり、よい刺激となった。
・3 日間にわたり、道徳教育の意義や進め方について集中して学ぶことができ、充実した研修であった。これまで道徳は難しいと感じていたが、道徳の楽しさや深さを感じることができた。特に指導案検討では、1つの資料でこれだけ多様な考え方があるのかと、深く考えさせられた。
・今まで受けてきた研修のふり返りができた。また、新しい知識を得ることができたり、知識の整理をすることができた。指導主事経由で聞いている話を直接担当者から聞いたことが良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・演習 1 について、事前課題（様式の作成）を課す方法を改め、演習の中で様式を作成することとした。
・「私たちの道徳」の活用や中教審の審議状況など周知する内容が多いため、行政説明時間を拡充した。
・演習 2 について、指導助言者が模擬授業を行う（受講生は聴講）方法から、受講生が指導案を作成する方法に改めた。
・演習 3（研修計画の作成）について、時間を拡充した。
次年度に向けて
・「私たちの道徳」のさらなる活用を目指し、「私たちの道徳活用のための指導資料（小・中）」を何らかの方法で配布する。
・演習時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【東海・北陸ブロック】

日 程 表

	9:20	9:50	10:25	11:00 11:10	12:30	13:30	15:00 15:15	17:00
10月22日（水）		開 講 式	オリエンテーション	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	休 憩	講義2 「『私たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 全国小学校道徳教育研究会 顧問 馬場 喜久雄	休 憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 (指導助言者) 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行
		受 付	行政説明	◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	休 憩	◎目的：「私たちの道徳」のねらいと活用方法等について、執筆者から具体的に学ぶ		◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

	9:00	10:35 10:50	12:30	13:30	15:00 15:15	17:00
小・中学校部会	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 小松市立荒屋小学校 教諭 野村 奈津子 滑川市立早月中学校 教諭 山西 真司 ◎目的：具体的事例をとおして、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ	休 憩 ＜指導助言者＞ 石川県中能登教育事務所 指導主事 中村はじめ 石川県教育センター 指導主事 柴田 和美 石川県金沢教育事務所 指導主事 才 鷹 浩子 石川県奥能登教育事務所 指導主事 上田 辰美	昼 休 み	演習 2－2 「子供の心に響く道徳教育の実践 －学習指導案の作成・検討②－」 ＜指導助言者＞ 石川県中能登教育事務所 指導主事 中村 はじめ 石川県教育センター 指導主事 柴田 和美 石川県金沢教育事務所 指導主事 才 鷹 浩子 石川県奥能登教育事務所 指導主事 上田 辰美	休 憩	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸
	高等部会	講義・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	休 憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 岡山県立邑久高等学校 教諭 矢野 祥子	演習 2－1 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	演習 2－2 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸
受 付			12:45	11:45	14:20 14:35	16:00 16:15
	9:00	10:30 10:45	12:45	11:45	休 憩	17:00

	9:00	10:30 10:45	12:30	13:30	15:00 15:15	
10月24日（金）	講義3 「体験活動や実践活動をとosh た道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 視学官 杉田 洋	休 憩	講義3 「道徳教育の効果的な推進方策－研修プランの作成－」 (指導助言者) 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	休 憩	講義4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉 講 式
受 付	◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する		◎目的：研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の生かし方について理解を深める		◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するため、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	

※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（近畿ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成26年7月28日（月）～平成26年7月30日（水）					3 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	90	人	参加率
開 催 場 所	ホテル北野プラザ六甲荘						

※ 全体受講定員 880 人、 受講者数 820 人、 参加率 93.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	61	67.8	0	0.0	1	1.1	0	0.0	90
		89	98.9							

2. 研修内容に関する主な意見

・盛りだくさんの内容で、自分のスキルアップにもなり、また、現在の自分の立ち位置を確認することができた。市に帰ったらこれを生かし、道徳教育の推進に努めていきたい。 ・それぞれの講義演習において、真正面からしっかり向きあい対応することで、たくさんの有意義なことがらを与えていただいた。提示していただいた資料は、私の財産とし、学習した内容を広く発信して、地域における道徳教育の質的向上のために寄与していきたい。 ・有意義であったかどうかは今後の自分自身の実践にかかってくると思う。自信はないが、自分なりに生かしていきたい。 ・どの研修内容もすばらしく、特に2日目のグループ演習（指導案の検討）は非常に有意義だった。 ・各教科や行事にはそれぞれ達成すべき目標があり、また高等学校では「道徳の時間」が設置されていない中で道徳教育を行っていくに当たり、かなりしっかりとした全体計画をつくらなくてはならない。職員全員にその必要性をわかってもらうことが何より大事だと思った。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・演習1について、事前課題（様式の作成）を課す方法を改め、演習の中で様式を作成することとした。 ・「私たちの道徳」の活用や中教審の審議状況など周知する内容が多いため、行政説明時間を拡充した。 ・演習2について、指導助言者が模擬授業を行う（受講生は聴講）方法から、受講生が指導案を作成する方法に改めた。 ・演習3（研修計画の作成）について、時間を拡充した。
次年度に向けて ・「私たちの道徳」のさらなる活用を目指し、「私たちの道徳活用のための指導資料（小・中）」を何らかの方法で配布する。 ・演習時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【近畿ブロック】

日程表

	9:20	9:50	10:25	11:00	11:10	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
7月28日（月）	受付	開講式	オリエンテーション	行政説明 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	屋休み	講義2 「体験活動や実践活動とおした道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 視学官 杉田 洋	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

	9:00	10:35	10:50	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
小・中・高・部会	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う 道徳教育の実践と課題」	休 憩	演習2-1 「子供の心に響く道徳教育の実践 —学習指導案の作成・検討①—」 ＜指導助言者＞ ○小学校A 【フェネル ノース】 播磨東教育事務所 指導主事 西村 研史 ○小学校B 【フェネル センター】 播磨西教育事務所 主任指導主事 中正 達也 ○中学校A 【フェネル サウス】 但馬教育事務所 主任指導主事 戸田 康夫 ○中学校B 【レモンバーム イースト】 淡路教育事務所 指導主事 栄 久規	屋 休 み	演習2-2 「子供の心に響く道徳教育の実践—学習指導案の作成・検討②—」 ＜指導助言者＞ ○小学校A 【フェネル ノース】 播磨東教育事務所 指導主事 西村 研史 ○小学校B 【フェネル センター】 播磨西教育事務所 主任指導主事 中正 達也 ○中学校A 【フェネル サウス】 但馬教育事務所 主任指導主事 戸田 康夫 ○中学校B 【レモンバーム イースト】 淡路教育事務所 指導主事 栄 久規	休 憩	発表・協議	
		受	◎目的：具体的事例をとおして、道徳教育の 充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課 題をもつ					

	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	14:10	14:25	15:45	16:00	17:00
高等学校部会	高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	休憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 兵庫県立猪名川高等学校 主幹教諭 池信 宏之	屋休み	演習2-1 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ＜指導助言者＞ 兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	休憩	演習2-2 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	休憩	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」	【レモンバーム センター】

	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	
7月30日（水）	受付	講義3 「『私たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 全国小学校道徳教育研究会 顧問 馬場 喜久雄	休憩	演習3 「道徳教育の改善・充実について－全体発表・協議・まとめ－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	屋休み	講義4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式	◎目的：「私たちの道徳」のねらいと活用方法等について、執筆から具体的に学ぶ

※【 】は部屋の名称です。また、日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（中国・四国ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成26年8月27日（水）～平成26年8月29日（金）					3 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	108	人	参加率
開 催 場 所	米子コンベンションセンター						

※ 全体受講定員 880 人、 受講者数 820 人、 参加率 93.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	81	75.0	22	20.4	0	0.0	0	0.0	108
		103	95.4							

2. 研修内容に関する主な意見

・道徳の教科化が話題となるこの時期に、道徳についてじっくり考える機会を与えていただき、大変有意義だった。明日からこの研修で得たことを少しでも多くの方に広げていきたいと思う。 ・2日目のグループでの指導案作成に時間をしっかりとっていただき、とてもよかった。道徳の指導案はいつも迷いながら作成するのだが、やはり刺激をうけながらねり上げる過程が学びとなった。 ・私自身の課題意識と合致していたのか、3日間がとても早く感じられるほどであった。今、正直に思うのが「もう少し勉強したい」ということである。ぜひ、違う機会があれば参加したい。 ・道徳教育推進教師でありながら、忙しさに紛れて大変不勉強であったことを痛感させられた。今後、自分自身が「今、求められている道徳教育」について、もっと勉強し、日々の指導の中に生かしつつ、校内の他職員に対しても積極的に活動していかなければならないという自覚を高めることができた。 ・時代背景、行政の意図、各学校の情報交換、実践発表、演習とそれぞれの学校現場に即生させる内容が網羅されており、大変有意義な三日間となった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・演習1について、事前課題（様式の作成）を課す方法を改め、演習の中で様式を作成することとした。 ・「私たちの道徳」の活用や中教審の審議状況など周知する内容が多いため、行政説明時間を拡充した。 ・演習2について、指導助言者が模擬授業を行う（受講生は聴講）方法から、受講生が指導案を作成する方法に改めた。 ・演習3（研修計画の作成）について、時間を拡充した。
次年度に向けて ・「私たちの道徳」のさらなる活用を目指し、「私たちの道徳活用のための指導資料（小・中）」を何らかの方法で配布する。 ・演習時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（九州ブロック）									
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ									
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。									
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者									
開 催 期 日	平成26年10月27日（月）～平成26年10月29日（水）								3 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	100	人	参加率	※		
開 催 場 所	天神ビル									

※ 全体受講定員 880 人、 受講者数 820 人、 参加率 93.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	89	89.0	10	10.0	0	0.0	0	0.0	1	1.0	0	0.0	100
		99		99.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・演習時間が多くとっており、考えを交流したり、課題を明確にしたりすることができ、今後、研修会を企画・運営する上で大変参考となった。再度自分なりに整理し、自分のものにしていきたい。人脈も増え、大変有意義な研修会だった。 ・地域指導者としての研修を受けたこともあるが、今回の研修では、更に指導・助言の視点や観点について「コツ」をつかむことが出来たと感じている。学校や地域に持ち帰り還元したい。主幹として、若手教師等の育成に向けて、更に学校運営に向けて、出来ることが見えてきたという感想である。 ・なぜ教科化なのかという話から始まり、今日の道徳教育が抱える様々な課題について考えることができた3日間だった。演習を通して感じたことだが、先生方と色々な意見を交わすことは本当に楽しかった。 ・大変有意義な研修に参加することができた。今後は、まず校内研修で生かすことをスタートに広げていきたい。別葉の作成や重点目標の意識化など、周囲を巻きこみながら道徳教育の充実を図っていければと思う。 ・理論や各校の実践を学ぶだけでなく、実際に指導案を作ることで課題が明確になり、自分の中に残るものがあった。資料も大変充実しており、スタッフの対応も丁寧で、とても気持ちよく研修を受けることができた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・演習1について、事前課題（様式の作成）を課す方法を改め、演習の中で様式を作成することとした。 ・「私たちの道徳」の活用や中教審の審議状況など周知する内容が多いため、行政説明時間を拡充した。 ・演習2について、指導助言者が模擬授業を行う（受講生は聴講）方法から、受講生が指導案を作成する方法に改めた。 ・演習3（研修計画の作成）について、時間を拡充した。
次年度に向けて ・「私たちの道徳」のさらなる活用を目指し、「私たちの道徳活用のための指導資料（小・中）」を何らかの方法で配布する。 ・演習時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【九州ブロック】

日 程 表

	9:20	9:50	10:25	11:00	11:10	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
10月27日（月）		開 講 式	オリエンテーション	行政説明	休 憩	講義 1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	休 憩	講義 2 「体験活動や実践活動をととした道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 視学官 杉田 洋	休 憩	演習 1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 ＜指導助言者＞ 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行
		受 付					休 憩			◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

	9:00	10:35	10:50	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
小・中学校 受 付	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 糸島市立波多江小学校 主幹教諭 林 寿八 教諭 西島 大祐 熊本市立出水南中学校 教諭 桃崎 佐知子 ◎目的：具体的事例をとおして、道徳教育の発展に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ	休 憩	演習 2－1 「子供の心に響く道徳教育の実践－学習指導案の作成・検討①－」 ＜指導助言者＞ 福岡県教育庁京築教育事務所 指導主事 松本 秀樹 福岡県教育センター教育経営部教育経営班 指導主事 野中 裕二 福岡県教育庁南筑後教育事務所 指導主事 古川 志乃 福岡県教育庁筑豊教育事務所 主任指導主事 柴田 徹	休 憩	演習 2－2 「子供の心に響く道徳教育の実践－学習指導案の作成・検討②－」 ＜指導助言者＞ 福岡県教育庁京築教育事務所 指導主事 松本 秀樹 福岡県教育センター教育経営部教育経営班 指導主事 野中 裕二 福岡県教育庁南筑後教育事務所 指導主事 古川 志乃 福岡県教育庁筑豊教育事務所 主任指導主事 柴田 徹	休 憩	発表・協議	
高等学校 受 付	講義・協議 「『私たちの道徳』を生かした人間としての在り方生活に関する教育の展開」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	休 憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生活に関する教育の実践と課題」 山口県立宇部高等学校 教諭 竹中 尚	休 憩	演習 2－1 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生活に関する教育の展開」 ＜指導助言者＞ くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	演習 2－2 「人間としての在り方生活に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	休 憩	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生活に関する教育の充実に向けて」
								◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る

	9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
10月29日（水）	講義 3 「『私たちの道徳』を生かした道徳教育の推進」 京都教育委員会 指導部長 柴原 弘志 ◎目的：『私たちの道徳』のねらいと活用方法等について、執筆から具体的に学ぶ。	休 憩	演習 3 「道徳教育の効果的な推進方策－研修プランの作成－」 ＜指導助言者＞ 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：研修成果の全体を理解するとともに、演習成果を生かし方について理解を深める	休 憩	講義 4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するため、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉 講 式		※日程等について変更することがあります

I 研修概要

研 修 名	学校教育の情報化指導者養成研修（第1回）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を推進することが重要である。 このため、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者であって、各地域において本研修内容を踏まえた管理職等への説明や学校の指導助言等の指導者としての活動を行う者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び学校教育の情報化推進の指導者としての活動を行う者					
開 催 期 日	平成26年10月28日（火）～平成26年10月31日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	63	人
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 132 人、 参加率 120.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	51	81.0	12	19.0	0	0.0	0	0.0	63
		63	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・情報化とはICTの活用及びその指導と思っていた段階だったが、本研修を通してその意義・必要性・効果、そして具体的な取り組み方を学ぶことができた。特にワークショップでの情報交換や指導法を考えた場面では、もどってすぐ活用できるものが多く有意義だった。
・各内容について、講師の先生や実践されてきた先生の話がとても参考になった。教育の情報化について、具体的に学ぶことができた。何よりよかったと思うのは、情報交換会や座席などの配慮だ。全国各地の先生とお話する機会が普段ないので“仲間”ができたのが一番の収穫になった。
・これまで手さぐりで情報教育を行ってきた。本県他の先生も同じかと思う。伝える側としての指針を示していただき、帰県後、他の先生へのアドバイスにつながる大変有意義な研修であった。
・視聴覚センターとして、教育向けの研修講座の内容について検討中のところ、この研修会に参加し、たくさんの研修を開催しなくてはという思いになった。1つ1つの講座の内容がとてもわかりやすく、ある程度の緊張感と目的意識をもって望むことができた。この研修から私達が研修会を開催するにあたって、体験的・実践的な研修グループにより互いにその質を高めていける研修の実践ができるよう努力していきたいと思った。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・「学校における情報モラル教育と地域・家庭との連携」において、情報セキュリティに関する教育が含まれることを明示した。
次年度に向けて
・3日目「情報教育による情報活用能力育成のための指導」、4日目「研修講師となるために」が時間が足りないため、隔日の開始時間を30分早め、講義時間を30分増やす。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度学校教育の情報化指導者養成研修（第1回）

日程表

第1日目	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
10月28日 〈火〉	連絡事項	受付	開講式	【座席表1】 「新しい時代における学校教育の情報化」 文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長 酒井 貢 ◎目的：教育の情報化に関する手引き、教育の情報化推進の概論、動向、学校教育の情報化のねらい等を理解する。本研修のねらい等を理解する。	屋 休 み	【座席表2】 「国内外における学校教育の情報化の取組」 奈良教育大学教授 小柳 和喜雄 ◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の事例とあわせて情報化推進の参考になるポイントを理解する。	休 憩	【座席表2】 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」 教員研修センター主任指導主事 鈴木 孝弘 ◎目的：各地域の学校教育の情報化に関する取組について情報交換することにより、課題を共有する。
				オリエンテーション				
第2日目	9:00	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00		
10月29日 〈水〉	連絡事項	【座席表1】 「教科指導におけるわかりやすい授業づくりのためのICT活用」 富山大学准教授 高橋 純 山形県米沢市立第二中学校教諭 金 隆子 徳島県東みよし町立足代小学校教諭 土井 国春 ◎目的：各教科等の学習目標を達成するために、ICTを効果的に活用した授業改善のあり方を検討する。		屋休み	【座席表3】 休 憩	【座席表3】 「よりよい学校づくりのための校務の情報化の進め方」 講師 宮崎大学教授 新地 辰朗 事例発表者 佐賀県教育庁教育情報課 教育情報システム担当係長 下川 登志雄 ◎目的：校務の情報化によって実現する望ましい学校組織について学び、校務の情報化推進方策について検討する。		
第3日目	9:00	12:30	13:30	17:00				
10月30日 〈木〉	連絡事項	【座席表5】 「情報教育による情報活用能力育成のための指導」 講師 東北学院大学准教授 稲垣 忠 事例発表者 仙台市立愛子小学校教諭 菅原 崇志 ◎目的：情報教育によって児童生徒に身につけさせる「情報活用能力」を理解し、情報活用能力を身につけさせるためにどのような学習活動を行えばいいのかについて検討する。		屋 休 み	【座席表2】 「学校における情報モラル教育と地域・家庭との連携」 講師 金城学院大学教授 長谷川 元洋 事例発表者 札幌市立平岡中学校教諭 尾崎 康 ◎目的：情報モラル（情報セキュリティに関する教育を含む）に関する指導のあり方を理解し、発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進方策や学校の指導計画への位置づけについて検討する。		【座席表6】	
第4日目	9:00	12:00	13:00	14:30	15:00	15:15		
10月31日 〈金〉	連絡事項	【座席表4】 「学校教育の情報化推進のためのICT戦略づくり」 講師 横浜国立大学教授 野中 陽一 事例発表者 札幌市立幌西小学校長 新保 元康 ◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等のリーダーシップのもとに教職員が一丸となって取り組む体制をどう構築するかの戦略を考える。協議を踏まえ、学校改革のためのICT活用の戦略について発表する。		屋休み	【座席表7】 課題協議 「研修講師となるために」 教員研修センター主任指導主事 鈴木 孝弘 ◎目的：学校教育の情報化に関する、研修講師となるための力量と意欲を高める。		閉講式	

I 研修概要

研 修 名	学校教育の情報化指導者養成研修（第2回）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を推進することが重要である。 このため、I C Tを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者であって、各地域において本研修内容を踏まえた管理職等への説明や学校の指導助言等の指導者としての活動を行う者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び学校教育の情報化推進の指導者としての活動を行う者						
開 催 期 日	平成27年1月26日（月）～平成27年1月29日（木）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	69	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 110 人、受講者数 132 人、参加率 120.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	61	88.4	8	11.6	0	0.0	0	0.0	69
		69	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・講義とその現場で活躍されている方の事例発表が適切に盛り込まれており、各コマとも興味深く説明に聞き入ることができた。また、校種等を考慮した演習についても、「情報活用能力をどう身につけさせるか」という点で大変参考になった。タイムリーな事例及び講師の先生のアドバイスを数多く吸収することができた。本研修で学んだことを地元を持ち帰り、普及、研修に努めたいと考えた。 ・学校教育の情報化について、最新の情報や研修の内容・成果等を知ることができた。演習を通して、学校教育の情報化に関する知識に加えて、それらの活用や、研修講師としての生かし方などを学ぶことができ、有意義であった。 ・多くの情報をいただけただけでなく、他の参加者の方々との交流、アクティブな活動が折り交ぜられ、大変楽しく勉強になった。帰ってから早速試してみたい実践も多く私自身のイメージもふくらんだ。 ・タブレットを一人一台やワークショップ型など、参考型の講義が多く、自主的に学ぶ姿勢づくりや、他地区の方とのコミュニケーションがとれるようになった。自分の研修にも生かしていきたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「学校における情報モラル教育と地域・家庭との連携」において、情報セキュリティに関する教育が含まれることを明示した。 次年度に向けて ・3日目「情報教育による情報活用能力育成のための指導」、4日目「研修講師となるために」が時間が足りないため、各日の開始時間を30分早め、講義時間を30分増やす。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度学校教育の情報化指導者養成研修（第2回）日程表

第1日目										17:00
1月26日 〈月〉	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00		
	【座席表1】 「新しい時代における学校教育の情報化」 文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長 酒井 真			屋	【座席表2】 「国内外における学校教育の情報化の取組」 奈良教育大学教授 小柳 和喜雄			休	【座席表2】 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」 教員研修センター主任指導主事 鈴木 孝弘	
	◎目的：教育の情報化に関する手引き、教育の情報化ビジョンなど学校教育の情報化推進の概論、動向、本研修のねらい等を理解する。			休	◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の事例とあわせて情報化推進の参考になるポイントを理解する。			憩		
	オリエンテーション			み						
受	付									
第2日目										17:00
1月27日 〈火〉	9:00	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00				
	【座席表1】 「新しい時代における学校教育の情報化」 文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長 酒井 真			屋	【座席表2】 「国内外における学校教育の情報化の取組」 奈良教育大学教授 小柳 和喜雄			休	【座席表2】 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」 教員研修センター主任指導主事 鈴木 孝弘	
	◎目的：教育の情報化に関する手引き、教育の情報化ビジョンなど学校教育の情報化推進の概論、動向、本研修のねらい等を理解する。			休	◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の事例とあわせて情報化推進の参考になるポイントを理解する。			憩		
	オリエンテーション			み						
受	付									
第3日目										17:00
1月28日 〈水〉	9:00	12:30	13:30	14:30	14:45	17:00				
	【座席表1】 「新しい時代における学校教育の情報化」 文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長 酒井 真			屋	【座席表2】 「国内外における学校教育の情報化の取組」 奈良教育大学教授 小柳 和喜雄			休	【座席表2】 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」 教員研修センター主任指導主事 鈴木 孝弘	
	◎目的：教育の情報化に関する手引き、教育の情報化ビジョンなど学校教育の情報化推進の概論、動向、本研修のねらい等を理解する。			休	◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の事例とあわせて情報化推進の参考になるポイントを理解する。			憩		
	オリエンテーション			み						
受	付									
第4日目										17:00
1月29日 〈木〉	9:00	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00				
	【座席表1】 「新しい時代における学校教育の情報化」 文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長 酒井 真			屋	【座席表2】 「国内外における学校教育の情報化の取組」 奈良教育大学教授 小柳 和喜雄			休	【座席表2】 「各地域における学校教育の情報化推進の現状と課題」 教員研修センター主任指導主事 鈴木 孝弘	
	◎目的：教育の情報化に関する手引き、教育の情報化ビジョンなど学校教育の情報化推進の概論、動向、本研修のねらい等を理解する。			休	◎目的：学校教育の情報化に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の事例とあわせて情報化推進の参考になるポイントを理解する。			憩		
	オリエンテーション			み						
受	付									

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【管理者用コース】					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者。 ②小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭であって、各地域・学校において本研修の成果を活用できる者。					
開 催 期 日	平成26年11月4日（火）～平成26年11月5日（水）				2日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	44	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 109 人、 参加率 99.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	35	79.5	0	0.0	0	0.0	44
		44	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・今日の大きな課題の一つである日本語指導について、どのような手立て、施策をつくっていったらよいのか、おおいに参考になった。また、それぞれの地域で、それぞれの工夫がされていることが分かった。 ・日本語指導についていろいろな角度から分かりやすく講義をしていただき、新たな認識、気付きを生むことができた。今一度考え直し、学校の体制作り、町の推進委員会等に、学んだことを生かしていきたいと思う。 ・初めて知ることが多く、また疑問と感じていたことがクリアになった研修であった。自分の立場でできることに生かしていきたいと思う。 ・どの時間も学ぶことがとても多く、全国から集まった素晴らしい先生方からたくさんの刺激を受け、素晴らしい研修になった。 ・体制整備のポイントや他都市の例が提示されていて参考になった。行政と学校現場を上手につなぐ必要性を感じた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・経験年数等を考慮したきめ細かな班編成で、より有意義に学べるようにした。 ・「特別的教育課程」を意識して、キーワードで整理しながら課題解決へと進めるよう演習の内容を工夫した。
次年度に向けて ・2年目となる「特別的教育課程」について、施策説明だけでなく、違ったやり方で学んでいく必要がある。 ・「特別的教育課程」の取組状況を受講者に聞き、班別演習の材料とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導 指導者養成研修
日程表

第1日目										9:00	9:30	10:00	10:40	11:00	12:00	13:00	14:10	14:25	15:35	15:50	17:00	
面コース共通																						
11月4日(火)	施設説明 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の施策について」 文部科学省 初等中等教育局 国際教育課 榎本 剛 課長		説明・休憩		班別演習1 「情報交換による課題の共有」		屋食・休憩		講義1 「外国人児童生徒教育の現状と課題」 目白大学学長 佐藤 郡衛		休憩		講義2 「学校における日本語教育プログラム～個別の指導計画を立てるために～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		休憩		講義3 「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント DLA～日本語能力の評価の在り方～」 東京外国語大学 教授 伊東 祐郎					
	受講・オリエンテーション																					
第2日目										8:30	9:30	9:45	12:00	13:00	16:30	16:45						
管理者用コース																						
11月5日(水)	講義4 『「特別の教育課程」を踏まえた指導・支援体制づくり」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子		休憩		事例協議1 「～指導・支援体制における連携と協働～ 外国人児童生徒教育の先進的な取組」 徳島市教育委員会 指導主事 田村 康治 小牧市教育委員会 指導主事 塚本 真也 横浜市立飯田北小学校 校長 田中 秀仁 愛知淑徳大学 准教授 小島 祥美		屋食・休憩		班別演習2 「外国人児童生徒等の受入れ体制における課題解決策の検討」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 徳島市教育委員会 指導主事 小島 祥美 小牧市教育委員会 指導主事 田村 康治 横浜市立飯田北小学校 校長 塚本 真也 横濱市立飯田北小学校 校長 田中 秀仁		休憩				閉講式							
	◎目的：「特別の教育課程」の導入で変わるこれからの体制整備について学ぶ。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れについて、先進的な地域の取組の理解を深める。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報共有し、今後の課題解決への糸口を探る。				◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報共有し、今後の課題解決への糸口を探る。													
日本語指導者用コース										11:00	11:15	17:00										
事例協議2 「日本語指導が必要な外国人児童生徒等への支援の実践」 東京都豊島区立池袋小学校 教諭 逢坂 隆 京都府宇治市立南宇治中学校 講師 宮崎 愛子 福島県会津若松市立松長小学校 教諭 那知上 恵一										休憩		班別演習3 「日本語能力測定方法の演習」 東京外国語大学 教授 伊東 祐郎 東京外国語大学 教授 小林 幸江 東京外国語大学 准教授 菅長 理恵 大阪大学大学院 特別研究員 櫻井 千穂		昼・休憩		班別演習2 「日本語指導が必要な外国人児童生徒等への支援の実践」 東京都豊島区立池袋小学校 教諭 逢坂 隆 京都府宇治市立南宇治中学校 講師 宮崎 愛子 福島県会津若松市立松長小学校 教諭 那知上 恵一		休憩				
◎目的：各地の学校で進められている日本語指導・生活支援の実践事例から、日本語指導や学習支援の内容と方法、学校内の支援体制の作り方、保護者や地域との連携の仕方等について学ぶ。										◎目的：DLA（日本語能力測定方法）について、実際に体験しながら理解を深める。												

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【日本語指導者用コース】						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者。 ②外国人児童生徒等に対する日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各地域・学校において本研修の成果を活用し、外国人児童生徒等の教育の中心的な役割を担うことができる者。						
開 催 期 日	平成26年11月4日（火）～平成26年11月7日（金）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	65	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 109 人、 参加率 99.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	61	93.8	3	4.6	0	0.0	0	0.0	1
		64	98.5							
										65

2. 研修内容に関する主な意見

・本研修で、最先端の研究をされている教授の先生方や、実践発表をされた先生方の講義・発表が、集中して聴けたことは大変有意義でした。全国の先生方との交流を通して、日頃現場で苦勞している点や工夫している点なども共有できました。そして何より、4日間の研修カリキュラムが効果的に組まれており、自分の中で整理しながら研修を深められました。大変ありがとうございました。

・日ごろ、疑問に感じている点や自分自身の課題について、悩んでいることがすっきりした感じがした。DLAの体験、班別演習、学習指導の模擬授業は、貴重な体験となった。

・理論、演習、付せん紙による意見交流…と、外国人児童生徒教育の重要性を学び、実践に役立つ研修であった。測定演習はもう少し時間をかけて体験できるとより現場で自信をもって取り組めると感じた。大変有意義な研修をありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・「中期・後期指導プログラム」を新設し、日常会話はできるが「読む力・書く力」の苦手な児童生徒等を対象とした指導のニーズに応えられるようにした。
・経験年数等を考慮したきめ細かな班編成で、より有意義に学べるようにした。
・DLAの演習の時間を190分→285分とし、「話す」は全員、「読む・書く・聴く」は希望制にして演習できるようにした。
・多様性に対応できるよう、全体をイメージしながら1時間分の指導計画をたて、模擬授業を行った。
次年度に向けて
・模擬授業のフィードバックは自分自身の状況とコメントがつながり大変効果があったので、H27年度も続ける。
・事例発表に「特別の教育課程」について取り組んでいる学校を紹介する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導 指導者養成研修
日程表

第1日目		9:00	9:30	10:00	10:40	11:00	12:00	13:00	14:10	14:25	15:35	15:50	17:00						
		面コース共通																	
11月4日(火)	11月4日(火)	施設説明 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の施策について」 文部科学省 初等中等教育局 国際教育課 課長 榎本 剛		説明・休憩	班別演習1 「情報交換による課題の共有」		屋食・休憩	講義1 「外国人児童生徒教育の現状と課題」 目白大学学長 佐藤 郡衛		休憩	講義2 「学校における日本語教育プログラム～個別の指導計画を立てるために～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		講義3 「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA～日本語能力の評価の在り方～」 東京外国語大学 教授 伊東 祐郎						
		受付・オリエンテーション			◎目的：班別に情報交換を行うことで、外国人児童生徒教育の課題の明確化、共有を図るとともに、本研修での目的を明確にする。			◎目的：学校現場における外国人児童生徒等の受入れ状況や指導体制について学び、外国人児童生徒の生活及び学習上の課題等を社会的、文化的、心理的側面から理解し、指導や支援の在り方について学ぶ。			◎目的：文部科学省開発の「JSL対話型アセスメント」の考え方とその日本語測定方法の概要を知り、日本語指導の内容や方法の決定への生かし方について学ぶ。								
第2日目		8:30	9:30	9:45	12:00	13:00	16:30	16:45											
		管理者用コース																	
11月5日(水)	11月5日(水)	講義4 『「特別の教育課程」を踏まえた指導・支援体制づくり」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子		休憩	事例協議1 「～指導・支援体制における連携と協働～ 外国人児童生徒教育の先進的な取組」 徳島市教育委員会 指導主事 田村 康治 小牧市教育委員会 指導主事 塚本 真也 横浜市立飯田北いちょう小学校 小島 祥美 愛知淑徳大学 准教授 小島 祥美		屋食・休憩	班別演習2 「外国人児童生徒等の受入れ体制における課題解決策の検討」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 愛知淑徳大学 准教授 小島 祥美 徳島市教育委員会 指導主事 田村 康治 小牧市教育委員会 指導主事 塚本 真也 横浜市立飯田北いちょう小学校 田中 秀仁		休憩	閉講式								
		◎目的：「特別の教育課程」の導入で変わるこれからの体制整備について学ぶ。			◎目的：外国人児童生徒等の受入れについて、先進的な地域の取組の理解を深める。			◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、今後の課題解決への糸口を探る。											
		日本語指導者用コース																	
		事例協議2 「日本語指導が必要な外国人児童生徒等への支援の実践」 東京都豊島区立池袋小学校 教諭 逢坂 隆 京都市宇治市立南宇治中学校 講師 宮崎 愛子 福島県会津若松市立松長小学校 教諭 那知上 恵一		休憩	班別演習3 「日本語能力測定方法の演習」 東京外国語大学 教授 伊東 祐郎 東京外国語大学 教授 小林 幸江 東京外国語大学 准教授 菅長 理恵 大阪大学大学院 特別研究員 櫻井 千穂		講義・休憩			休憩									
		◎目的：各地の学校で進められている日本語指導・生活支援の実践事例から、日本語指導や学習支援の内容と方法、学校内の支援体制の作り方、保護者や地域との連携の仕方等について学ぶ。			◎目的：DLA（日本語能力測定方法）について、実際に体験しながら理解を深める。														

第3日目		8:30	10:30	10:45	12:00	13:00	17:00
初期指導プログラム【講義・演習】		講義 「日本語初期指導段階の日本語プログラムと授業づくり」	休 憩	演習 「日本語初期指導の活動計画の作成」	休 憩	休 憩	
1	波多野ファミリスクール 愛知県豊橋市教育委員会	学監 相談員	大蔵 守久 築樋 博子				
月	◎目的：日本語初期指導のプログラム「サバイバル日本語」「日本語基礎（語彙・文型）」の学習指導計画を作成することを通して、						
6	対する初期段階の日本語プログラム「サバイバル日本語」「日本語基礎（文字表						
日	記・語彙・文型等）」の内容と指導方法について知り、事例をもとに授業計画の						
(木)	立て方、授業運営上の留意点について学ぶ。						
中期・後期指導プログラム【講義・演習】		講義 「日本語中期・後期指導段階の日本語プログラムと授業づくり」	休 憩	演習 「日本語中期・後期指導（主に読む力、書く力を高める指導）の実践」	休 憩	休 憩	
	東京女子大学 江戸川区立一之江小学校	教授 教諭	石井 恵理子 花島 健司				
◎目的：日常生活ができる児童生徒を対象とした「読む力・書く力」を高めるための日本語プログラムの内容と指導方法について知り、事例をもとに授業の立て方、授業運営上の留意点について学ぶ。		◎目的：日本語の「読む」「書く」技能を中心にした活動の学習指導計画を作成し、中期・後期段階の日本語指導についての理解を深め、授業を実践する力を高める。					
教科指導実践プログラム【講義・演習】		講義 「JSLカリキュラムの授業づくり」	休 憩	演習 「JSLカリキュラムの実践」	休 憩	休 憩	
	東京学芸大学 山梨県甲府市立新田小学校 京都市教育委員会	教授 教諭 指導主事	齋藤 ひろみ 今澤 憐 大言 佐妃子				
◎目的：日常生活ができる児童生徒を対象とした「JSLカリキュラム（教科と日本語の統合型の学習プログラム）」の内容と方法について知り、事例をもとに指導計画の立て方、授業運営上の留意点について学ぶ。		◎目的：JSLカリキュラムの学習指導計画を作成し、教科と日本語を統合した授業についての理解を深め、授業を実践する力を高める。					

第4日目	8:30	12:00	13:00	14:45	15:00
	3プログラム共通				
	全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」		休憩	講義5 「研修講師となるために」	閉講式
11月7日(金)	波多野ファミリスクール 愛知県豊橋市教育委員会 東京女子大学 江戸川区立一之江小学校 東京学芸大学 山梨県甲府市立新田小学校 京都市教育委員会		大藏 守久 築樋 博子 石井 恵理子 花島 健司 齋藤 ひろみ 今澤 倂 大菅 佐紀子	東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	
	学監 相談員 教授 教諭 教授 教諭 指導主事			◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。	
	◎目的：各プログラムの代表班の学習指導計画についての発表をもとに、子供たちの言語習得・認知発達・社会的等の側面から、日本語指導の内容と方法についての理解を更に深める。				

I 研修概要

研 修 名	生徒指導指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動である。その推進に当たっては、教職員が適切に指導・援助するとともに、学校全体の共通理解と組織的、計画的な取組が不可欠である。 本研修では、①生徒指導の理論、②未然防止や問題行動への対応についての考え方と指導方法、③全職員の共通理解と学校としての協力体制及び効果的な指導体制等、について習得する。生徒指導上の諸課題に対応するとともに、児童生徒のよりよい成長を目指すための「生徒指導を核とした学校運営及びマネジメントの改善を实践する指導者」を養成する。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の生徒指導を担当する指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成26年 6月26日（木）～平成26年 7月11日（金）				16日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	108	参加率 98.2%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	98	90.7	10	9.3	0	0.0	108
		108	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・生徒指導だけで12日間の研修を受ける機会を頂き、大変有意義であった。 ・新しい知見があり、自己の能力向上につながった。 ・研修の振り返り等、聴くのみならず、復習することができるのは大変良かった。 ・広範囲かつ深いレベルまで教授していただき、非常に有意義な研修でした。 ・今までの生徒指導の取組を理論的に整理し、考える時間となりました。 ・幅広くなりすぎていたように感じもしました。1つ、重点内容を設けて、1日など時間をかけて、掘り下げてみてほしいのではないのでしょうか。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・新たに、校内の生徒指導体制構築を目的とした「生徒指導のための体制づくりと人材育成」を新設した。
次年度に向けて ・生徒指導を充実させるためには、保護者、地域との連携協力が不可欠であるため「学校と家庭・地域との連携の在り方」を新設する。 ・受講者のニーズに対応するため、「児童虐待防止に向けた取組（小中）」「自殺予防に向けた取組（中高）」を校種別講義とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度生徒指導指導者養成研修日程表

平成26年6月26日(木)～7月11日(金)

独立行政法人教員研修センター

< 日程と講座内容 >

期 日(曜)		8:30	9:15	9:30	12:00	13:15	15:45	16:00	17:00
1	6月26日(木)			受付 (9:30～9:50)	オリエンテーション① (10:00～11:45) 教員研修センター主任指導主事 櫻井良種 専門員 松原健二	開講式 (13:00～13:20)	これからの生徒指導における重要課題(13:30～15:00) 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課長 内藤 敏也	特別講義(15:15～16:45) 神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマネージャー 平尾誠二	
2	6月27日(金)	オリエンテーション②	学校の生徒指導力を高めるために 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇			教育課程と生徒指導 愛媛大学准教授 城戸 茂			班別協議①
	6月28日(土)								
	6月29日(日)								
3	6月30日(月)	オリエンテーション③	心の教育と生徒指導 昭和女子大学大学院教授 押谷由夫			特別支援の理解と生徒指導 FR教育臨床研究所所長 花輪敏男			課題討議①
4	7月1日(火)	事例協議①	不登校の予防と対応 鹿児島大学教授 大坪治彦			いじめの予防と対応 京都教育大学教授 桶谷守			事例協議②
5	7月2日(水)	事例協議③	講義	生徒指導事例研究(1)		生徒指導事例研究(2)		総括講義	事例協議④
			1班(小) 奈良教育大学大学院教職大学院長 教授 池島徳大 2班(小中) 愛媛大学教授 平松義樹 3班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 4班(中) 京都教育大学大学院教授 桶谷守 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井肇						
6	7月3日(木)	事例協議⑤	講義	生徒指導事例研究(3)		生徒指導事例研究(4)		総括講義	課題討議②
			1班(小) 奈良教育大学大学院教職大学院長 教授 池島徳大 2班(小中) 愛媛大学教授 平松義樹 3班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 4班(中) 京都教育大学大学院教授 桶谷守 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井肇						
7	7月4日(金)	課題討議③	児童生徒理解と望ましい学級集団づくり 広島大学大学院教授 栗原慎二			生徒指導のための体制づくりと人材育成 神田外語大学教授 嶋崎政男			課題討議④
	7月5日(土)								
	7月6日(日)								
8	7月7日(月)	オリエンテーション④	児童虐待防止に向けた取組 大正大学教授 玉井邦夫			情報モラル教育の充実 千葉大学教授 藤川大祐			課題討議⑤
9	7月8日(火)	課題討議⑥	自殺予防に向けた取組 筑波大学医学医療系教授 高橋祥友			選 択	不登校児童生徒の指導と課題 開善塾教育相談研究所所長 金澤純三		課題討議⑦
							性・薬物に関わる非行の予防と対応 京都大学准教授 木原雅子		
10	7月9日(水)	課題討議⑧	生徒指導と関係法規 ～児童虐待、いじめ、体罰等を考える～ 日本女子大学教授 坂田 仰			生徒指導のリスクマネジメント ～危機に強い学校を創る～ 高崎経済大学講師 飯野真幸			課題討議⑨
11	7月10日(木)	課題討議⑩	研修成果の発表・パネルディスカッション・指導講評 兵庫教育大学大学院教授 新井肇						班別協議②
12	7月11日(金)	班別協議③ (8:30～9:00)	生徒指導のリーダーとなるために ～生徒指導を核とした学校マネジメントの改革～(9:15～11:45) 文教大学教授 柳生和男			閉講式 (12:00～12:20)			

I 研修概要

研 修 名	人権教育指導者養成研修						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するための必要な知識等を習得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者（人権教育担当者を含む） 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者（人権教育の指導的立場を担う者）						
開 催 期 日	平成26年7月9日（水）～平成26年7月11日（金）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	134	人	参加率 121.8%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	111	82.8	23	17.2	0	0.0	134
		134	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・人権教育について、たくさんの情報交換をする中で、推進上の課題や改善の方策を学ぶことができた。また改めて学校教育の現場は人権教育の指導の場であると同時に実践の場であると実感した。その指導・実践の成果は教師の力量に負うことから、教師のより高い人権意識を涵養すると共に、指導力を高める研修等を実施していきたい。 ・今回の研修で人権教育の意味（良さ、すてきさ）を講師の先生方から教えていただいたように思った。また協議をすすめていく中で、いろいろな話、意見を知ると同時に、自分の考えを整理する機会をいただいたように思う。何ができるか…まず何か始めることが大切なのかなと感じた。 ・世界的な人権教育の流れから、今現在の社会の様子等、分かりやすく説明して頂き、大変勉強になった。また、アクティビティ等、なかなかやる機会がないのだが、自分がやってみると、難しさを感じる部分もあった。 ・基礎学習の講義がとても充実した内容で、とても分かりやすく、伝えやすいもので今後の指導的立場として役立つと実感できている。また、演習においては、それぞれの課題が解決できるような実用的で有用感のあるものでした。悩みや疑問を相談しやすい雰囲気は何より、研修の環境としてソフト面が素晴しかった。内容が充実していたので、心から主体的に参加、活動できた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「研修講師となるために」の講師に初日から、研修に参加して頂いて、講義を行った。 ・2日目の演習課題について、内容の見直しを行った。 次年度に向けて ・開講式後に、文部科学省児童生徒課より、「行政説明」（「講義」へ変更）を行い、その後、「講義・課題協議・演習」を行う。【順番を入れ替える】 ・3日目の演習で、午後にエンカウンターを新たに90分間設定し、3日目の終了時間を15：15とする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度人権教育指導者養成研修
日程表

第1日目

9:00 9:30 9:50		11:30	12:30	13:50	14:00	14:45	16:00	16:10	17:15
		講義・課題協議・演習		屋休み		事例発表・協議		休憩	
7月9日 (水)	受	開 講 式		休 憩		行政説明 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 課長補佐 史明 中 安		「人権教育推進上の課題と改善策等について」 ー「人権教育の指導方法等の在り方について」〔第三とりまとめ〕等を踏まえてー	
	付								
		【講義・協議】 ◎目的：人権及び人権教育をめぐる内外の動向を踏まえ、国際的な視点からも普遍的な人権教育が学校教育において必要であることとを学ぶ。		【演習・協議】 ◎目的：人権教育の指導方法原理の再確認をすることにも、協力的・参加的・体系的な学習を推進するための研修の在り方等について理解を深める。		事例発表 大阪府松原市教育委員会 学校教育部 教育研修センター長補佐 山森 篤 沖縄県名護市立羽地中学校 教諭 比嘉 共樹 新潟県魚沼市立広神西小学校 教頭 関原 るみ子 指導助言 山梨県立大学特任教授 ・（公財）人権教育啓発推進センター 上級特別研究員 福田 弘 元 東大阪市立枚岡東小学校 校長 神野 ちどり 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 東京聖栄大学健康栄養学部 教授 有村 久春 ◎目的：人権教育の先進的な取組を知るとともに各地域の取組を共有することで、演習に向けて課題を明確化する。 14:45～16:00 事例発表・質疑応答 16:00～16:10 休憩 16:10～17:15 班別協議			

第2日目

7月10日 (木)	8:30	演習			12:00	13:00	17:00
	「学校における人権教育の改善・充実について」人権教育の指導方法等の在り方について〔第二次とりまとめ〕等を踏まえてー						
	休憩		グループ発表・協議				
	(課題) A 教育委員会等における効果的な教職員向け研修プログラム等の作成 B 学校としての組織的な取組 C 指導内容・指導方法・学習環境づくり等の工夫・改善 ◎目的：各テーマにおける現状と課題について協議を深めることにより、人権教育を推進するための資料（研修成果を活かすための資料）を作成し、改善・充実に係る知識・方法を修得する。						
	(講師) A (1～10班) 元 東大阪市立枚岡東小学校 校長 神野 ちどり B (11～19班) 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 C (幼小) (20～23班) 東京聖栄大学健康栄養学部 教授 有村 久春 C (中高) (24～27班) 山梨県立大学特任教授・ (公財) 人権教育啓発推進センター上級特別研究員 福田 弘		第二研修棟 2階 研修室 特別研修棟 研修室A 特別研修棟 研修室B 第二研修棟 1階 研修室				
8:30～ 8:40 演習内容についての留意事項説明 8:40～12:00 事前課題説明 (10分/人) 質疑応答、意見交換、 研修成果物作成 12:00～13:00 昼休み 13:00～15:00 研修成果物作成 (14:30までに骨子を指導助言者にみせる)		15:00～16:30 班発表 16:30～16:50 指導助言者からのコメント 16:50～17:00 3日目全体発表班の決定 ※ 演習の進行については、おおむね、以上の通りとするが、 班の数がグループにより、異なるので、グループにより、 進行方法、発表時間等が異なる場合がある。					

第3日目

9:00		11:20 11:30	12:15 12:30
7月11日 (金)	演習 「学校における人権教育の改善・充実について」 全体発表・協議・まとめ- 元 東大阪市立枚岡東小学校長 神野 ちどり 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅野 正信 東京聖栄大学健康栄養学部 教授 有村 久春 9:00～ 9:05 説明準備 9:05～10:00 発表×4班 (発表10分+質疑3分) 10:00～10:35 講評(講師1人 10分) 10:35～10:50 振り返り 10:50～11:20 まとめ ◎目的：研修結果の全体を理解するとともに、演習成果の活かし方について理解を深める。	休憩	課題協議 「研修講師となったために」 上越教育大学大学院 学校教育研究科 教授 梅野 正信 ◎目的：人権教育についての理解を深め、本研修の成果等をまとめる。
			閉講式

I 研修概要

研 修 名	キャリア教育指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、必要な知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及びキャリア教育推進の指導者としての活動を行う者					
開 催 期 日	平成26年5月19日（月）～平成26年5月23日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	220	人	受講者数	234	人 参加率 106.4%
開 催 場 所	教員研修センター					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	205	87.6	29	12.4	0	0.0	234
		234	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・素晴らしい講師の先生方、貴重な実践事例を発表して下さった先生方、濃密なプログラム開発年間指導計画作成の演習とともに充実した研修であった。キャリア教育の重要性を理解するとともにしっかりと研修会等で伝えていかなければならないと思った。

・子どもたちのために、こんな教育ができればいいな。と考えていた全てがキャリア教育に詰まっていることがよくわかった。もっと早く気付いて勉強していればよかったと思う。(現場で悶々としていたので。)教育課程にもマストのものなので、地域での伝達講習を義務づけてもいいくらいだと思う。

・大変有意義な研修となった。県全体への利益還元ももちろんですが、本校の実践にも活用していく決意である。この5日間の研修内容について研修会、レポート発表等を数回行うつもりである。

・講義・演習が適度に混ざられており、全くあきることがない研修であった。各講師の方々の能力が非常に高く、心に響くプレゼンであった。全身からオーラを出して、キャリア教育の考え方を伝えたい。

・実に濃い内容であった。キャリア教育を県内の各学校にしっかりと根づかせたいと思う。今回学んだことを帰ってから学び直し、さらに理解を深め、研修で講師ができるよう準備をしていきたい。研修環境はとても良く、じっくり取り組むことができ、感謝している。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・東西ブロック開催を見直し全国を対象として、教員研修センター（つくば市）で開催した。また、受講定員が倍の220人になったため、研修内容や受講生規模に応じ、センター内の使用研修室を見直した。また、演習によっては、一つの講義室で実施するのではなく、二つの講義室で同内容を同時進行した。 ・経営コース受講者を対象として実施していた特定非営利法人スクールアドバイスネットワーク理事長の発表を全受講者を対象に実施した。
次年度に向けて ・教員研修センター（つくば市）での年1回開催を見直し、教員研修センターで、対象都道府県をそれぞれ指定した上で、年2回で開催する。 ・事前提出資料1で、地域や学校でキャリア教育を推進する上での課題及び課題解決のための方策について、記載を求めているが、開催時期を早くしたことを踏まえ、現在の実践の状況と推進する上での課題について、記載を求めることとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度 キャリア教育指導者養成研修

第1日目

9:30 10:00		12:30 13:30	17:00	
休 憩		休 憩	休 憩	
5月19日 (月)	開 講 式 【講堂】	課題協議 「キャリア教育の現状と本研修の進め方」 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹	屋 休 み	課題協議・事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて1 ～発達段階に応じたキャリア教育の在り方～」 講師 国立大学法人東北大学名誉教授 菊池 武利 事例発表 仙台市立中野小学校 教諭 櫻井 智雄 京都府宇治市立広野中学校 教諭 菊井 雅志 山梨県立甲府第一高等学校 教諭 標 輝人
		【講堂】 座席：①都道府県別	【第二研修棟2階】 座席：②学校種別(1)	

第2日目

9:00 12:15 13:15 14:00 14:10 17:00		17:00	
休 憩		休 憩	
5月20日 (火)	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて2 ～校種間連携の方策～」 【小中連携】 講師 大阪府教育委員会事務局人権教育企画課 同和教育グループ 竹中 重雄 事例発表 大阪府東大阪市立意岐東小学校 教諭 浦上 太一 【中高連携】 講師 国立大学法人お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター 准教授 望月 由起 事例発表 青森県板柳町立板柳中学校 教諭 番場 亜由美 【第二研修棟2階】 座席：③学校種混合	屋 休 み	課題協議 「社会と協働して進めるキャリア教育」 清川メック工業株式会社 専務取締役兼品質保証部長 清川 卓二
		休 憩	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて3 ～地域社会と学校の連携推進のために～」 座席：④⑤⑥学校種別(1) 【研修棟1階101研修室】 ○ 小学校部会 講師 久留米市教育センター 指導主任 四ヶ所 清隆 事例発表 京都市教育委員会生涯学習部首席社会教育主事 前京都市立梅小路小学校長 稲葉 弘和 ○ 中学校部会 【食堂棟3階レセプションホール】 講師 品川区立荏原第六中学校 校長 佐藤 勝 事例発表 佐賀県武雄市立武雄中学校 教諭 高取 照秋 ○ 高等学校部会 【第二研修棟2階】 講師 中央大学文学部 教授 古賀 正義 事例発表 三重県立津高等学校 教諭 林 仁大

第3日目

9:00 10:30 10:45 12:00 13:00 17:00		17:00	
休 憩		休 憩	
5月21日 (水)	課題協議 「キャリアアカウンティングの 基盤としてのコミュニケーション スキルの向上」 関西大学社会学部 教授 川崎 友嗣 【第二研修棟2階】 座席：⑦学校種別(2)	演習 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 ◎目的：児童生徒の現状や身につけさせたい能力・態度を踏まえた指導計画作りを通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な知識・方法を得る 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹 関西大学社会学部 教授 川崎 友嗣 埼玉県富士見市立勝瀬中学校 教頭 堀川 博基 東京都足立区立六月中学校 主任教諭 佐藤 学	【第二研修棟2階 座席：⑧学校種別(2-1) 食堂棟3階レセプションホール 座席：⑨学校種別(2-2)】

第4日目

5月22日 (木)	両コース共通		経営コース	
	9:00	10:50	11:00	14:50 15:00 17:00
事例発表・課題協議 「地域や行政との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 ◎目的：先進事例等から、効果的にキャリア教育を進めるための地域や行政との連携方策を学ぶ 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 スクールアドバイザーネットワーク 理事長 生重 幸恵	事例発表・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 講師 品川区立荏原第六中学校 校長 佐藤 勝 【食堂棟3階しセプションホール】 座席：⑩学校種別（経営コース）	休憩 11:00	課題協議 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 【食堂棟3階しセプションホール】 座席：⑩学校種別（経営コース）	休憩 17:00
事例発表・課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 【講堂】 座席：⑬学校種別（推進コース）	事例発表・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 講師 品川区立荏原第六中学校 校長 佐藤 勝 【食堂棟3階しセプションホール】 座席：⑩学校種別（経営コース）	休憩 11:00	課題協議 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 【食堂棟3階しセプションホール】 座席：⑩学校種別（経営コース）	休憩 17:00

第5日目

5月23日 (金)	両コース共通		経営コース	
	9:00	11:45	12:45	15:15 15:30
事例発表・課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」 国立大学法人福岡教育大学 教授 西山 久子 【講堂】 座席：⑬学校種別（推進コース）	事例発表・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 講師 品川区立荏原第六中学校 校長 佐藤 勝 【食堂棟3階しセプションホール】 座席：⑩学校種別（経営コース）	課題協議 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 【食堂棟3階しセプションホール】 座席：⑩学校種別（経営コース）	課題協議 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 【食堂棟3階しセプションホール】 座席：⑩学校種別（経営コース）	課題協議 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 国立大学法人筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 【食堂棟3階しセプションホール】 座席：⑩学校種別（経営コース）

I 研修概要

研 修 名	教育相談指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	いじめ、不登校、暴力行為など生徒指導上の諸問題は、依然として憂慮すべき状況にある。また、子供たちを取り巻く環境の変化とともに、「ネットいじめ」などの新しい形の問題が生じるなど、生徒指導上の問題は一層多様化、複雑化している。これらの問題に効果的に対応するためには、学校等における教育相談の更なる充実が不可欠である。 本研修では、より効果的な教育相談を実践する力、生き生きとした子供たちを育てるために教育相談をマネジメントする力を身に付け、教育相談体制の確立を図ることができる「行動する指導者」を養成する。					
受 講 対 象	各都道府県・指定都市・中核市教育委員会等での教育相談研修を受講修了した者、又はそれに相当する資質を備えた指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成26年 9月16日（火）～平成26年 9月19日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	60	人	受講者数	73	参加率 121.7%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	56	76.7	16	21.9	1	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0		73
		72		98.6											

2. 研修内容に関する主な意見

・ 4日間に渡り、素晴らしい環境の下、充実した内容と方法での研修であり、大変有意義であったと思います。また、全国の素晴らしい先生方と出会い、同じ時を過ごせたことは至福の喜びでありました。 ・ 教育相談と生徒指導は実質的に統合していくものであり、教員研修を計画的に実施していく必要性を感じた。校内でのチーム体制、校外の関係機関との連携においても、アセスメントとプランニングを学校が主体性をもって行えるよう、サポートしていきたい。 ・ 教育相談について段階的にプログラムが組まれていたので、一つ一つ順を追って理解したり再確認したりすることができました。講義等の他に、研修のポイントや具体的な研修の方法も示して下さいだったので、今後の研修の実践につながりやすいと思いました。 ・ 具体的な手立てを示して下さる講義で、すぐ現任校でも実施できることがいくつもあります。また、全国の先生方との情報交換も、大変刺激を与えていただきました。 ・ 今後、現場で役立てられる内容ばかりで、大変勉強になった。帰って早速、何らかの形で還元したいと思う。 ・ 残念なのは、4日間のつながりが感じられなかったことです。24時間講習という位置づけになると、さらに効果的かと感じました。 ・ 理念・定義を少なめにしていただき、実際の事例に対しての解決法を提示して頂き、理論に結び付けていただくと、さらに一層よかったですと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 事例として、受講者のニーズの高いスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携体制の構築を取り上げた。 次年度に向けて ・ 地域において、研修成果を積極的に活用するための具体的計画を作成する「教育相談に取組む指導者として～研修成果の活用に向けて～」を新設する。 ・ 実践発表では、SSWの活用、外部専門機関との連携等を視野に入れたコーディネート事例に重点を置き、協議をする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

日程表

平成26年度教育相談指導者養成研修日程表

平成26年9月16日(火)～平成26年9月19日(金) 3泊4日 会場:教員研修センター

8:30	9:00	9:30	9:50	10:10	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日 9月16日(火)		受付	オリエンテーション①	開講式	講義・協議 「生徒指導における教育相談の役割」 ～効果的な相談体制を通して～ 日本体育大学 教授 三好 仁司	昼食・休憩	事例演習1 「教育相談体制の見直し」 ～事前課題に関する協議等～ 日本体育大学 教授 三好 仁司											諸連絡
第2日 9月17日(水)	オリエンテーション②	事例演習2 「教育相談体制をよりよくするために」 ～実践発表と協議～ 文教大学 教授 柳生 和男 昭和町立西条小学校(山梨県) 教諭 福田 聖子 川越市立大東西小学校(埼玉県) 教諭 宮崎 洋平 宮崎県教育庁学校政策課 指導主事 永山 新一					昼食・休憩		昼食・休憩	協議・講義 「教育相談体制の充実に向けて」 文教大学 教授 柳生 和男								
第3日 9月18日(木)	オリエンテーション③	講義・演習 「教育相談を効果的に推進するために(1)」 ～効果的な教育相談の進め方～ 広島大学大学院 教授 栗原 慎二					昼食・休憩		昼食・休憩	講義・演習 「教育相談を効果的に推進するために(2)」 ～具体的な手立てを通して～ 広島大学大学院 教授 栗原 慎二								
第4日 9月19日(金)	オリエンテーション④	講義 「教育相談のマネジメント」 ～教育相談のリーダーとなるために～ 神田外語大学 教授 嶋崎 政男					閉講式											

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【北海道・東北ブロック】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このため、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術やマネジメント力を習得させ、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。						
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成26年 5月19日（月）～平成26年 5月21日（水）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	75	人	参加率
開 催 場 所	TKPガーデンシティ仙台勾当台（宮城県仙台市）						

※ 全体受講定員 600 人、 受講者数 555 人、 参加率 92.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	58	77.3	17	22.7	0	0.0	75
		75	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・ どの講義・演習も充実した素晴らしい内容であった。自分自身の心に響き、尚一層、いじめ問題に真剣に取り組んでいきたいと感じた。 ・ 「つかむ」「深める」「生かす」という3日間のテーマに文脈があり、意欲をもつことができた。 ・ いじめの問題への取組について、理論的な根拠、法律、実践に向けたポイント等、大変分かりやすい研修でした。 ・ 生徒指導にかかわる研修会における企画・立案等に変大参考になりました。また、学校訪問等における指導・助言にも大変役立つ内容でした。 ・ 「いじめ問題に関する」意識が「いじめ問題を通して」考える学校づくりの大切さ、というところにシフトしていくのを自覚した。未然防止の対策を系統的・計画的に考えていくことは、要するに生徒指導の原理原則を貫くことだと3日間で学んだ。 ・ 教育現場ではなく、指導者養成を目的とした研修ということで、初めて知ることが数多くあり、大変勉強になった。今回の研修の内容を持ち帰り、一人でも多くの関係者の方々に広めたいと思う。 ・ 講義はいずれもよい内容でしたが、折角、各道県より集まっているので、お互いの意見交換の場が、半日あるいは1日とられても良いかと思います。そのことにより、今抱えている疑問・課題が解決されるところもあるかと思っています。 ・ 話の内容（量）からすると、やや時間が足らなかったように感じました。もう少し詳しく聞いてみたいと思う場面もありました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 受講者が研修の目的等を明確に把握し、本研修に臨むことができるように、開講式前にオリエンテーションを実施し、研修初日の午前に文部科学省からの行政説明を行った。 ・ 研修第3日目「いじめの問題に取り組むリーダーとして～指導者としてのマネジメント～」では、小・中・高等学校における指導者としてのマネジメントについて講義・演習を行った。
次年度に向けて ・ いじめ防止対策推進法の適切な把握と実践のため、研修第1日目「いじめの問題に関する現状と取組」を90分→100分、「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」を180分→210分に拡充する。 ・ 研修成果の活用推進のため、研修第3日目「いじめの問題に取り組む指導者として～研修成果の活用に向けて～」を新設し、班別協議を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程表

北海道・東北ブロック【仙台】 5月19日(月)～5月21日(水)

	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省	昼食・休憩			講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 弁護士 横山 巖	事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～							
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 文教大学 教授 松田 素行	昼食・休憩					講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 文教大学 教授 松田 素行	オリエンテーション③								
第3日	オリエンテーション④	講義・演習 「いじめの問題に取り組むリーダーとして」 ～指導者としてのマネジメント～ 大阪市立大学 名誉教授 森田 洋司	閉講式														

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【関東・甲信越ブロック】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このため、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術やマネジメント力を習得させ、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。					
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成26年 5月14日（水）～平成26年 5月16日（金）				3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	113	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 600 人、 受講者数 555 人、 参加率 92.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	92	81.4	21	18.6	0	0.0	113
		113	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・「つかむ」「深める」「生かす」のテーマに基づき、大変有意義な3日間を過ごすことができました。他の都県の先生方との交流ができたことも意義深かったと思います。今後、研修で学んだ成果を生かしていけるよう、努力していきたいと思っています。
・改めて「いじめ問題」の緊急性や重要性を認識しました。生徒の人権を守るため、いじめは見つけようと思って見つけることを念頭に置き、未然防止・早期対応に努めていきたいと思っています。
・今まさに取り組むべき課題が、具体的に見えてきた。研修内容に大変満足した。
・長年、重大事態にかかわっている弁護士のお話には力があつた。また、法を踏まえてその意義、私たちが何をすべきかということが自分なりに理解でき、有意義であった。
・もっと深く学びたいと思いました。一日目の午前中の講義は内容の割に時間が少なく、内容を理解するのに苦労をしました。3日間で学んだことを、学校でもすぐに実践していきます。
・有意義だったと思いますが、それぞれの講義の時間不足を感じました。泊数を多くしてでも時間を多くとっていただき、先生方の話をじっくりと伺いたかったと感じました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・受講者が研修の目的等を明確に把握し、本研修に臨むことができるように、開講式前にオリエンテーションを実施し、研修初日の午前に文部科学省からの行政説明を行った。
・研修第3日目「いじめの問題に取り組むリーダーとして～指導者としてのマネジメント～」では、小・中・高等学校における指導者としてのマネジメントについて講義・演習を行った。
次年度に向けて
・いじめ防止対策推進法の適切な把握と実践のため、研修第1日目「いじめの問題に関する現状と取組」を90分→100分、「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」を180分→210分に拡充する。
・研修成果の活用推進のため、研修第3日目「いじめの問題に取り組む指導者として～研修成果の活用に向けて～」を新設し、班別協議を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程表

関東・甲信越ブロック【つくば】 5月14日(水)～5月16日(金)

9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	####	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と 取組」 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課生徒指導室長 池田 宏	昼食・休憩	講演 「心の叫び -いじめの問題を考える-」 弁護士 坪井節子	事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～								オリエンテーション③
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇	昼食・休憩			講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇								オリエンテーション③		
第3日	オリエンテーション④	講義・演習 「いじめの問題に取り組むリーダーとして」 ～指導者としてのマネジメント～ 神田外語大学 教授 嶋崎 政男	閉講式													

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【東海・北陸ブロック】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このため、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術やマネジメント力を習得させ、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。							
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成26年 5月28日（水）～平成26年 5月30日（金）					3日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	76	人	参加率	※
開 催 場 所	栄ガスビル（愛知県名古屋市）							

※ 全体受講定員 600 人、 受講者数 555 人、 参加率 92.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	68	89.5	8	10.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	76	
		76		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・これまでの学校、教員の取組と新たに施行されたいじめ防止対策推進法との関係、これから私たちがすべきことを整理し、理解することができた。 ・「つかむ」「深める」「生かす」というプロセスで、非常に研修を受けやすかった。今までの何倍もの知識・技能等を身につけることができたように思う。今までバラバラに頭の中にあった内容が再構築されて、論理的に整理された内容になった。 ・意識を高める、組織で対応する（協働）、初期対応を間違えない、一刻も早く職場で還元したいと思う自分がいます。職員室を変えたい、と思える3日間でした。 ・この研修へ参加して、どのように普及・活用していくのか、責任を感じました。 ・他県・他校種の方々との協議を通じて、自分の考えを確認することができた。協議の手法も大変勉強になった。 ・法制化の意義など、これまで自分にはなかった視点で現状を捉え直すことができた。また、推進法・基本方針について重点化させながら再認識することができ、今後の指導・助言に活かせるものが多く、大変参考になった。 ・ブロックで開催することで、他県の方と交流し、意見交換ができたことは有意義であったと思います。 ・協議の時間をもう少し取ることができれば良かったと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・受講者が研修の目的等を明確に把握し、本研修に臨むことができるように、開講式前にオリエンテーションを実施し、研修初日の午前中に文部科学省からの行政説明を行った。 ・研修第3日目「いじめの問題に取り組むリーダーとして～指導者としてのマネジメント～」では、小・中・高等学校における指導者としてのマネジメントについて講義・演習を行った。
次年度に向けて ・いじめ防止対策推進法の適切な把握と実践のため、研修第1日目「いじめの問題に関する現状と取組」を90分→100分、「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」を180分→210分に拡充する。 ・研修成果の活用推進のため、研修第3日目「いじめの問題に取り組む指導者として～研修成果の活用に向けて～」を新設し、班別協議を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程表

東海・北陸ブロック【名古屋】 5月28日(水)～5月30日(金)

9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省	屋食・休憩		講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 (株)佐藤商会 執行役員 黒岩 禪	事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～							
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 文教大学 教授 柳生 和男	屋食・休憩					講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 文教大学 教授 柳生 和男								オリエンテーション③
第3日	オリエンテーション④	講義・演習 「いじめの問題に取り組むリーダーとして」 ～指導者としてのマネジメント～ 高崎経済大学 講師 飯野 真幸	閉講式													

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【近畿ブロック】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このため、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術やマネジメント力を習得させ、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。						
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成26年 5月26日（月）～平成26年 5月28日（水）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	81	人	参加率 ※
開 催 場 所	新梅田研修センター（大阪府大阪市）						

※ 全体受講定員 600 人、 受講者数 555 人、 参加率 92.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	59	72.8	21	25.9	1	1.2	0	0.0	81
		80	98.8							

2. 研修内容に関する主な意見

・いじめの問題を考える時、自分の体験を元に話を進めてしまうことが多かったが、今回の研修で、様々な立場の方との交流や、学術的な知識に触れることができ、随分「いじめ」について捉え方が深まったように感じる。今後、様々な場面で今回得たことを伝えていかななくては、と感じている。
・研修の日程（講義の配列等）が非常によく考えられており、理解が深まりました。また、近畿地方の先生方と共に喫緊の課題であるいじめ問題について学び合うことができ、感謝いたします。
・学校基本方針の策定といじめ防止のための体制づくりや取組が求められている中で学校の取り組むべきことや目指すべき方向について分かりやすく示していただきました。
・様々な視点から勉強することができ、いじめだけでなく生徒指導においても役立てられると感じた。やはり教員は生徒の見本であり、何事においても”行動を起こす”ことが第一であると感じた。
・いじめをしない人間づくり、いじめが起らない学校づくり、雰囲気づくりに関する内容がもっとあってもよかった。荒んだ心、環境の改善がいじめの予防につながると私は考えている。
・伝達講習をこれからどうしていくか、ということ考えた場合、今回のように理論・実践両面のことを教えていただいたのは、大変良かったです。
・もう少しロールプレイ等、実践的な手法を用いた研修であれば、学校等に持ち帰り、すぐにでも生かせられると思います。3日間で得た知識は自分のものだけにするのではなく、他に広めたいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・受講者が研修の目的等を明確に把握し、本研修に臨むことができるように、開講式前にオリエンテーションを実施し、研修初日の午前に文部科学省からの行政説明を行った。
・研修第3日目「いじめの問題に取り組むリーダーとして～指導者としてのマネジメント～」では、小・中・高等学校における指導者としてのマネジメントについて講義・演習を行った。
次年度に向けて
・いじめ防止対策推進法の適切な把握と実践のため、研修第1日目「いじめの問題に関する現状と取組」を90分→100分、「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」を180分→210分に拡充する。
・研修成果の活用推進のため、研修第3日目「いじめの問題に取り組む指導者として～研修成果の活用に向けて～」を新設し、班別協議を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程表

近畿ブロック【大阪】 5月26日(月)～5月28日(水)

9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省		昼食・休憩		講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 奈良女子大学 教授 伊藤 美奈子	事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～	オリエンテーション③					
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 文教大学 教授 柳生 和男				昼食・休憩	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 文教大学 教授 柳生 和男									
第3日	オリエンテーション④	講義・演習 「いじめの問題に取り組むリーダーとして」 ～指導者としてのマネジメント～ 高崎経済大学 講師 飯野 真幸	閉講式													

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【中国・四国ブロック】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このため、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術やマネジメント力を習得させ、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。						
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成26年 6月 2日（月）～平成26年 6月 4日（水）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	109	人	参加率
開 催 場 所	岡山国際交流センター（岡山県岡山市）						

※ 全体受講定員 600 人、 受講者数 555 人、 参加率 92.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	89	81.7	20	18.3	0	0.0	109
		109	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・「いじめ」をどうするというのではなくて、様々な見地から、「子どもをどのように見つめるか」と、その目で見、「子どもの声をどう聴きとるか」とその耳で感度を研ぎすますことの重要性を確認できました。「いじめ」を通じて「子ども」をどう見つめるかという問題の立て方が良かったと思います。
・それぞれの立場で、講演をしていただき、ありがたかった。資料も具体的で大変参考になった。参加者も行政、小、中、高と、様々で、異校種間の連携を進めるうえで参考になった。
・普段聞くことのできない講師の先生方や、他県の先生方の話を伺うことができて大変有意義でした。
・みんなで1つのことを話し合う活動をしたのがよかった。職員間でも、学級または学校の子どもたちにも同じことができれば大きな効果が期待できると思ったから、会に参加した意義がありました。
・現在の学校とてらしあわせて研修に臨むことで、新たな課題を発見することができた。新しい実践内容、手段、方法を身につけることに大変意味があったと思います。
・トータルとしてのプログラムや展開はよかったです。時間的制約がありますが、演習や指導実践がもう少しあるとよかったです。
・一度に多くのことをインプットしたので、自身の中でやや消化不良になっている。「生かす」ためにも、より具体的な場面を想定したアウトプットの場面がもっと欲しかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・受講者が研修の目的等を明確に把握し、本研修に臨むことができるように、開講式前にオリエンテーションを実施し、研修初日の午前に文部科学省からの行政説明を行った。
・研修第3日目「いじめの問題に取り組むリーダーとして～指導者としてのマネジメント～」では、小・中・高等学校における指導者としてのマネジメントについて講義・演習を行った。
次年度に向けて
・いじめ防止対策推進法の適切な把握と実践のため、研修第1日目「いじめの問題に関する現状と取組」を90分→100分、「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」を180分→210分に拡充する。
・研修成果の活用推進のため、研修第3日目「いじめの問題に取り組む指導者として～研修成果の活用に向けて～」を新設し、班別協議を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程表

中国・四国ブロック【岡山】 6月2日(月)～6月4日(水)

9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省	屋食・休憩		講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 奈良女子大学 教授 伊藤 美奈子	事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～							
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇	屋食・休憩					講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 兵庫教育大学大学院 教授 新井 肇								オリエンテーション③
第3日	オリエンテーション④	講義・演習 「いじめの問題に取り組むリーダーとして」 ～指導者としてのマネジメント～ 愛媛大学 教授 平松 義樹	閉講式													

I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修【九州ブロック】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	いじめの問題は隠さずに、適切な実態把握や対応がなされる必要がある。このため、いじめの問題と正対し、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を図るために必要な知識と技術やマネジメント力を習得させ、問題の解決に向けた判断力と行動力を発揮する指導者を養成する。						
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成26年 6月 4日（水）～平成26年 6月 6日（金）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	101	人	参加率 ※
開 催 場 所	TKP博多駅前シティセンター（福岡県福岡市）						

※ 全体受講定員 600 人、 受講者数 555 人、 参加率 92.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	79	78.2	22	21.8	0	0.0	101
		101	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・ 3日間、お世話になりました。いじめの問題に関して、何を最重視し、どんなことに具体的にに取り組んでいくべきなのか、大変意義のある研修会でした。 ・ 「つかむ」⇒「深める」⇒「生かす」という流れに沿って研修が進められて、とても理解しやすく有意義な研修だったと思います。 ・ 単なる事例報告といった内容ではなく、いじめやそれに対処することについての本質的な内容について触れていただき、とても充実していました。理論的なところや考え方が分かり、ぜひ、校内研修等に活かしていこうという気概が芽生えました。 ・ 理論が確かなものになる良い機会であった。大変よい学びとなりました。すばらしい講師陣より様々な視点から学び、今後の取組への大きな力となった。いじめゼロの風土づくり等、しっかり頑張っていきたい。 ・ いじめに関する現状や取組の方法（効果的な考え方や実践）など、全般的に研修をすることができて、私自身とても有意義だった。 ・ 各学校で作成した基本方針を今後どのように活用していくのか等の事例研修があると助かります。 ・ 願わくは、もう少し他県と情報交換・協議する時間があれば尚よかったと思う。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 受講者が研修の目的等を明確に把握し、本研修に臨むことができるように、開講式前にオリエンテーションを実施し、研修初日の午前に文部科学省からの行政説明を行った。 ・ 研修第3日目「いじめの問題に取り組むリーダーとして～指導者としてのマネジメント～」では、小・中・高等学校における指導者としてのマネジメントについて講義・演習を行った。
次年度に向けて ・ いじめ防止対策推進法の適切な把握と実践のため、研修第1日目「いじめの問題に関する現状と取組」を90分→100分、「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」を180分→210分に拡充する。 ・ 研修成果の活用推進のため、研修第3日目「いじめの問題に取り組む指導者として～研修成果の活用に向けて～」を新設し、班別協議を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度 いじめの問題に関する指導者養成研修日程表

九州ブロック【福岡】 6月4日(水)～6月6日(金)

9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	オリエンテーション①	開講式	講義 「いじめの問題に関する現状と取組」 文部科学省	昼食・休憩		講演 「心の叫び-いじめの問題を考える-」 弁護士 横山 巖	事例協議 「いじめの問題への取組」 ～各地における取組の情報交換を通して～							
第2日	オリエンテーション②	講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(1)」 ～教職員の感性を高めるために～ 文教大学 教授 松田 素行	昼食・休憩					講義・協議 「いじめの問題に取り組むための効果的な考え方と実践(2)」 ～いじめの問題の解決に向けて～ 文教大学 教授 松田 素行								オリエンテーション③
第3日	オリエンテーション④	講義・演習 「いじめの問題に取り組むリーダーとして」 ～指導者としてのマネジメント～ 元福岡市立吉塚中学校校長 田中 栄一	閉講式													

I 研修概要

研 修 名	子供の体力向上指導者養成研修（東部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	子供の体力が低い水準で推移していることや運動する子供とそうでない子供の二極化傾向を示していることなどの指摘を受け、各学校においては、体育の授業をはじめとした学校教育活動全体を通じて、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるなど、子供の運動意欲を高める取組が求められている。 本研修では、運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成を図るなど、調和のとれた子供の体力向上を図るための手法を習得し、各地域における研修講師、各学校への指導・助言を行う指導者等の育成をねらいとしている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。 ※ 本研修は、子供の体力向上を図るための指導者養成を目的としており、受講者の推薦にあたっては、開設する部会・コースにおける専門性を問うものではない。					
開 催 期 日	平成26年5月20日（火）～5月23日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	215	人
開 催 場 所	東区プラザ（新潟県新潟市） 他					

※ 全体受講定員 380 人、 受講者数 441 人、 参加率 116.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	179	35	0	0	0	1	215
割合 (%)	83.6	16.4	0.0	0.0	0.0	0.5	
	214	99.5					

2. 研修内容に関する主な意見

・ 全体講義、実技研修、そしてグループ討議と様々な手法での研修であったため、とても有意義な研修であった。特に、グループ討議は、各県や様々な校種からの話を聞くことができ、とても参考になった。 ・ 苦手意識の強かった表現に関して「引き出し」が増えた。実技を通し、動きのポイントや見る観点を大いに学ぶことができた。 ・ 幼稚園から高等学校までという長いスパンで子供たちの体力向上の手立てについて、様々な講義と演習を通じて考えることができた。実技講習では、実際に体を動かしながら仲間との信頼や絆を深める過程を体験することができ、工夫された体育学習が「豊かな人間性を育む」ことを実感することができた。今後の伝達講習でも、ここで学んだたくさんのことを熱を逃さずに伝え、地元の子供たちに還元したい。 ・ 学校教育における重要課題の1つである「体力向上」について、理論と具体（授業）の最新の情報を全都道府県で共有できることは、貴重な機会だと考える。特に、校種間の連携を意図した内容は大変意義があった。 ・ 言葉だけでなく実技があることで、より細かな部分や声かけのタイミングなどが具体的に分かった。講義においても児童生徒の実態が細部まで理解できただけでなく、その解決策や手法の例が挙げられ納得した。 ・ 実際に体験することで、理解できたことが数多くあった。特に実技講習（演習）については、細かな部分（ねらいや、体の動かし方など）まで理解することができたので有意義だった。ただ、評価については、さらに具体的な形で学びたいと感じた。 ・ 講義、実技ともに、大変有意義なお話を聞くことができた。安全面への配慮の大切さ、体育の授業嫌いをなくすための手立てなど改めて考えることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 「学校における体育に関する指導のマネジメントの在り方」及び「適切かつ効果的な運動部活動の推進について」の講義・演習を新設した。 ・ これまで小学校と中・高等学校で分けていた部会を統合し、「様々な動きづくりや運動の計画の立て方をとおして体力の向上を図る部会」として、小学校から高等学校までの全ての校種を対象とした。 ・ 研修中のけが防止のため、講師に受講者の年齢・職種に応じて、実技の質・量に配慮するように周知した。
次年度に向けて ・ 「適切かつ効果的な運動部活動の推進について」は、学校種が混在した班編制で演習を実施していたが、班内の人間関係の構築や学校種間の相違等を踏まえ、より円滑に実施するため、部会・コース別の班で実施する。 ・ 幼小連携等（小1ギャップ）を考慮し、「幼児が楽しく体を動かすことをとおして基礎的な動きづくりを図る部会」への小学校担当者の受講を可能とする旨明記する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度子供の体力向上指導者養成研修 日程

10:00		10:30	11:00	12:00	13:00	17:00
第 1 日 目		受付	オリエンテーション 開講式 デモンストラ ション	講義1 (全体会) 子供の体力向上 を図るための指 導者の役割	昼食	講義・演習1 (全体会／部会・コース) 学校における体育に関する指導のマネジメントの在り方 ・学校の教育活動を通じて行う体力向上、体育に関する指導の全体計画の立案 及び実践についての理解を深め、研究協議を行う。
9:00		12:00	13:00	17:00		
第 2 日 目	講義・演習2 (部会・コース)		体力向上に向けた取組の工夫 ・運動の習慣化に向けた体力向上の取組の分析及び事前 課題に関する研究協議を行う。	昼食	講義・演習3－1 (部会・コース)	
9:00		12:00	13:00	15:00	17:00	
第 3 日 目	講義・演習3－2 (部会・コース)		各部会・コースの重点テーマについての講義・演習	昼食	講義・演習3－3 (部会・コース)	講義・演習4 (部会・コース)
					各部会・コースの重点テーマについて の講義・演習	指導と評価の一体化に向けた学習指 導の在り方
9:00		12:00	13:00	14:30	15:00	
第 4 日 目	講義・演習5 (全体会／グループ)		適切かつ効果的な運動部活動の推進について ・運動部活動での指導のガイドラインに基づいた科学的な 指導内容や方法について基本的な考え方や留意点を学 び、適切かつ効果的な運動部活動の推進についての理解 を深める。	講義・演習6 (部会・コース)	講義2 (全体会)	閉 講 式
				各部会・コースの重点テ マにおける解決方策等の整 理・まとめ	研修 講師と なるた めに	

参考:部会・コース

① 幼児が楽しく体を動かすことをとおして基
を図る部会

② 様々な動きづくりや運動の計画の立て方方
向上を図る部会

③ 段階的な指導をおとして運動の楽しさを
【コース1】走・跳の動きの質を高めるコー
【コース2】リズムに合わせた動きをつくる
技能の程度に応じて、攻防の楽しさを味
【コース1】ボールや用具の操作の動きの
【コース2】伝統的な運動をおとして動き

参考:部会・コース

- ① 幼児が楽しく体を動かすことをとおして基礎的な動きづくり
を図る部会
- ② 様々な動きづくりや運動の計画の立て方をおとして体力の
向上を図る部会
- ③ 段階的な指導をおとして運動の楽しさを味わわせる部会
【コース1】走・跳の動きの質を高めるコース
【コース2】リズムに合わせた動きをつくるコース
- ④ 技能の程度に応じて、攻防の楽しさを味わわせる部会
【コース1】ボールや用具の操作の動きの質を高めるコース
【コース2】伝統的な運動をおとして動きの質を高めるコース

I 研修概要

研 修 名	子供の体力向上指導者養成研修（西部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	子供の体力が低い水準で推移していることや運動する子供とそうでない子供の二極化傾向を示していることなどの指摘を受け、各学校においては、体育の授業をはじめとした学校教育活動全体を通じて、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるなど、子供の運動意欲を高める取組が求められている。 本研修では、運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成を図るなど、調和のとれた子供の体力向上を図るための手法を習得し、各地域における研修講師、各学校への指導・助言を行う指導者等の育成をねらいとしている。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。 ※ 本研修は、子供の体力向上を図るための指導者養成を目的としており、受講者の推薦にあたっては、開設する部会・コースにおける専門性を問うものではない。						
開 催 期 日	平成26年5月13日（火）～平成26年5月16日（金）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	226	人	参加率
開 催 場 所	クローバープラザ（福岡県春日市） 他						

※ 全体受講定員 380 人、 受講者数 441 人、 参加率 116.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	168	55	1	0	0	2	226
割合 (%)	75.0	24.6	0.4	0.0	0.0	0.9	
	223	98.7					

2. 研修内容に関する主な意見

・今回の研修において、学校における体育のマネジメントについての考え方、体力向上における体づくり運動領域の重要性を教えていただき、また、実技研修、模擬授業で意識の交流等を体験することができ、大変有意義な研修になった。 ・日々の授業の中で取り組んできたことを体系化し、理論立てて考えることができたことが大変有意義だった。特に、授業づくり（指導—評価）、具体的内容（引き出しづくり）は大変よかった。他府県の先生方との交流についてもよかった。 ・専門ではない種目だったからこそ学ぶものが多く、とてもよかった。この研修で学んだことをこれからに活かしていきたい。 ・理論・実技を折りまぜながら説明して頂いたので、伝達講習をやりやすいと感じた。 ・学校における体育のマネジメントについての考え方、体づくり運動領域の体力向上における重要性、及び実技研修、模擬授業で意識の交流等を教えていただき、体験することを通して大変有意義な研修になった。県に帰って教えていただいたことを広げていきたい。 ・マネジメントという今まででなかった視点で問題を解決するという取組や部会での実技を通じた表現運動領域の理解の深まりなど勉強になることばかりだった。 ・部活動の充実の班の分け方を小学校、中学校、高校と校種で分けた方がよい。部活動の実態を幼小の人に伝えるのに時間がかかり深まらなかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「学校における体育に関する指導のマネジメントの在り方」及び「適切かつ効果的な運動部活動の推進について」の講義・演習を新設した。 ・これまで小学校と中・高等学校で分けていた部会を統合し、「様々な動きづくりや運動の計画の立て方をとおして体力の向上を図る部会」として、小学校から高等学校までの全ての校種を対象とした。 ・研修中のけが防止のため、講師に受講者の年齢・職種に応じて、実技の質・量に配慮するように周知した。
次年度に向けて ・「適切かつ効果的な運動部活動の推進について」は、学校種が混在した班編制で演習を実施していたが、班内の人間関係の構築や学校種間の相違等を踏まえ、より円滑に実施するため、部会・コース別の班で実施する。 ・幼小連携等（小1ギャップ）を考慮し、「幼児が楽しく体を動かすことをとおして基礎的な動きづくりを図る部会」への小学校担当者の受講を可能とする旨明記する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度子供の体力向上指導者養成研修 日程

10:00		10:30	11:00	12:00	13:00	17:00
第 1 日 目		受付	オリエンテーション 開講式・デモンストラ ション	講義1 (全体会) 子供の体力向上 を図るための指 導者の役割	昼食	講義・演習1 (全体会／部会・コース) 学校における体育に関する指導のマネジメントの在り方 ・学校の教育活動を通じて行う体力向上、体育に関する指導の全体計画の立案 及び実践についての理解を深め、研究協議を行う。
9:00		12:00	13:00	17:00		
第 2 日 目	講義・演習2 (部会・コース)		体力向上に向けた取組の工夫 ・運動の習慣化に向けた体力向上の取組の分析及び事前 課題に関する研究協議を行う。	昼食	講義・演習3－1 (部会・コース) 各部会・コースの重点テーマについての講義・演習	
9:00		12:00	13:00	15:00	17:00	
第 3 日 目	講義・演習3－2 (部会・コース)		各部会・コースの重点テーマについての講義・演習	昼食	講義・演習3－3 (部会・コース) 各部会・コースの重点テーマについて の講義・演習	講義・演習4 (部会・コース) 指導と評価の一体化に向けた学習指 導の在り方
9:00		12:00	13:00	14:30	15:00	
第 4 日 目	講義・演習5 (全体会／グループ)		適切かつ効果的な運動部活動の推進について ・運動部活動での指導のガイドラインに基づいた科学的な 指導内容や方法について基本的な考え方や留意点を学 び、適切かつ効果的な運動部活動の推進についての理解 を深める。	昼食	講義・演習6 (部会・コース) 各部会・コースの重点テ マにおける解決方策等の整 理・まとめ	講義2 (全体会) 研修 講師と なるた めに
					閉 講 式	

参考:部会・コース

① 幼児が楽しく体を動かすことをとおして基
を図る部会

② 様々な動きづくりや運動の計画の立て方方
向上を図る部会

③ 段階的な指導をおとして運動の楽しさを
【コース1】走・跳の動きの質を高めるコー
【コース2】リズムに合わせた動きをつくる
技能の程度に応じて、攻防の楽しさを味
【コース1】ボールや用具の操作の動きの
【コース2】伝統的な運動をおとして動き

参考:部会・コース

- ① 幼児が楽しく体を動かすことをとおして基礎的な動きづくり
を図る部会
- ② 様々な動きづくりや運動の計画の立て方をとおして体力の
向上を図る部会
- ③ 段階的な指導をとおして運動の楽しさを味わわせる部会
【コース1】走・跳の動きの質を高めるコース
【コース2】リズムに合わせた動きをつくるコース
- ④ 技能の程度に応じて、攻防の楽しさを味わわせる部会
【コース1】ボールや用具の操作の動きの質を高めるコース
【コース2】伝統的な運動をとおして動きの質を高めるコース

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修健康コース（第1回）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	多様化・深刻化している健康課題を解決するため、各都道府県等における健康教育に関する推進体制の構築、学校における健康教育に関する指導の充実に資するよう、各地域で研修の企画立案・実施、指導助言等を行う健康教育の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成26年9月16日（火）～19日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	126	人 参加率 ※
開 催 場 所	教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 720 人、受講者数 640 人、参加率 88.9%
(全体計画人数)
※ 健康コース 330 人、受講者数 298 人、参加率 90.3%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義						
人数 (人)	割合 (%)	112	88.9	0	0.0	0	0.0	0	126
		126	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

・東西ブロックの統合はとてもよいことだと思った。北から南までの先生方と多くの交流を持てた。 ・健康教育を推進していくために、この4日間の研修で理解したことを相互に活用し、自らが実践し評価して振り返っていくことをこれから大切にしていきたい。その中で、学校や地域の特性や健康課題を的確に理解し、まず同僚や地区の養護教諭間でしっかり学びを共有できるよう伝えていきたい。 ・“すべての教職員で学校保健を推進するための組織体制づくり”を実現するためにはという自分の中での大きな課題が、講義、演習を受けることで少し紐解けた感じがした。北海道から沖縄まで、そしてさまざまな職種の先生方の発言すべてが心にしみるものとなった。学校に戻り、健康の大切さを伝え、健康教育の重要性に迫りたい。 ・健康教育に関する講義、演習を通して、普及・活用方法の仕方も学ぶことができたので、任された場合には、自信を持って担当していきたい。また、多くの情報交換もできたので、今後の指導に十分いかしていきたい。 ・4日間の中で、健康教育について広い知識を身に付けることができた。また、部会については1つの分野を深く掘り下げることができ、大変有意義だった。最終日には、研修の手法や具体的な実践プランを考えることができたので、必ず実践したい。 ・演習5で研修計画を作成するが、3日目まで共に学んだ方ではなく、最後になり突然、違う学びをしてきた方と研修計画を作成しなければいけないのは残念だ。 ・生徒が養護の先生を頼って相談に行くのは常だが、学級担任がメンタルヘルスを理解し、対応できるようになれば養護教諭とさらに連携が深まり、多様化する生徒に向き合うことができると感じた。この部会に教諭の参加を増やすことで、組織として健康教育を推進する大きな力となるのではと感じた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・オリエンテーションや講義1・2、「研修講師となるために」で調査官と指導主事が研修全体の流れや様々な研修手法について説明する時間を確保した。
次年度に向けて ・アレルギー疾患のある子供への対応が課題となっていることを踏まえ、「学校におけるアレルギー疾患への対応」の講義・演習を新設する。 ・2日目から最終日までの研修開始時刻を30分早めることにより研修時間を拡充し、内容の充実を図る。 ・より効率的に研修を進めるために、③部会の講義・演習2-1「児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応（個別の保健指導）」において、受講者に事前課題を課すことを検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度健康教育指導者養成研修 健康コース 日程（第1回）

平成26年9月16日(火)～19日(金) 独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)

			9:00	9:30	10:00	10:55	11:05	12:00	13:00	13:55	14:05	15:00	15:15	17:00
第1日目	受付	オリエンテーション 開講式	講義1(55分)		講義2(55分)		昼食・休憩	講義3(55分)		講義4(55分)		講義・演習1(105分)		
			健康教育の充実の在り方及び研修の進め方 ◎目的: 健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する 文部科学省 教科調査官 森良一	学校における子供の心のケア ◎目的: 教職員による健康観察の必要性、学校における子供の心のケアの基本や健康相談のポイント等、日常からの心のケアを進めていくための方策等を理解する 文部科学省 健康教育調査官 岩崎信子	保健教育の在り方 ◎目的: 体育、保健体育を中心に、特別活動、総合的な学習の時間等と関連を図った保健教育の進め方について理解を深める 茨城大学 准教授 上地勝	学校保健マネジメント ◎目的: 学校保健を推進するための効果的なマネジメントについて理解を深める 日本女子体育大学 教授 畑攻 茨城県教育研修センター 指導主事 豊田敬慈		児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的: 学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ 京都大学 教授 十一元三						

8:30		9:00		12:00		13:00		17:00		
第2日目	受付	講義・演習2-1(180分)				昼食・休憩	講義・演習2-2(240分)			
		①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 生活習慣病 茨城大学 准教授 上地勝 雫石町立七ツ森小学校 副校長 多田敢 感染症(エイズを含む) 宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝 栃木県教委那須教育事務所 指導主事 大江満仁 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学 教授 畑攻 茨城県教育研修センター 指導主事 豊田敬慈 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(個別の保健指導) ◎目的: 心身の健康問題に関する個別の課題に対応した指導の在り方について学ぶ 名古屋学芸大学 教授 采女智津江					①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 生活習慣病 茨城大学 准教授 上地勝 雫石町立七ツ森小学校 副校長 多田敢 感染症(エイズを含む) 宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝 栃木県教育委員会那須教育事務所 指導主事 大江満仁 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学 教授 畑攻 茨城県教育研修センター 指導主事 豊田敬慈 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康相談の進め方) ◎目的: 演習を通して、学校における健康相談の進め方について学ぶ Ⅰ 真岡市立亀山小学校 教頭 青山直己 Ⅱ 浜松市立花川小学校 教頭 福川秀子 Ⅲ 佐川町立斗賀野小学校 教頭 中野靖子 Ⅳ 愛媛県教育委員会 指導主事 西尾しき			

8:30		9:00		12:00		13:00		14:40		14:55		17:00	
第3日目	受付	講義・演習2-3(180分)				昼食・休憩	講義・演習2-4(100分)				移動・休憩	講義・演習3(125分)	
		①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 生活習慣病 茨城大学 准教授 上地勝 雫石町立七ツ森小学校 副校長 多田敢 感染症(エイズを含む) 宇都宮大学 名誉教授 和唐正勝 栃木県教委那須教育事務所 指導主事 大江満仁 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学 教授 畑攻 茨城県教育研修センター 指導主事 豊田敬慈 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(事例検討の進め方) ◎目的: 学校における事例検討の進め方や指導助言の在り方を学ぶ 【小学校】跡見学園女子大学 教授 松壽くみ子 【中学校】奈半利町立奈半利中学校 教頭 大城由美 【高等学校】FR教育臨床研究所 所長 花輪敏男					①保健教育の在り方 ◎目的: 課題別演習の成果発表を通して、保健教育について理解を深める 生活習慣病 茨城大学 上地勝 七ツ森小学校 多田敢 感染症 宇都宮大学 和唐正勝 栃木県教委 大江満仁 ②学校保健マネジメント ◎目的: 部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制についての理解を深める 日本女子体育大学 畑攻 茨城県教育研修センター 豊田敬慈 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康観察の実際) ◎目的: 教職員による健康観察の重要性について学ぶ 川崎市立宿河原小学校 教頭 後藤美智子					学校における感染症対策の在り方 ◎目的: 学校における感染症対策の在り方について理解を深める 社会福祉法人恩師財団済生会支部 大阪府済生会中津病院 臨床教育部長兼感染管理室長 安井良則	

8:30		9:00		12:00		13:00		15:00		15:15	
第4日目	受付	講義・演習4(180分)				昼食・休憩	講義・演習5(120分)				閉講式
		学校における性に関する指導の在り方 ◎目的: 性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を学ぶ 京都大学 准教授 木原雅子					研修講師となるために ◎目的: 本研修を振り返り、研修成果をまとめる中で、研修講師となるための力を身に付ける 文部科学省 健康教育調査官 岩崎信子				

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修健康コース（第2回）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	多様化・深刻化している健康課題を解決するため、各都道府県等における健康教育に関する推進体制の構築、学校における健康教育に関する指導の充実に資するよう、各地域で研修の企画立案・実施、指導助言等を行う健康教育の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成26年12月16日（火）～19日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	172	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 720 人、受講者数 640 人、参加率 88.9%
(全体計画人数)
※ 健康コース 330 人、受講者数 298 人、参加率 90.3%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	152	88.4	20	11.6	0	0.0	0	0.0	172
		172	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・各講義・演習の内容はもちろんのこと、演習をどの時点でどの内容に絞って取り入れるか等によって受講者の理解が深まるなど講義・演習の構成など学ぶことが多く、非常に意義深い研修だった。 ・保健体育教諭だけでなく、養護教諭と共に学べ違った角度から考えさせられることもあった。特に部会別研修では、1つのことに様々な考え方があり、「教える」「学ぶ」といったことについて勉強になった。 ・専門性のある講義、学びのある演習、今後研修を企画する上での運営の在り方等大変有意義だった。 ・各講義・演習の内容はもちろんのこと、演習をどの時点でどの内容にしばって取り入れるか等、講義・演習の構成など学ぶことが多く、非常に意義深い研修だった。 ・学校の教育活動全体で体育健康に取り組んでいく上で、養護の関わり方を知ることは重要であると考え、今回は、体育でなく養護へ参加させていただいた。養護の取組を知ることで、今後よりいっそう養護と連携しながら、組織的に取り組むようにしていきたいと思った。今回の研修は、私にとって、大変役に立つ内容でした。次回はぜひ保健学習に参加させていただきたい。 ・多様化・深刻化した子供たちの健康課題を解決していくための健康教育の重要性について、研修を通して理解を深めるとともに研修で学んだそれぞれの取組をつなぎ深化させていくことで、子供たちが将来にわたって健康な生活を営むことのできるようになることを考える。そのための指導力を身につけられるよう研修の充実を図っていきたい。 ・講義はもっと時間をかけて行ってほしかった。ざっくりしすぎていて別の機会に勉強したかった。演習はとても有意義だったがこちらももう少し時間がほしかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・オリエンテーションや講義1・2、「研修講師となるために」で調査官と指導主事が研修全体の流れや様々な研修手法について説明する時間を確保した。 次年度に向けて ・アレルギー疾患のある子供への対応が課題となっていることを踏まえ、「学校におけるアレルギー疾患への対応」の講義・演習を新設する。 ・2日目から最終日までの研修開始時刻を30分早めることにより研修時間を拡充し、内容の充実を図る。 ・より効率的に研修を進めるために、③部会の講義・演習2-1「児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応（個別の保健指導）」において、受講者に事前課題を課すことを検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度健康教育指導者養成研修 健康コース 日程（第2回）

平成26年12月16日(火)～19日(金) 独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)

9:00		9:30	10:00	10:55	11:05	12:00	13:00	13:55	14:05	15:00	15:15	17:00
第1日目	受付	オリエンテーション 開講式	講義1(55分)	講義2(55分)	昼食・休憩	講義3(55分)	講義4(55分)	休憩	講義・演習1(105分)	休憩		
			健康教育の充実の在り方及び研修の進め方 ◎目的: 健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する 文部科学省 教科調査官 森良一	学校における子供の心のケア ◎目的: 教職員による健康観察の必要性、学校における子供の心のケアの基本や健康相談のポイント等、日常からの心のケアを進めていくための方策等を理解する 文部科学省 健康教育調査官 岩崎信子		保健教育の在り方 ◎目的: 体育、保健体育を中心に、特別活動、総合的な学習の時間等と関連を図った保健教育の進め方について理解を深める 横浜国立大学 准教授 物部博文	学校保健マネジメント ◎目的: 学校保健を推進するための効果的なマネジメントについて理解を深める 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利					

8:30 9:00		12:00 13:00		17:00	
第2日目	受付	講義・演習2-1(180分)		講義・演習2-2(240分)	
		①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 横浜国立大学 准教授 物部博文 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山洋生 喫煙・飲酒・薬物乱用 筑波大学 教授 野津有司 伊万里市立伊万里中学校 教頭 福井宏和 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(個別の保健指導) ◎目的: 心身の健康問題に関する個別の課題に対応した指導の在り方について学ぶ 名古屋学芸大学 教授 采女智津江		①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 横浜国立大学 准教授 物部博文 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山洋生 喫煙・飲酒・薬物乱用 筑波大学 教授 野津有司 伊万里市立伊万里中学校 教頭 福井宏和 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康相談の進め方) ◎目的: 演習を通して、学校における健康相談の進め方について学ぶ I 真岡市立亀山小学校 教頭 青山直己 II 浜松市立花川小学校 教頭 福川秀子 III 佐川町立斗賀野小学校 教頭 中野靖子 IV 愛媛県教育委員会 指導主事 西尾しき	

8:30 9:00		12:00 13:00		14:40 14:55		17:00
第3日目	受付	講義・演習2-3(180分)		講義・演習2-4(100分)	移動・休憩	講義・演習3(125分)
		①保健教育の在り方 ◎目的: 班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 横浜国立大学 准教授 物部博文 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山洋生 喫煙・飲酒・薬物乱用 筑波大学 教授 野津有司 伊万里市立伊万里中学校 教頭 福井宏和 ②学校保健マネジメント ◎目的: 学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 筑波大学 教授 柳沢和雄 群馬県教育委員会 指導主事 山田知利 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(事例検討の進め方) ◎目的: 学校における事例検討の進め方や指導助言の在り方を学ぶ 【小学校】跡見学園女子大学 教授 松壽くみ子 【中学校】奈良市立立奈半利中学校 教頭 大城由美 【高等学校】FR教育臨床研究所 所長 花輪敏男		①保健教育の在り方 ◎目的: 課題別演習の成果発表を通して、保健教育について理解を深める 心の健康 横浜国立大学 物部博文 鳴海高等学校 丸山洋生 喫煙・飲酒・薬物乱用 筑波大学 野津有司 伊万里中学校 福井宏和 ②学校保健マネジメント ◎目的: 部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制についての理解を深める 筑波大学 柳沢和雄 群馬県教育委員会 山田知利 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応(健康観察の実際) ◎目的: 教職員による健康観察の重要性について学ぶ 川崎市立宿河原小学校 教頭 後藤美智子		学校における感染症対策の在り方 ◎目的: 学校における感染症対策の在り方について理解を深める 大阪府済生会中津病院 臨床教育部長兼感染管理室長 安井良則

8:30 9:00		12:00 13:00		15:00 15:15	
第4日目	受付	講義・演習4(180分)		講義・演習5(120分)	閉講式
		児童虐待への対応 ◎目的: 児童虐待への気づきのポイント、その後の対応、支援について事例を通して学ぶ 子どもの虹情報研修センター 専門相談室長 小出 太美夫		研修講師となるために ◎目的: 本研修を振り返り、研修成果をまとめる中で、研修講師となるための力を身に付ける 文部科学省 健康教育調査官 岩崎信子	

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修食育コース第1回（基礎コース）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するため、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するよう、各地域で校長、副校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。					
受 講 対 象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、学校栄養職員等及び教育センターの研修担当主事等であって、食に関する指導を担当する者 ②小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教諭及び学校栄養職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 ③食に関する指導において専門知識を有する栄養教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 ④その他、上記①～③に準ずる者					
開 催 期 日	平成26年10月7日（火）～10月10日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	85	人	受講者数	90	参加率
開 催 場 所	教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 720 人、受講者数 640 人、参加率 88.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	84	6	0	0	0	0	90
割合 (%)	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

栄養教諭だけでなく、教育委員会や教諭の方と研修を受けることで、様々な考え方を知ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。 普段は、なかなかお話を聞くことのできない先生方のお話を聞けたことは、本当に良かった。研修を進めていくうちに、他の人に伝えるためのポイントや要素がまとまってきて、今は、精一杯伝えなければという気持ちになっている。頑張ってみるに紹介をしていきたいと思うし、所属校でも活用し、先生方にも伝えていこうと思う。 食育の基本的な考え方から、アレルギー、全体指導計画、特別活動・家庭科の指導案作成、すばらしい実践発表など、若手の栄養教諭でもとても分かりやすい研修だった。また、他の職種の先生方と交流しながら学べたことは、とても有意義だった。まずは自らが実行し、そして他の仲間にも伝達していきたい。 指導案を作成する過程で、様々な意見を出し合い、まとめて作り上げたことが非常に貴重な体験となった。栄養教諭、栄養職員にとって、指導案を検討する機会が少なかったことに改めて気づかされた。 他の地域の方と交流することで、同じ課題を抱えていることがわかったり、解決方法を話し合ったりすることでめざす方向性が確認できたのは大きな成果だった。今回学んだことを自分だけのものにとどめることなく、広めていく役割についても強く自覚することができた。 今回の研修に教諭の先生も参加されていたが、管理職やもっと多くの教諭の先生に参加してもらえると、更に食育が進んでいくと思う。 実際に学校現場で食育担当として、栄養教諭と学校職員の間で頑張っている先生方の具体的な取り組みやご苦労、ご意見を聞く機会がもっとあったらさらに良かったと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・推進コース（指導主事、教諭、学校栄養職員等対象）と専門コース（栄養教諭対象）を実施していたが、職種によるコース分けをせず、第1回・第2回として実施した。 ・第1回を「標準的な内容（基礎コース）」、第2回を「発展的な内容（発展コース）」として実施した。 次年度に向けて ・第1回（基礎コース）にて、スーパー食育スクール指定校より教諭と栄養教諭の2人体制で事例発表を実施する。 ・引き続き、学校全体で食育を推進する観点から、研修内容・方法の検討を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度健康教育指導者養成研修 食育コース（第1回） 日程

	9:00	9:30	10:00	11:30	12:30	14:30	14:45	17:00
10月7日(火)	受付	オリエンテーション 開講式 シヨウ	講義1 学校における食育の推進 ～学校給食の充実及び食に関する指導への活用について～ 文部科学省スポーツ・青少年局 学校給食調査官 江口 陽子 学校教育全体における健康教育 及び食育の果たす役割を理解する とともに、食育を推進するための基本的な考え方を理解する	講義2 個別的相談指導の在り方 国立病院機構相模原病院臨床研究センター 病因・病態研究室長 佐藤 さくら 個別的相談指導の在り方について理解を深める	講義2 個別的相談指導の在り方 国立病院機構相模原病院臨床研究センター 病因・病態研究室長 佐藤 さくら 個別的相談指導の在り方について理解を深める	事例発表・協議 学校教育全体を通して食育を実践するにあたっての現状と課題 東京都練馬区立八坂中学校 栄養教諭 飯島敬子 先行事例を通して、学校の特色を生かした教育課程の編成と運用方法を学ぶとともに自地域や自校の現状と課題を明確にする		

	8:30	9:00	11:00	11:15	12:15	13:15	14:15	14:25	15:40	17:00
10月8日(水)	受付	講義・演習1 食育を効果的に推進するための特色ある教育 課程の編成に向けて 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘 学校全体で計画的・組織的に食に関する指導を行うにあたり、前掲となる基本的な考え方を理解する	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかける全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 指導計画 文部科学省 スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希 学校全体で取り組む食に関する指導にかける全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかける全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 指導計画 文部科学省 スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希 学校全体で取り組む食に関する指導にかける全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかける全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 指導計画 文部科学省 スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希 学校全体で取り組む食に関する指導にかける全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかける全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 指導計画 文部科学省 スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希 学校全体で取り組む食に関する指導にかける全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	特別活動 北九州市教育委員会 教職員研修・企画担当部長 大庭 正美 家庭、技術・家庭 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 筒井 恭子	休息	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかける全体的な指導計画の作成、及び各教科等における食に関する指導の作成、及び各教科等における食に関する指導の作成 ①指導計画 ②特別活動 ③家庭、技術・家庭	

	8:30	9:00	12:00	13:00	17:00
10月9日(木)	受付	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかける全体的な指導計画の作成、及び各教科等における食に関する指導の作成 ①指導計画 ②特別活動 ③家庭、技術・家庭 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 徳島県藍住町立藍住北小学校 教頭 小泉 雅彦 茨城県下妻市立総上小学校 校長 栗原 恵子 班別演習を通して、学校全体で取り組む食に関する指導の在り方、及び各教科等における食に関する指導の在り方について理解を深めるとともに、各地域の取組を知る	休息	休息	

	8:30	9:00	12:00	13:00	14:30
10月10日(金)	受付	講義・演習3 「指導計画」の発表、及び「特別活動」、「家庭、技術・家庭」の模擬授業 札幌市教育委員会 指導主事 渋谷 一典 徳島県藍住町立藍住北小学校 教頭 小泉 雅彦 茨城県下妻市立総上小学校 校長 栗原 恵子 学校全体で取り組む食に関する指導の在り方、及び各教科等における食に関する指導の在り方について、代表班の発表を通して理解を深める	休息	講義・演習4 研修講師となるために 文部科学省スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希 研修内容をふりかえり、講師として必要な内容を整理する	閉講式

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修食育コース第2回（発展コース）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するため、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するよう、各地域で校長、副校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。							
受 講 対 象	①都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、学校栄養職員等及び教育センターの研修担当主事等であって、食に関する指導を担当する者 ②小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教諭及び学校栄養職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 ③食に関する指導において専門知識を有する栄養教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 ④その他、上記①～③に準ずる者							
開 催 期 日	平成26年11月4日（火）～11月7日（金）					4日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	85	人	受講者数	76	人	参加率	89.4%
開 催 場 所	教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 720 人、受講者数 640 人、参加率 88.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	70	92.1	6	7.9	0	0.0	0	0.0	76
		76	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

色んな立場の先生方（栄養教諭だけでなく）の参加もあり、食育を学校全体で取り組むように変える事が大切なのだという事が理解できた。又、特別活動、総合的な学習の時間への栄養教諭の関わり方がとても分かりやすく、今後の食育に生かす方法がよく分かった。 全体計画作成についての基本的な考え方や、焦点化を図る方法等、具体的な手法がわかり、これからの食育推進にとっても役に立った。研修会を企画する時は、是非とり入れたいと思った。（演習のすすめ方、運営の在り方等） 特に、全体計画の講義・演習2がよかった。今後、給食主任研修会等で早速活用させていただき、活用するための（できる）全体計画を作成し子供の食育をすすめ、子供を健康にしていきたいと思う。 指導に携さわる立場として、再確認できたこと、新たに教わったことが多々あり、今後の職務に十分活かせる研修となった。 4日間という長いスパンで、しっかりと課題に取りくめたように思う。また、素晴らしい講師陣で講義の内容はもとより、人間性やその他いろいろなことを学ばせていただいた。 大まかに理解していたこと、例えば特活とはどういう授業であるかや、総合的な学習の時間のとらえ方などについての学びができ、理解できていなかったところを修正できた。また課題であった全体計画の考え方やその取り組み方についてどうあるべきか（おさえておく大切な部分がどこか）を知ることができ大変有意義だった。 日頃、何とか活用できるものになりたいと思っていた全体計画の修正のヒントを得ることができ、大変有意義だった。各部会の先生方がそれぞれ興味深い話をしてくださいましたが、お一人ずつもう少し長くお話を伺いたいとも思った。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・推進コース（指導主事、教諭、学校栄養職員等対象）と専門コース（栄養教諭対象）を実施していたが、職種によるコース分けをせず、第1回・第2回として実施した。 ・第1回を「標準的な内容（基礎コース）」、第2回を「発展的な内容（発展コース）」として実施した。
次年度に向けて ・第2回（発展コース）では、受講者自身がそれぞれ発展的な実践事例を持っていると思われるので、班ごとにお互いの好事例や課題を交換する時間を設ける。 ・引き続き、学校全体で食育を推進する観点から、研修内容・方法の検討を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度健康教育指導者養成研修 食育コース (第2回) 日程

	9:00	9:30	10:00	11:30	12:30	13:30	14:45	17:00
11月4日(火)	受付	オリエンテーション 開講式 シヨウ	講義1 学校における食育の推進 ～学校給食の充実及び食に関する指導への活用について～ 文部科学省スポーツ・青少年局 学校給食調査官 江口 陽子 学校教育全体における健康教育 及び食育の果たす役割を理解する とともに、食育を推進するための基本的な考え方を理解する	講義2 個別的相談指導の在り方 国立病院機構相模原病院臨床研究センター 病因・病態研究室長 佐藤 さくら 個別的相談指導の在り方について理解を深める	講義2 個別的相談指導の在り方 国立病院機構相模原病院臨床研究センター 病因・病態研究室長 佐藤 さくら 個別的相談指導の在り方について理解を深める	講義2 個別的相談指導の在り方 国立病院機構相模原病院臨床研究センター 病因・病態研究室長 佐藤 さくら 個別的相談指導の在り方について理解を深める	事例発表・協議 学校教育全体を通して食育を実践するにあたっての現状と課題 豊田市立浄水北小学校 教諭 北島 加奈子 先行事例を通して、学校の特色を生かした教育課程の編成と運用方法を学ぶとともに自地域や自校の現状と課題を明確にする	17:00

	8:30	9:00	11:00	11:15	12:15	13:15	14:15	14:25	15:25	15:40	17:00
11月5日(水)	受付	講義・演習1 食育を効果的に推進するための特色ある教育 課程の編成に向けて 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘 学校全体で計画的・組織的に食に関する指導を行うにあたり、前掲となる基本的な考え方を理解する	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 指導計画 山形県立米沢栄養大学 教授 笠原 寛子 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 指導計画 山形県立米沢栄養大学 教授 笠原 寛子 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 指導計画 山形県立米沢栄養大学 教授 笠原 寛子 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 指導計画 山形県立米沢栄養大学 教授 笠原 寛子 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 指導計画 山形県立米沢栄養大学 教授 笠原 寛子 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 指導計画 山形県立米沢栄養大学 教授 笠原 寛子 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 指導計画 山形県立米沢栄養大学 教授 笠原 寛子 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	講義3 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成のポイント、及び各教科等における食に関する指導のポイント 指導計画 山形県立米沢栄養大学 教授 笠原 寛子 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成について、作成の意義、盛り込むべき内容、作成手順等、及び各教科等における食に関する指導のポイントについて理解を深める	17:00

	8:30	9:00	12:00	13:00	17:00
11月6日(木)	受付	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の改善案の検討、及び各教科等における食に関する指導案の改善案の検討 ①指導計画 ②特別活動 ③総合的な学習の時間 宮崎県中部教育事務所 副主幹 北林 克彦 福岡県教育センター 教育経営部長 脇田 哲郎 新宿区立大久保小学校 主幹教諭 三田 大樹 班別演習を通して、学校全体で取り組む食に関する指導の在り方、及び各教科等における食に関する指導の在り方について理解を深めるとともに、各地域の取組を知る	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の改善案の検討、及び各教科等における食に関する指導案の改善案の検討 ①指導計画 ②特別活動 ③総合的な学習の時間 宮崎県中部教育事務所 副主幹 北林 克彦 福岡県教育センター 教育経営部長 脇田 哲郎 新宿区立大久保小学校 主幹教諭 三田 大樹 班別演習を通して、学校全体で取り組む食に関する指導の在り方、及び各教科等における食に関する指導の在り方について理解を深めるとともに、各地域の取組を知る	講義・演習2【部会別】 学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の改善案の検討、及び各教科等における食に関する指導案の改善案の検討 ①指導計画 ②特別活動 ③総合的な学習の時間 宮崎県中部教育事務所 副主幹 北林 克彦 福岡県教育センター 教育経営部長 脇田 哲郎 新宿区立大久保小学校 主幹教諭 三田 大樹 班別演習を通して、学校全体で取り組む食に関する指導の在り方、及び各教科等における食に関する指導の在り方について理解を深めるとともに、各地域の取組を知る	17:00

	8:30	9:00	12:00	13:00	14:30
11月7日(金)	受付	講義・演習3 「指導計画」の発表、及び「特別活動」、「総合的な学習の時間」の指導案の発表 宮崎県中部教育事務所 副主幹 北林 克彦 福岡県教育センター 教育経営部長 脇田 哲郎 新宿区立大久保小学校 主幹教諭 三田 大樹 学校全体で取り組む食に関する指導の在り方、及び各教科等における食に関する指導の在り方について、理解を深める ※講義・演習2で作成した資料を基にしたポスターセッション形式の発表	講義・演習4 研修講師となるために 文部科学省スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希 研修内容をふりかえり、講師として必要な内容を整理する	講義・演習4 研修講師となるために 文部科学省スポーツ・青少年局 食育調査官 濱田 有希 研修内容をふりかえり、講師として必要な内容を整理する	閉講式

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修 学校安全コース					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 第二グループ					
研 修 目 的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する必要な知識等を習得させ、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校(園)長、副校(園)長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成26年9月8日(月)～平成26年9月12日(金)				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	220	人	受講者数	176	参加率 80.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)					

※ 全体受講定員 720 人、 受講者数 640 人、 参加率 88.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義								
人数 (人)	割合 (%)	152	86.4	23	13.1	1	0.6	0	0.0	0	0.0	176
		175		99.4								

2. 研修内容に関する主な意見

・ 5日間全体の研修の組み立てが非常に綿密になされており、(例えば遺族の講演を1or2日目ではなく3日目に設定する、地域別演習は毎日最後のコマとする等)、大変有意義な研修となった。また、研修講師養成という目的のため、講師となるための視点や研修企画者となるための視点を数多く入れていただけたことも大変ありがたい。
・ 学校安全の領域である「交通安全」「生活安全」「災害安全」について学ぶことができたと共に、自分が研修を企画する立場になった時の視点でグループワークすることで、実効性のある研修となった。被害者本人の心の叫びは響くものがあり、今後活かしていきたいと思う。
・ 講義と実習のセットが繰り返し行われ、どんどん自分の力になっていくのがわかった。それ以上に、気持ちの盛り上がり大きい。「指導者として・・・」を初日に聞いた時はあまりピンと来ていなかったが、今、使命感に近いものが芽生えている。
・ 内容の濃い講演を聞くことができ、安全に対する意識を高めることができた。又ワークショップがたくさんあり、自分の考え方を発表するだけでなく、自分が気づけなかったたくさんの意見を聞くことができ良かった。また、事前課題があったので、研修に対して事前準備ができた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・ 5日間になり講義・演習時間が増えたので、全受講者が3領域を学校種ごとに万遍なく学び、講師の講義後に演習に取り組む内容としたり、また、地域別ごとの班編成での演習も毎日少しずつ進めていく形にした。
・ 東西の受講者が一緒に協議・情報交換できる編制とし、全国からの受講生の交流を促進した。
次年度に向けて
・ 研修の目的が指導者養成であることをもっと認識させる。
・ 事前課題が難しかったので、内容を工夫する。
・ 地域別演習は、毎日行うのではなく、昨年度の反省を踏まえ、3日目からにする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度健康教育指導者養成研修 学校安全コース 日程表

第1日目

9:00		9:30		10:00		10:40		10:50		11:45		12:45		15:35		15:50		17:00	
9月8日(月)	受付	開講式・オリエンテーション	講義1 「学校安全の現状と課題 研修の全体構成説明」 文部科学省 スポーツ・青少年局 安全教育調査官 佐藤 浩樹		休憩	講義2 「学校安全の基礎」 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹		昼食・休憩	講義・演習3 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備について（学校種別 講義・演習） 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 株式会社社会安全研究所 所長 首藤 由紀		移動・休憩	地域別演習① 「演習の進め方と課題の共有について」 ◎それぞれの地域における学校安全の現状と課題について把握する。							
			◎目的:学校安全の現状等について理解するとともに、本研修の全般的構成について理解する。			◎目的:学校安全の概念・構造等の基本的事項について理解する。			◎目的:学校安全の各領域について、校種毎で情報を共有するとともに、効果的・効率的に指導をするための指導者としてのポイントを整理する。										

第2日目

9:00	11:50	12:50	15:40	15:55	17:00
9月9日(火)	講義・演習4 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備について（学校種別 講義・演習） 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 株式会社社会安全研究所 所長 首藤 由紀 ◎目的:学校安全の各領域について、校種毎で情報を共有するとともに、効果的・効率的に指導をするための指導者としてのポイントを整理する。	屋食・休憩	講義・演習5 「交通安全」「生活安全」「災害安全」の現状と課題、効果的な指導と体制整備について（学校種別 講義・演習） 東北工業大学 教授 小川 和久 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 株式会社社会安全研究所 所長 首藤 由紀 ◎目的:学校安全の各領域について、校種毎で情報を共有するとともに、効果的・効率的に指導をするための指導者としてのポイントを整理する。	移動・休憩	地域別演習② 「現状を踏まえた研修企画づくり1」 ◎目的:都道府県ごとの班により、各講義、各校種の内容を共有するとともに研修企画作りの演習を行う。

第3日目

9:00		9:50		10:05		10:55		11:10		12:10		13:10		15:45		16:00		17:00	
9月10日(水)	講演1 「学校事故対応事例報告①」 酒井 智恵 ◎目的:学校事故被害の現状を知るとともに、事故後の対応の在り方をご遺族の立場に立って理解する。	移動・休憩	講演2 「学校事故対応事例報告②」 桐淵 博 桐田 寿子 ◎目的:学校事故被害の現状を知るとともに、事故後の対応の在り方をご遺族の立場に立って理解する。	移動・休憩	講義・演習6-1 昼食・休憩 「学校事故対応の現状と課題」 ～適切な学校事故対応と検証、再発防止策について～ 京都精華大学 教授 住友 剛 ◎これまでの学校事故発生時、事後の学校等の対応についての課題を踏まえ、被害者(遺族)の願いを理解した対応と、適切な原因究明の方法や、再発防止策の考え方等について理解する。	移動・休憩	地域別演習③ 「現状を踏まえた研修企画づくり2」 ◎目的:都道府県ごとの班により、各研修日の内容を共有するとともに研修企画作りの演習を行う。												

第4日目

	9:00	12:00	13:00	14:45	15:00	17:00
9 月 11 日 (木)	講義・演習6ー2 「学校事故対応の現状と課題」 ～適切な学校事故対応と検証、再発防止策について～ 京都精華大学 教授 住友 剛	屋 食 ・ 休 憩		移 動 ・ 休 憩	地域別演習④ 「現状を踏まえた研修企画づくりとプレ発表」	
	◎これまでの学校事故発生時、事後の学校等の対応についての課題を踏まえ、被害者(遺族)の願いを理解した対応と、適切な原因究明の方法や、再発防止策の考え方等について理解する。				◎作成した研修企画を互いに発表、フィードバックを得て改善・改良する。	

第5日目

9:00	12:00	13:00	13:45	14:30	14:45
9月12日(金)	地域別演習⑤ 「現状を踏まえた研修企画の発表1」 ◎各グループごとに企画の発表を行い、情報や課題の共有を図る。	屋食・休憩	地域別演習⑥ 「現状を踏まえた研修企画の発表2」 ◎目的:作成した研修企画を発表することで情報や課題の共有を図る。	講義7 「研修講師となるために」 文部科学省 スポーツ・青少年局 安全教育調査官 佐藤 浩樹 ◎目的:研修全体を振り返り、研修講師としての自覚を促す。	閉講式

◆部会担当指導主事◆

- ①小学校部会
京都府教育委員会指導部保健体育課 指導主事 田中 和枝
- ②中学校部会
岩手県教育委員会事務局学校教育室 指導主事 森本 晋也
- ③高等学校部会
宮城県教育庁教育企画室教育改革班 主幹兼企画員 安斎 善和
- ④特別支援学校部会
千葉県立東金特別支援学校 教諭 瀧川 猛

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（A L T）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。（J E Tプログラムにより日本に招致した外国語指導助手（A L T）に対する来日直後オリエンテーション（財団法人自治体国際化協会主催）の一環として実施）						
受 講 対 象	総務省・外務省・文部科学省の協力の下に実施しているJ E Tプログラムにより招致した外国語指導助手（A L T）						
開 催 期 日	(4月期) 平成26年4月10日（木）					1日間	
	(A日程) 平成26年7月28日（月）					1日間	
	(B日程) 平成26年8月4日（月）					1日間	
	(第2次) 平成26年8月21日（木）					1日間	
受 講 人 数	定 員 (計 画 人 数)	4月期	1,500 人	受講者数	38 人	参加率	—
		A日程			651 人		—
		B日程			844 人		—
		第2次			36 人		—
	計		1,500 人	計	1,569 人	計	104.6%
開 催 場 所	4月期=ルポール麹町（東京都千代田区） A日程, B日程, 第2次=京王プラザホテル（東京都新宿区）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義で なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計		
		大変有意義		おおむね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	487	36.5	709	53.2	120	9.0	14	1.1	3	0.2	236	15.0	1569
		1196		89.7										

2. 研修内容に関する主な意見

- ・生徒の意識・指導要領・外国語科改善の方針などいろいろ紹介していただいて本当に勉強になった。
- ・先輩A L TからA L Tが従事していることの意義を聞き、とても参考になった。
- ・授業のデモンストレーションと職場等で起こりうる状況についての事例が最も有用だった。
- ・仕事の環境の状況など（の情報が）、役に立つと思う。
- ・いくつかのプレゼンテーションは役に立たない、不必要なものだと感じた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

アンケートの回収率の低さが問題になっていたが、受講者へのアナウンスを徹底したこと・「アンケート記入時間」を設けたことにより、アンケートの未回収率がH25 35.5%→H26 15.0%と改善された。

次年度に向けて

プレゼンテーション内容や運営面について、受講者の要望に対応できるよう、引き続き自治体国際化協会と文部科学省との情報共有を積極的に行う必要がある。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度来日直後オリエンテーション(4月期)プログラム

4月9日 (水)	新規招致者来日 会場チェックイン→資料配布・オリエンテーション概要説明					
4月10日 (木)	9:20-9:40	開会式				
	中国・ブラジル			オセアニア		
	10:00-10:45	JETプログラム説明等		10:00-10:30	JETプログラム説明等	
	10:45-12:00	パネルディスカッション		10:45-12:00	パネルディスカッション	
	12:00-13:00	昼食				
	CIR		ALT(非英語圏※中国語)		ALT(英語圏)	
	13:00-14:45	CIRとしての基礎スキル	13:00-13:45	歓迎挨拶・基調講演: 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 向後 秀明	13:00-13:45	歓迎挨拶・基調講演: 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 平木 裕
			13:55-14:45	日本における中国語教育の現状: 石川県立金沢辰巳丘高等学校 教諭 菅原 宏	13:55-14:45	Team-Teaching in English Classes at Lower-Secondary School Level: 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 京都市教育委員会 ALT担当主事 Matthew Hirakawa
	14:10-15:40	CIRロールプレイ	14:55-15:45	先輩ALTからの体験談及び指導助言: 長崎県立佐世保商業高等学校 ALT 劉 純子	14:55-15:45	Team-Teaching in English Classes at Upper-Secondary School Level: 京都府立東舞鶴高等学校 教諭 大槻 裕代 京都府立東舞鶴高等学校 ALT Orrin Heath
	15:55-16:55	国別ミーティング(中・韓・ブラジル)		15:55-16:55	異文化コミュニケーション	
	17:05-17:35	取りまとめ団体別ミーティング (中・韓・ブラジル)				
	17:35-17:45	アンケート記入・提出				
	18:30-20:00	歓迎夕食会				
4月11日 (金)	各取りまとめ団体に向け出発					

平成26年度来日直後オリエンテーション A・B日程

1日目 【A日程】 7/28(月) 【B日程】 8/4(月)	時間	内容			
	7:00～8:30	朝食			
	9:00～10:00	開会式 JETプログラムに関する重要事項の説明			
	10:00～10:15	休憩			
	10:15～11:15	「JET参加者の心得と同参加者に期待すること」			
	11:15～11:30	休憩			
	11:30～12:15	ALT分科会		CIR分科会	
		文部科学省新学習指導要領等の説明		全体会	
		[A日程]文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 向後 秀明			
		[B日程]文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 平木 裕			
	12:15～13:30	昼食		昼食	
	13:30～14:20	チームティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画 ①		翻訳	
		小	八戸市立柏崎小学校 日向端 聖 教諭		京都市教育委員会 Matthew Hirakawa
		中	石井町石井中学校 武知 一誠 教諭		石井町教育委員会 Nicole Kiyomi Yamamoto
		中	長岡市立東北中学校 米山 ルミ子 教諭		長岡市教育委員会 Avery Stuart
		高	佐賀市立成章中学校 芦原 奈津子 教諭		[A日程]多岐市教育委員会 CRAWFORD ANDREW JAMES [B日程]武雄市教育委員会 CRAWFORD ANDREW JAMES
		高	京都府立東舞鶴高等学校 大槻 裕代 教諭		京都府立東舞鶴高等学校 Orrin Heath
	高	千葉県立長生高等学校 百瀬 美帆 教諭	千葉県立長生高等学校 Jason H. Raymond		
	14:20～14:35	休憩		休憩	
	14:35～15:25	チームティーチングデモンストレーションと効果的な授業計画 ②		通訳	
		※①の講師と同じ			
	15:25～15:40	休憩			
	15:40～16:30	日本語の独学法		ビジネスマナー	
		初級レベル クラス			
		初級以上レベル クラス			
	16:30～16:45	休憩			
	16:45～17:35	職場でのマナーについて		電話応対	
		初級レベル クラス			
		初級以上レベル クラス			
17:35～18:30	休憩				
18:30～20:00	歓迎夕食会				
2日目 【A日程】 7/29(火) 【B日程】 8/5(火)	7:00～8:30	朝食			
	9:00～10:30	パネルディスカッション「ALTの日本での生活について」 ※新規PAIはPA研修		パネルディスカッション 「CIRの日本での生活について」 ※新規PAIはPA研修	
	10:30～10:45	休憩			
	10:45～11:35	MEXTワークショップ		ビジネスメールの書き方	
		クラス①			
		クラス②			
		クラス③			
		クラス④			
		クラス⑤			
	11:35～12:50	昼食			
	12:50～13:40	MEXTワークショップ		イベント企画・実施	
		クラス①			
		クラス②			
		クラス③			
		クラス④			
		クラス⑤			
	13:40～13:55	休憩			
	13:55～14:45	MEXTワークショップ		外国語講座・学校訪問	
		クラス①			
		クラス②			
		クラス③			
		クラス④			
		クラス⑤			
	14:45～15:00	休憩			
	15:00～15:50	MEXTワークショップ		母国紹介ロールプレイ	
		クラス①			
		クラス②			
		クラス③			
		クラス④			
クラス⑤					
15:50～16:05	休憩				
16:05～16:55	取りまとめ団体別ミーティング				
16:55～17:05	アンケート記入・提出				
17:1～20:00	荷物集荷				
3日目	6:30～9:00	朝食			
	～11:00	取りまとめ団体へ出発			

平成26年度来日直後オリエンテーション(第2次日程)

	時間	内容		
	7:00 - 8:30	朝食		
8/21 (木)	9:00 - 10:00	開会式 JETプログラムに関する重要事項の説明		
	10:00 - 10:15	休憩		
	10:15 - 11:45	パネルディスカッション「JET参加者の日本での生活について」		
	11:45 - 12:45	昼食		
	12:45 - 13:30	ALT分科会	CIR分科会	SEA分科会
		文部科学省 新学習指導要領等の説明 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 向後 秀明	イベント企画・実施、 学校訪問・外国語講座	SEAの職務について
	13:30 - 13:50	休憩	休憩	休憩
	13:50 - 14:40	ティーム・ティーチングデモンストレーションと 効果的な授業計画 ① 京都府立東舞鶴高等学校 大槻 裕代 教諭 京都府立東舞鶴高等学校 Orrin Heath	ビジネスマナー・電話応対・ ビジネスメールの書き方	日本の冬季スポーツ及びジュニア スポーツ育成の状況等について
	14:40 - 14:55	休憩	休憩	休憩
	14:55 - 15:45	ティーム・ティーチングデモンストレーションと 効果的な授業計画 ② ※①の講師と同じ	翻訳	職場でのマナー等について
	15:45 - 16:00	休憩	休憩	休憩
	16:00 - 16:50	日本語の独学法	通訳	日本語の独学法
	16:50 - 17:05	休憩		
	17:05 - 17:35	取りまとめ団体別ミーティング		
	17:35 - 17:50	アンケート記入・提出		
	18:30 - 20:00	歓迎夕食会		
8/22 (金)	6:30 - 9:00	朝食		
	～11:00	取りまとめ団体へ出発		

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-1:学校経営の改善）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開 催 期 日	平成26年11月17日（月）～平成26年11月28日（金）						12日間	
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	18	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 300 人、 受講者数 279 人、 参加率 93.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	16	88.9	2	11.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	18
		18		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・できるだけその日のうちに、訪問先での説明をまとめるようにしました。報告書の方向性について2回の協議会があったので明確にできました。 ・シニアアドバイザーから、研修まとめの際、及び訪問先での質問等でも、調査にもれのないよう助言をいただき、十分に活かすことができた。 ・この海外派遣研修は、事前の下調べが重要と感じた。訪問国の様子・歴史・教育システムや事情だけでなく、訪問する学校や機関の特徴をホームページで調べておく、など大切である。また、質問事項（調査内容）をあらかじめ訪問先に送付し、回答を用意（プリントあるいは口頭）してもらい、その回答についてさらに質問をすると、ポイントがずれずに調査が深まると思う。														
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施した。														
次年度に向けて ・訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。 ・団の人数のバランスを考えるため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。														

IV 研修日程(プログラム)

P115のとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-2:学校経営の改善）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開 催 期 日	平成26年10月4日（土）～平成26年10月15日（水）						12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 279 人、 参加率 93.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	5	29.4	10	58.8	1	5.9	0	0.0	1	5.9	0	0.0	17
		15		88.2										

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーがイギリスの教育事業に精通している方でしたので、とても勉強になりました。 ・研修期間中に「まとめ」の時間が確保されていたために、概ねできた。														
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施した。														
次年度に向けて ・訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。 ・団の人数のバランスを考えるため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。														

IV 研修日程(プログラム)

P115のとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B-1:言語力・コミュニケーション力の育成）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開 催 期 日	平成26年10月27日（月）～平成26年11月7日（金）						12日間	
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	19	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 279 人、参加率 93.0%
(全体計画人数)

Ⅱ アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	14	73.7	5	26.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
		19		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・今回の研修に参加させていただき、海外で学んだことも多くありましたが、日本の教育の良さも感じる事ができました。全てを取り入れるのではなく、日本の良さを残しながら新しい教育方法を考えていきたいと思います。

・他国 ヨーロッパの教育関係機関・施設を訪問し、我が国の教育システムと比較でき、今後の指導・教育活動に大いに役立つ、とてもよい研修となった。

Ⅲ 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。
- ・事前研修会について、全団を一括して８月につくばで実施した。

次年度に向けて

- ・訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。
- ・団の人数のバランスを考慮するため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。

IV 研修日程(プログラム)

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B-2:言語力・コミュニケーション力の育成）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成26年11月17日（月）～平成26年11月28日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	18	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 279 人、 参加率 93.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	18	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	18
		18	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・実際に学校を訪問すると、新たな疑問や課題もでてきた。シニアアドバイザーの先生に整理していただき、有難かった。 ・今回、「言語力・コミュニケーション力の育成」をテーマに研修をさせていただいた。視察させていただいた学校では、いずれにおいても、児童・生徒が主体的に学習に取り組んでいた。それに対して、教員を中心としたスタッフの支援する体制が充実していることが、特徴的に見てとれた。その体制をより有効なものとするために、クラスの人数も日本より少人数となっていた。言語力・コミュニケーション力を育成するのに、最大限の効果を引き出すためのベースとなるものを改めて実感した。 ・シニアアドバイザーが、いつも優しく質問に答えてくださり、私達も質問しやすい雰囲気を作ってくださいました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施した。
次年度に向けて ・訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。 ・団の人数のバランスを考慮するため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。

IV 研修日程(プログラム)

P115のとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-1:PISA型学力の育成）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開 催 期 日	平成26年10月13日（月）～平成26年10月24日（金）						12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	22	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 279 人、 参加率 93.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	18	81.8	3	13.6	0	0.0	0	0.0	1	4.5	0	0.0	22
		21		95.5										

2. 研修内容に関する主な意見

・ 事前研修であらかじめ協議していたように調査は進みませんでした。そうしたことも予測していましたから何とか現地で修正を加えながら調査することができました。 ・ シニアアドバイザーに見たり聞いたりしたことを分かりやすくまとめて説明していただけてよかった。 ・ ドイツのPISA型学力向上についての教育事情を視察することができ、大変有意義でした。特に問題は、（研修に関して）ありません。研修は、大変充実していました。														
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。 ・ 事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施した。														
次年度に向けて ・ 訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。 ・ 団の人数のバランスを考えるため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。														

IV 研修日程(プログラム)

P115のとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-2:PISA型学力の育成）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成26年10月27日（月）～平成26年11月7日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	24	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 279 人、 参加率 93.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	24	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	24
		24	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーが、視察を通して得たおびたしい情報を、整理したり価値づけたりして下さったことで、内容を咀嚼し、一般化することができた。 ・十分な時間があったわけではないが、その分、多くの場所を訪問させていただいたので、班で隙間時間を使って協議するように努めた。 ・今回の海外派遣研修はよく計画されたものであり、大変満足で、有意義なものであった。一つだけ要望するなら、高校の視察校をもう少し増やして欲しいことである。義務教育の先生が多いので仕方がないが、高校に勤務している者としては、もう少し高校教育の現場を見たかった。今回のような割合で小中と高校を視察するなら、1日ぐらい2つを分けて研修の日程を組む等の方法がとれば、一層充実したものになると思われる。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施した。
次年度に向けて ・訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。 ・団の人数のバランスを考えるため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。

IV 研修日程(プログラム)

P115のとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-3:PISA型学力の育成）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成26年10月14日（火）～平成26年10月25日（土）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	19	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 279 人、 参加率 93.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義									
人数 (人)	割合 (%)	18	94.7	1	5.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	19
		19	100.0									

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーの方が以前にも派遣国に行ったことがあって、その国のことをよく分かってみえることや、ご自身も調査・研究テーマについて研究をされているので、お話される一言一言が本当に参考になり、勉強になった。 ・海外派遣研修は、中身が濃く本当に有意義で、たくさんのことを吸収していただくことができました。計画した調査・研究内容と、実際の訪問先の内容とややズレがあったことが少し残念でした。このズレを少しでも解消するように、事前研修で、昨年度参加された方をアドバイザーとして出席していただくのもいいかと思いました。 ・本研修に参加させていただいたことで、自分自身が教師として少し成長できたように思います。調査・研究内容についてはなかなか計画通りに進まず、訪問をしながら焦りもありましたが、何かを学ぼうと必死に見たり質問したりすることもできたので、逆にそれもよかったかな、と思いました。報告書を作成する段階では、昨年度までと重なってしまう内容があることが気になりましたが、毎年少しずつ報告書の内容も前進していくよう、やはり事前研修にもう少し時間をかけ、しっかり準備できればと感じました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施した。
次年度に向けて ・訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。 ・団の人数のバランスを考慮するため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。

IV 研修日程(プログラム)

P115のとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-1:生徒指導・教育相談の充実）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成26年10月1日（水）～平成26年10月12日（日）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 279 人、参加率 93.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義									
人数 (人)	割合 (%)	13	76.5	4	23.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	17
		17	100.0									

2. 研修内容に関する主な意見

・事前研修におけるシニアアドバイザーの講義のおかげで、訪問先における調査の焦点化ができていたため、適切な質問ができ、より深く詳細な調査を行うことができた。
・国の選定がフィンランドであり、質の高い、世界でもトップレベルの教育を見ることができた。学習指導と生徒指導のそれぞれを調査することができた。生徒指導については、全体のテーマとして公式の質問等の中で、また学習指導については、学校等で授業参観をしている際の個別の（先生方への）質問を通して調査することができた。
もし可能ならば、現地において1～2回の会議（ミーティング）（副団長及び班長等で構成）を行い、諸問題等についての相談及び報告をすることによって、より質の高い研修にすることができると感じる。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。
- ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施した。

次年度に向けて

- ・訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。
- ・団の人数のバランスを考えるため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。

IV 研修日程(プログラム)

P115のとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-2:生徒指導・教育相談の充実）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者							
開 催 期 日	平成26年10月13日（月）～平成26年10月24日（金）						12日間	
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	※	人	受講者数	18	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 279 人、 参加率 93.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	17	94.4	1	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	18
		18		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・大変盛りだくさんの研修内容で満足です。ただ、一つひとつの訪問先での調査時間にゆとりがあると、もっと十分調査できたかなと思います。 ・シニアアドバイザーが、視察先での確な質問ができるようにアドバイスしてくれたり、自ら主要な内容を引き出す質問をしたり、調査の充実に努めてくれた。 ・今回の研修に参加させて頂いて得られたものが数多くありました。いじめの問題が大きなテーマでしたが、養護教諭としての視点からもドイツの学校、子どもの様子、健康に対する考え方等、興味深く学ぶことができました。														
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施した。														
次年度に向けて ・訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。 ・団の人数のバランスを考えるため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。														

IV 研修日程(プログラム)

P115のとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (F-1:体力・運動能力の向上)						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成26年11月17日 (月)～平成26年11月28日 (金)					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	23	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 300 人、 受講者数 279 人、 参加率 93.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義がなかった		全く無意義だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義									
人数 (人)	割合 (%)	22	95.7	1	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	23
		23	100.0									

2. 研修内容に関する主な意見

・ 出雲先生の切り返し質問のおかげで、内容を深めることができました。 ・ 教育機関・学校・地域の施設等、とても参考になる所ばかりでよかった。数もちょうど良かった。 ・ 研修期間中に、打ち合わせ、協議、まとめを行う時間を設定していただき、よかった。 ・ 適宜、資料を配付してくださったり、アドバイスをしてくださったりして、調査研究に活かすことができた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。 ・ 事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施した。 次年度に向けて ・ 訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。 ・ 団の人数のバランスを考えるため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。

IV 研修日程(プログラム)

P115のとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（G-1:学校教育の情報化・ICTの活用）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成26年10月6日（月）～平成26年10月17日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	20	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 279 人、 参加率 93.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	20	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	20
		20		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・小・中・高、様々な校種を訪問でき、大変有意義だった。 ・訪問先が教育省訪問から始まって、1日あたり2校、さらに、3日目にはまとめの時間があったので良かった。欲張りすぎて訪問先を増やしても印象が薄くなってしまうため、今回の研修は適切で、充実していたと思います。 ・現地での研究協議、訪問機関での適宜の指導等も含め、全て有効に活用できた。 ・シニアアドバイザーの先生が、訪問先でもご助言下さり参考になりました。グループ協議や個人的に疑問に思ったこと等についても随時、相談にのっていただくことができました。 ・教育省では必要な情報を示していただき、その後の視察に向けての予備知識となった。それから、訪問した学校はいずれも大変優れていた。 また、シニアアドバイザーから、視察するポイント、視察後の解説が訪問先ごとにあり、とても良い研修ができました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施した。
次年度に向けて ・訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。 ・団の人数のバランスを考えるため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。

IV 研修日程(プログラム)

P115のとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（H-1:特別支援教育の充実）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成26年11月3日（月）～平成26年11月14日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	13	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 279 人、 参加率 93.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	13	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	13
		13		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・制度、用語、概念の違い等ふまえていたつもりですが、現地に行ってみて改めてその違いを実感することができました。イメージを共有し合うのに苦労した点もありましたが、それも含めての研修ですので良かったです。 ・素晴らしいコーディネートで、全く問題ありませんでした。 ・シニアアドバイザーには、訪問先でもご助言頂き参考になりました。グループ協議や個人的に疑問に思ったこと等についても随時、相談にのっていただくことができました。														
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施した。														
次年度に向けて ・訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。 ・団の人数のバランスを考えるため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。														

IV 研修日程(プログラム)

P115のとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-1:学校と地域等の連携）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成26年10月6日（月）～平成26年10月17日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	14	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 279 人、 参加率 93.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	9	64.3	5	35.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	14
		14		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーからの指導（考え方・知識）のタイミングがよく、全員が意欲を持ち続けることができた。 ・団長やシニアアドバイザー、通訳、添乗員の方々のおかげで、訪問先が変更しても研修が行えました。 ・シニアアドバイザーの先生の的確かつ適切な御指導、ご助言により有意義な研修となった。 ・とても勉強になった研修でした。ただ、英語科教員が私独りだけであり、通訳などの必要はあまりなかった。この研修に参加されるほかの先生方も英語科の人が多いと思っていたので、やや残念であった。参加する前に、もっと情報収集しておけばよかったと思う。こういう点を除くと、自分としては大変価値ある日々を過ごさせて頂きました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施した。
次年度に向けて ・訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。 ・団の人数のバランスを考えるため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。

IV 研修日程(プログラム)

P115のとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-2:学校と地域等の連携）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修課 基幹研修第三グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の中核的な役割を担う指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担う指導者となる者であって、かつ長時間の移動や海外での研修に耐え得る者						
開 催 期 日	平成26年9月29日（月）～平成26年10月10日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 279 人、 参加率 93.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義									
人数 (人)	割合 (%)	12	75.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	16
		16	100.0									

2. 研修内容に関する主な意見

・希望要望も充分聞いていただき、勉強になるだけでなく感動いたしました。 ・事前に設定していたため、視点を定めて視察することができた。 ・派遣国の教育制度を文化と照らし合わせて、どのようにして日本で活用できるのか、適切にアドバイスして頂きました。 ・シニアアドバイザーからの指導（考え方・知識）のタイミングがよく、全員が意欲を持ち続けることができた。 ・グループに分かれて協議し、まとめることや、今後の報告書作成のための方向を決めることができました。												
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題等を踏まえ、「学校安全・防災教育の推進」のテーマを廃止した。 ・事前研修会について、全団を一括して8月につくばで実施した。												
次年度に向けて ・訪問先機関の確定状況について、文書の提出を義務づける。 ・団の人数のバランスを考えるため、参加希望を取る際に、第一、第二希望を書いてもらう。												

IV 研修日程(プログラム)

P115のとおり

平成26年度 教育課題研修指導者海外派遣プログラム 派遣団一覧

派遣テーマ	団数	派遣団名	人数	派遣国	派遣期間	日数	事前研修会	
学校経営の改善	2	A-1	18	イギリス	11/17(月)～11/28(金)	12	8/9(土)～ 8/10(日)	教員研修 センター (つくば市)
		A-2	17	イギリス	10/4(土)～10/15(水)	12		
言語力・コミュニケーション力の育成	2	B-1	19	オーストリア	10/27(月)～11/7(金)	12		
		B-2	18	ドイツ	11/17(月)～11/28(金)	12		
PISA型学力の育成	3	C-1	22	ドイツ	10/13(月)～10/24(金)	12		
		C-2	24	フィンランド	10/27(月)～11/7(金)	12		
		C-3	19	フィンランド	10/14(火)～10/25(土)	12		
生徒指導・教育相談の充実	2	D-1	17	フィンランド	10/1(水)～10/12(日)	12		
		D-2	18	ドイツ	10/13(月)～10/24(金)	12		
キャリア教育の充実	1	E-1	21	オーストラリア	10/20(月)～10/31(金)	12		
体力・運動能力の向上	1	F-1	23	ニュージーランド	11/17(月)～11/28(金)	12		
学校教育の情報化・ICTの活用	1	G-1	20	オーストラリア	10/6(月)～10/17(金)	12		
特別支援教育の充実	1	H-1	13	デンマーク	11/3(月)～11/14(金)	12		
学校と地域等の連携	2	I-1	14	イギリス	10/6(月)～10/17(金)	12		
		I-2	16	オランダ	9/29(月)～10/10(金)	12		

15 団 279 名

I 研修概要

研 修 名	産業・理科教育教員派遣研修						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員とする。						
開 催 期 日	年間を通して（3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月）					日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	31	人	参加率 31.0%
開 催 場 所	国立大学法人宇都宮大学ほか						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	27	87.1	4	12.9	0	0.0	31
		31	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・教科指導に生かせると思う。研修で学んだことを現場に戻って実践していきたい。 ・ロボット産業における制御技術や企業との連携による生徒実習に関する内容の構築を知ることができたので、教育現場に生かしたい。 ・研究者とふれあい、私自身も研究に取り組むことで、通常の職務では得られない経験ができ、教育者としての視野が広がった。 ・大学において、高校での授業でも、実践可能な内容の研修を行うことができたため、大学で専門的知識を学んでいない私には、とても有意義な研修だった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度 産業・理科教育教員派遣研修 研修派遣一覧

No	都道府県	派遣 人数	派遣元	派遣先		
			所 属	機関名	派遣時期	期間
1	栃木県	5	宇都宮市立宝木小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H26. 4. 1 ~ H26. 9. 30	6 ヶ月
2			益子町立田野中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H26. 10. 1 ~ H27. 3. 31	6 ヶ月
3			益子町立七井小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H26. 4. 1 ~ H26. 9. 30	6 ヶ月
4			那須町立那須小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H26. 10. 1 ~ H27. 3. 31	6 ヶ月
5			栃木県立鹿沼商工高等学校	大原簿記情報ビジネス専門学校	H26. 10. 1 ~ H27. 3. 31	6 ヶ月
6	群馬県	1	群馬県立前橋商業高等学校	高崎経済大学	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	12 ヶ月
7	長野県	1	長野県池田工業高等学校	国立大学法人 信州大学	H26. 5. 1 ~ H27. 3. 31	11 ヶ月
8	愛知県	5	愛知県立惟信高等学校	国立大学法人 名古屋大学大学院	H26. 4. 1 ~ H26. 9. 30	6 ヶ月
9			愛知県立名南工業高等学校	株式会社 豊田自動織機 技能専修学園	H26. 6. 2 ~ H26. 8. 29	3 ヶ月
10			愛知県立春日井工業高等学校	株式会社 バイナス	H26. 6. 2 ~ H26. 8. 29	3 ヶ月
11			愛知県立緑丘商業高等学校	名古屋商科大学	H26. 4. 1 ~ H26. 6. 30	3 ヶ月
12			愛知県立中川商業高等学校	大原簿記情報医療専門学校	H26. 7. 1 ~ H26. 9. 30	3 ヶ月
13	京都府	3	向日市立第5向陽小学校	国立大学法人 大阪大学大学院	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	12 ヶ月
14			亀岡市立詳徳中学校	国立大学法人 大阪大学大学院	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	12 ヶ月
15			京都府立嵯峨野高等学校	国立大学法人 京都大学大学院	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	12 ヶ月
16	大阪府	1	大阪府立堺工科高等学校	国立大学法人 京都大学大学院	H26. 5. 1 ~ H27. 3. 31	11 ヶ月
17	和歌山県	1	和歌山県立和歌山商業高等学校	国立大学法人 和歌山大学	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	12 ヶ月
18	岡山県	1	岡山県立勝間田高等学校	国立大学法人 岡山大学	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	12 ヶ月
19	高知県	2	高知工業高等学校	早稲田大学	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	12 ヶ月
20			高知工業高等学校	四国職業能力開発大学校附属 高知職業能力開発短期大学校	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	12 ヶ月
21	福岡県	1	福岡県立三池工業高等学校	久留米工業大学	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	12 ヶ月
22	佐賀県	3	佐賀県立唐津工業高校	国立大学法人 佐賀大学	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	12 ヶ月
23			佐賀県立牛津高等学校	香蘭女子短期大学	H26. 4. 1 ~ H26. 9. 30	6 ヶ月
24			佐賀県立牛津高等学校	学校法人杉野学園指定 緑ドレスメーカー服飾専門学校	H26. 10. 1 ~ H27. 3. 31	6 ヶ月
25	熊本県	1	熊本県立南稜高等学校	熊本県農業研究センター	H26. 4. 1 ~ H27. 3. 31	12 ヶ月
26	宮崎県	2	宮崎県立高鍋農業高等学校	南九州大学	H26. 10. 1 ~ H26. 12. 26	3 ヶ月
27			宮崎県立佐土原高等学校	国立大学法人 宮崎大学	H26. 10. 1 ~ H26. 12. 26	3 ヶ月
27			宮崎県立佐土原高等学校	国立大学法人 宮崎大学	H26. 10. 1 ~ H26. 12. 26	3 ヶ月
28	札幌市	1	北海道札幌平岸高等学校	国立大学法人 北海道大学	H26. 9. 15 ~ H26. 12. 15	4 ヶ月
29	岩手県	1	奥州市立水沢南中学校	国立大学法人 岩手大学	H26. 6. 1 ~ H26. 8. 29	3 ヶ月
30	山口県	2	宮崎県立高鍋農業高等学校	南九州大学	H26. 10. 1 ~ H26. 12. 26	3 ヶ月
31			宮崎県立佐土原高等学校	国立大学法人 宮崎大学	H26. 10. 1 ~ H26. 12. 26	3 ヶ月

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業B－1）「技術者倫理・法令遵守・安全教育等に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成26年8月19日（火）～平成26年8月23日（土）					5日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	30	参加率 150.0%
開 催 場 所	金沢工業大学（石川県野々市市）					

※ 全体受講定員 205 人、 受講者数 223 人、 参加率 108.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	29	96.7	1	3.3	0	0.0	30
		30	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・技術者倫理と具体的な安全活動について学ぶことができる貴重な講義内容で、自分自身が新たな学びを得ることはもちろんのこと、今回の研修内容を勤務校の生徒ならびに先生方に伝達しやすい実践的な内容であったことが最も大きな研修成果であったと思う。再度、今回の研修内容を振り返り、自校の実態を踏まえて授業や特別活動の場で自校化した内容を取り入れていきたいと思う。
・今回の研修は、社会の現状を見通した上での技術者倫理、安全対策の講義で、大変有意義であった。しかし、これから学校に戻り、どの様に実践し、生徒に還元するか、職員にどう普及させるかが大きな課題だと思う。しっかりと報告を行い、多くの先生方からご意見とご協力をいただきながら進めていきたいと考えている。
・このような研修に参加させていただき、大変に良い経験となった事は言うまでもないが、「安全について」「倫理について」の再確認が出来、勉強となりこれからの仕事の中で生（活）かす事ができると考える。良い環境を整えていただいた。
・今まで経験した事のない内容も多々あり、考え方や行動、資料等大変有意義であった。又、丁寧に講義・案内をしていただいた。今後は、この内容をどこかで還元していき、校内、県内と広げていければと考える。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成 26 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(工業：B－1)

団体名： 学校法人金沢工業大学

時 限	1 時 限 8:40～10:10		休 憩	2 時 限 10:30～12:00		昼 休 み	3 時 限 13:00～14:30		休 憩	4 時 限 14:50～16:20		自主活動時間 16:40～18:00	
日 時	9	10		11	12	13	14	15	16	17	18		
8 月 19 日 (火)	開講式・ オリエン テーショ ン (約 20 分)	(講義) 安全① 文科省審査官による 工業教育指導方法の講義		(講義・演習) 技術者倫理① 技術者倫理の概要			(講義) 技術者倫理② 技術者の社会的責任(1)		(講義・演習) 技術者倫理③ 技術者の社会的責任(2)		(自主活動)		
8 月 20 日 (水)		(講義) 技術者倫理④ 倫理的問題解決のための 具体的技法(1)		(講義・演習) 技術者倫理⑤ 倫理的問題解決のための 具体的技法(2)			(講義・演習) 技術者倫理⑥ 外部講師による企業現場 での事故防止の講義		(講義) 安全② 産業界・教育機関における 安全		(自主活動)		
8 月 21 日 (木)		(講義・演習) 安全③ 安全と 5 S・4 S 活動		(講義・演習) 安全④ 外部講師による工業高校に おける事故対応の講義			(講義) 安全⑤ 5 S・4 S 活動の実践と 評価活動		(講義・演習) 安全⑥ 安全と関係法令ならびに 法令遵守		(自主活動)		
8 月 22 日 (金)		(講義・演習) 安全⑦ 危険予知訓練		(講義・演習・見学) 安全⑧ 安全パトロールと 危険要因抽出			(講義・演習) 安全⑨ 作業事故未然防止策の 検討		(講義・演習) 安全⑩ 作業事故未然防止策の検討 結果の発表と討論		(自主活動)		
8 月 23 日 (土)		(講義) 技術者倫理⑦ 外部講師による高校教育現場の 実践事例紹介		(講義) 技術者倫理⑧ 受講者と講師陣による 意見交換とまとめ	閉講式 12:00 から 12:30								

実施会場： 金沢工業大学 23 号館 214 教室

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（商業C－１）『教科「商業」における授業改善に関する講義と実習』					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成26年7月28日（月）～平成26年8月1日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	40	人	受講者数	51	参加率 127.5%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）					

※ 全体受講定員 205 人、 受講者数 223 人、 参加率 108.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	44	7	0	0	0	0	51
割合 (%)	86.3	13.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	51	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・研修を通して、本当に勉強になった。そして、私自身もっと色々な事に取り組まなければならないと強く感じた。この研修で得たものを本県に持ち帰り、他の先生と協力していきたいと思う。 ・現在総合学科の学校に勤務しており、総合学科の特徴を考え、その中での商業教育を模索しているところである。本研修では、商業教育の魅力についてたくさんの先生方と話しをする機会があり、とても有意義であった。また、それぞれの講義内容も今後の活動のヒントになるものばかりだった。勉強不足、努力不足であったことを痛感した。素晴らしい研修に参加させていただいたと感謝している。 ・様々な方から貴重なお話を聞き、まさに目からウロコだった。一方で、我々が今まで行ってきた商業教育は決して間違っているものではなく、変わるものと変わらないものがあるのだと自信ももった。地元に戻り必ず還元したいと思う。 ・商品開発や企業との連携は参考になった。真の学力を身につけさせるために多様な授業形態を実施しなければと思ったが、なかなか実行できず（ふみ出せず）にいた。今回、実践例をご紹介頂きその成果を改めて知った。最初は、上手にできないかもしれないが、恐れずにチャレンジしようと思う。 ・商業を変えなければ！と思いつつも何から手を付けていいかわからない日々を過ごしていたが、この講習会で得た経験と、ヒントで新しい商業教育へと取り組みたいと思う。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度産業・情報技術等指導者養成研修日程表

(商業、C-1)				団体名：千葉商科大学						
	9:00	10:30	10:40	12:10		13:10	14:40	14:50	16:20	17:00
7月28日 (月)	受付	開講式	(講義) 「商業教育に魅力はあるか」	(グループ研究) 「魅力ある商業教育の構築」①課題と解決策を考える	昼休み	(講義) 「商品開発と知的財産権」	(講義) 「高等学校におけるマーケティング教育の指導」	(講義) 「魅力ある商業教育の構築」協議	グループ研究	
7月29日 (火)	(講義) 商品コンセプトや商品開発の実際と課題の解決	(講義) 「知職構成型ジグソー法を取り入れた授業展開」	(講義) 「魅力ある商業教育の構築」②	昼休み	(講義と実習) 「ディベートを取り入れた授業展開」	(グループ研究)				
7月30日 (水)	(講義) 「ビジネスマナーに関する指導力の向上」	(講義) 「思考力・判断力・表現力等を育成する学習指導」	(講義) 「ネットワーク管理入門」①	昼休み	(講義) 「会計教育の意義と期待」	(講義) 「ビジネス経済分野の指導」			グループ研究	
7月31日 (木)	(講義と実習) 「ネットワーク管理入門」①	(講義と実習) 「ネットワーク管理入門」②	(講義) 「部活動指導を通して商業教育の活性化を図る」	昼休み	(講義) 「ネットビジネスの現状と展望」	(講義) 「産業界と連携した実践的な授業展開」			グループ研究	
8月1日 (金)	(講義) 「ケースメソッド教育を取り入れた授業展開」	(講義) 「部活動指導を通して商業教育の活性化を図る」	(講義) 「魅力ある商業教育の構築」発表	閉講式						

実施会場：千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭E－1）「社会の変化に対応した衣食住、ヒューマンサービス等の生活産業に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成26年8月4日（月）～平成26年8月7日（木）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	26	参加率 104.0%
開 催 場 所	全国高等学校長協会家庭部会（東京都千代田区）、女子栄養大学坂戸校舎（埼玉県坂戸市）他					

※ 全体受講定員 205 人、 受講者数 223 人、 参加率 108.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	25	96.2	1	3.8	0	0.0	26
		26	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・今回、大変貴重な経験をさせていただくことができ、本当に勉強になった。他県の先生方とお話をする 것도でき、普段はできない経験ができたことに感謝している。
・大変勉強になった。普段、専門科目ばかり教えているため、他の領域に対する考え方も変わった（特に被服分野の目的の考え方）。
・家庭科教育の目指す方向が明確となり、今後何に力を入れて取り組むかを考える機会となった。多くの実践を聴くことができ、モチベーションが向上した。指導法についても、もう一度見直しをするチャンス을いただき、大変有意義な研修となった。
・他県の専門学科の先生の取り組みや、食物、被服、保育、消費者教育に関する最新の研究や取り組みを教えていただいたので、とても勉強になった。また3日目の発表では、指導者が熱心に研修をし、授業にフィードバックしている姿が生徒の学ぶ意欲を喚起し、学びの良い連鎖を生むとわかった。教師が高い志を持ち輝いている姿を見せていただいた事はとても参考になった。
・多領域に渡って、現在の日本の動き、世界の中の日本の状況について学ぶことができ、ありがたかった。大きな専門学科の学校に長く居ると自分の専門分野のことは深く学べ、技術もある程度身につくが、家庭科全般のことが大変薄くなってしまうので、本当によい機会である。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成 26 年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭, E-1)

全国高等学校長協会家庭部会

	月日 (曜日)	午前 1 (9:30~11:00)		昼休 12:30	午後 1・2 (13:30~16:30)		午後 3 (16:30~17:00)	会 場
		9:30	10:00		13:30	15:00		
1	8月4日(月)	【開講式】	【講義】 「家庭科における 授業改善の視点」 文部科学省教科調査官 望月 昌代	【講義】 「より豊かに生きる力を めざして —家庭科教育を原点に」 元校長 加藤 路子	【講義】 授業実践事例 「生徒の“夢”の実現を目指して ～食物調理科製菓コースの実践から～」 三重県立相可高等学校 教諭 奥田 清子 (食物)	【講義】 授業実践事例 「高い専門性と豊かな人間性を 備えたスペシャリストの育成」 ～服飾デザイン科の特色ある取組について～ 岐阜県立大垣桜高等学校 教諭 柴田 幸美(被服)		全国高等学校長協会 家庭部会事務局 会議室(千代田区)
2	8月5日(火)		【講義】 「野菜の新しい見方 —機能的評価をめぐって」 女子栄養大学教授 三浦 理代	【講義】 「食文化の意義—食の安 全・安心・健康のために」 女子栄養大学副学長 五明 紀春	【講義】 「わかりやすい食事献立法 —四群点数法の考え方」 女子栄養大学 専任講師 西村 早苗	【演習】 「わかりやすい食事献立法 —四群点数法の使い方」 女子栄養大学 専任講師 西村 早苗 助教 伊藤 早苗		女子栄養大学 坂戸校舎 (坂戸市)
3	8月6日(水)	【講義】 「文部科学省がす すめる『成長分野等 における中核的事 業人材養成事業』の エッセンス」 学(高校、専門学校) 連携事業について」 学校法人文化学園 国際ファッション学 進機構 機構長 川合 直	【講義】 「ファッション業界の仕事 と動向について」 学校法人文化学園 文化服装学院 キャリア支援室 池田 衛	【講義・実習・体験】 「日本のものづくりの最前線 —情報をキャッチする」 * 文化学園図書館、 ファッションセンター 文化服装学院非常勤講師 神山デザイン事務所代表 神山 勝雄	【講義・実習】 「個性を引き出し、思考力、表現力を育てる造形教育①・②」 学校法人文化学園 文化服装学院 生涯学習部 生涯学習・通信教育 指導主事 丸山 晴美	【講義】 「遠隔授業を取り入れた 授業実践事例」 福島県立小野高等学校 教諭 目時 千夏		文化服装学院(渋谷区)
4	8月7日(木)	【講義】 「現代の子供の生活の現状と課題」 東京都市大学 教授 内藤 知美	【講義】 「家庭科における消費者教育 の推進」 日本消費生活アドバイザー・ コンサルタント協会 常任顧問 葛西 光子	【まとめ・研究協議】 「研修のまとめ」 文部科学省教科調査官 望月 昌代	【閉講式】			全国高等学校長協会 家庭部会事務局 会議室(千代田区)

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護F－1）「看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成26年8月25日（月）～平成26年8月27日（水）					3 日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	21	人 参加率 105.0%
開 催 場 所	川崎医療福祉大学（岡山県倉敷市）					

※ 全体受講定員 205 人、 受講者数 223 人、 参加率 108.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	19	90.5	2	9.5	0	0.0	0	0.0	21
		21	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・ 自己の教育を振り返る機会が多かった様に思う。そこから感じたこと見えてきたこともたくさんあった。講義とリンクして学ぶことができたことも有意義だった。 ・ 新たな知識や、具体的な指導内容など、役立つ研修内容だった。講義は、自身の授業にもすぐに活かせるようなマネしたいところもあり、演習も充実していた。学習環境も快適であった。 ・ 大学で研修を受けることで刺激、学びがたくさんあった。ハード面、ソフト面において充実していると感じると同時に、今後高校教育の存在価値をどのようにうみだしていくか、ということを考えていかなければとひしひし感じた。 ・ 3日間様々な研修をさせていただいてとても視野が広がる研修であった。また、人数も少数であったため、様々な県の先生方と交流することができ、課題等も共有できて、とても参考になった。 ・ グループワークで他高校でも、同じような課題があり、先生方が悩まれている事を知り、自分自身の振り返りになった。特に、生徒の感情の振り返りをする事が大切だと思った。これからの実習で実践していきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・ 研修実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成 26 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

看護 (F-1)

1. 期 間 平成 26 年 8 月 25 日 (月) ～平成 26 年 8 月 27 日 (水)

2. 会 場 学校法人 川崎学園 川崎医療福祉大学

〒701-0193 岡山県倉敷市松島 288 番地

電 話：086-462-1111 (担当：波川 内線：54903)、FAX：086-464-1109

3. 講義内容

日時	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:45	12:00	12:45	13:30	14:00	14:30	15:00	17:00
8月25日 (月)	受付	開講式	(講義) 「看護教育の課題」	(講義) 「医療福祉専門職の育成」	(講義) 「医療福祉専門職の育成」	昼食および交流会	附属病院に移動	(講義) 「看護管理と卒業教育のあり方」	(実習) 「川崎医科大学附属病院卒業臨床研修センター実習」				
8月26日 (火)	(講義) 「看護理論から看護実践へ」	休憩	(講義・演習) 「臨地実習指導－臨地場面の教材化から指導のアプローチと評価－」 ＜★昼食は適宜＞										
8月27日 (水)	(見学) ドクターヘリ	(講義) 「災害時におけるDMAT(災害派遣医療チーム)の活動」	休憩	(講義) 「これからの国際看護教育」	昼食	研修全体の振り返り・総括	(講義) 「今後の看護教育について」	閉講式					

＜事前課題＞① 臨地実習における教育の現状と課題 (講義)

② ①の問題解決のための具体的な実践状況

③ 実習指導に困難を感じた場面の詳細記述 (1つ以上)

＜準備物品＞学内用白衣 (看護衣・予防衣等)、ナースシューズ

＜交流会＞1,000円程度の会費をご負担いただきます。

＜問い合わせ先＞保健看護学科 森口 (内線：55962)

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報G-1）「ネットワークシステムの構築・運営管理とシステム設計に関する講義と実習」						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等						
開 催 期 日	平成26年7月28日（月）～平成26年8月1日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	12	人	参加率 60.0%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）						

※ 全体受講定員 205 人、受講者数 223 人、参加率 108.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	7	58.3	5	41.7	0	0.0	0	0.0	12
		12	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・研修内容は、予想していたより基礎的であり、有難い反面、高度な技術に触れる機会もあれば、と思った（理解がなくても、到達点を体験することで道筋を作ることができる）。 ・5日間いろいろ勉強させてもらって本当に良かった。学んだことは必ず復習し、少しずつでも役に立てていこうと思う。実際現場に帰ると、生徒指導や補習等で忙しいが、頑張っていく。 ・何を目的としているのか、これを何故講座の内容として選んだのか、よく分からない気がした。（内容はもっと高度でよいと思う。）視学官の話を聞き、少しは理解できたので、できれば先に聞いておきたかった気がする。最終的には多くの方の授業に対する思いや実践例を聞くことができ満足している。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。 ・当センターの第4期中期計画の研修の廃止等の規程により、適当な委託先がない休止中のコースを本コースに統合する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度産業・情報技術等指導者養成研修日程表

(情報, G-1)

団体名 千葉商科大学

	9:00	9:30	10:10	10:40	12:10		13:10	14:40	14:50	16:00	17:00
7月28日 (月)	受付		開講式	(講義・実習) ネットワークの基礎① (LAN作成)		昼休み	(講義実習) ネットワークの基礎② (LAN接続)		(講義実習) ネットワークの 基礎③(無線LAN)	(講義実習) ネットワークの 応用① (IP)	
7月29日 (火)	(講義実習) ネットワークの応用② (ファイル共有)		(講義実習) Webサーバーの構築と HTML①		昼休み	(講義実習) Webサーバーの構築とHTML ②				(講義) 文部科学省 視学官 講話	
7月30日 (水)	(講義実習) ダイナミックHTML①				昼休み	(講義実習) Webサーバーの構築とHTML ③	(講義実習) Webサーバーの構 築とHTML ④		(講義) IT 事業の展望		
7月31日 (木)	(講義実習) Accessによるシステム設計				昼休み	(講義実習) Excel VBAによるシステム設計					
8月1日 (金)	(講義) 授業実践例		(講義実習) Webアプリケーション①		昼休み	(講義実習) Webアプリケーション②				閉講式	

実施会場：千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（福祉H－1）「医療的ケアを中心とした生活支援技術の講義と演習（医療的ケア教員講習）」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成26年8月20日（水）～平成26年8月22日（金）				3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	38	参加率 126.7%
開 催 場 所	埼玉県立誠和福祉高等学校（埼玉県羽生市）					

※ 全体受講定員 205 人、 受講者数 223 人、 参加率 108.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	28	73.7	10	26.3	0	0.0	0	0.0	38
		38	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・喀痰吸引の実技を初めてさせていただいたので大変勉強になった。又、他校の取り組み、教材についても先生方から教えていただき貴重な経験になった。 ・福祉系高校の先生方と新しいネットワークができた。少人数の研修で親しくなり、今後の課題解決に気軽に連絡のできる関係をつくることができた。又、会場校の設備の充実にもおどろき、とても参考になった。 ・看護科に所属し、福祉科の医療的ケアの担当であり東京での一日研修しか受講していないため、復習のつもりで参加した。一日研修と比較するとゆっくりと演習ができ、有意義でした。また疑問点についても説明を受けることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、前回同様、全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・研修実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度 産業・情報技術等指導者養成研修 日程

(福祉、H-1)

団体名 全国福祉高等学校長会

日時	13:45	14:00	15:00	15:10	16:10
8月20日 (水)		開講式	福祉用具について スライディングボード	福祉用具について リフター等	
日時	9:00	10:00 10:10	11:10 11:20	12:20 12:20	13:20 13:20
8月21日 (木)	講義① 制度の概要	講義② 医療的ケアの基礎 (医療安全)	講義③ 医療的ケアの基礎 (感染管理)	昼休み	講義④ シミュレーション 教育について
日時	9:00	10:00 10:10	11:10 11:20	12:20 12:20	13:20 13:20
8月22日 (金)	演習1 喀痰吸引	演習2 経管栄養	演習2 経管栄養	昼休み	演習2 経管栄養
				演習2 経管栄養	閉講式
日時	9:00	10:00 10:10	11:10 11:20	12:20 12:20	13:20 13:20
					講義⑤ 喀痰吸引
					講義⑥ 経管栄養
日時	9:00	10:00 10:10	11:10 11:20	12:20 12:20	13:20 13:20
					閉講式

実施会場：埼玉県立誠和福祉高等学校

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（技術）I-1）「これからの日本を支える人材の育成を目指した技術分野の指導と評価」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成26年8月4日（月）～平成26年8月8日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	22	参加率 88.0%
開 催 場 所	鳴門教育大学(徳島県鳴門市)					

※ 全体受講定員 205 人、 受講者数 223 人、 参加率 108.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	7	31.8	15	68.2	0	0.0	0	0.0	22
		22	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・ 普段学習したくても時間等の理由で、なかなかできなかった内容のものを研修させていただき大変良かった。中学校にもどっても、この研修内容を自分なりに深めていきたいと思う。 ・ 新しいものづくりの技術やテクノロジーについて知る、よい機会となった。授業をする上でもいろいろなこと、先端技術に用いられている内容がどう発展してきたかというようなことを知っているのはとても重要だと思う。 ・ 一週間という短い期間だったが、専門的な内容を時間をかけてしっかりと研修することができたので、大変有意義だった。また、他県の先生方ともいろいろな話ができて、情報交換ができたこともよかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・ 実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。 ・ 受講定員の削減及び研修の実際の内容の見直しを行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術, I-1)

団体名： 鳴門教育大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
平成26年 8月4日(月)		開 講 式	(講義) 今後の社会を支える 技術分野の在り方		昼休み	(講義) 計算機器の変遷	(実習) 技術教材の利用		
8月5日(火)	(実習) 第1班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第2班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第3班：情報システムとネットワーク			昼休み	(実習) 第1班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第2班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第3班：情報システムとネットワーク				
8月6日(水)	(実習) 第1班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第2班：情報システムとネットワーク 第3班：エネルギー変換(機械)と材料加工			昼休み	(実習) 第1班：エネルギー変換(電気)と計測・制御 第2班：情報システムとネットワーク 第3班：エネルギー変換(機械)と材料加工				
8月7日(木)	(実習) 第1班：情報システムとネットワーク 第2班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第3班：エネルギー変換(電気)と計測・制御			昼休み	(実習) 第1班：情報システムとネットワーク 第2班：エネルギー変換(機械)と材料加工 第3班：エネルギー変換(電気)と計測・制御				
8月8日(金)	(研究協議) 第1・2・3班： 技術教育ディスカッション (各班での協議)			昼休み	(研究協議) 技術教育ディスカッション (全体発表)	閉 講 式			

実施会場： 鳴門教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術・家庭（家庭）J-1）『学校における食育の推進：教科「技術・家庭」における食に関する指導（講義と実習）』							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成26年8月4日（月）～平成26年8月7日（木）					4日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	25	人	受講者数	23	人	参加率	92.0%
開 催 場 所	横浜国立大学(神奈川県横浜市)							

※ 全体受講定員 205 人、 受講者数 223 人、 参加率 108.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	20	87.0	3	13.0	0	0.0	0	0.0	23
		23	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・現場では最新の家庭科に関する講義を受ける機会が少ないので、指導要領からでは気づきにくいこと、思いこみで進めてしまっていたことなど、反省することも多くあった。家庭科だけに集中できたこと、各県の先生方との情報交換も大変有意義だった。
・家庭科の内容をじっくりと見つめ直すよい機会であった。地域でも家庭科教員が少ないので、このように専門的な話を聞いたり、情報交流でき、内容の濃い4日間であった。少ない時間数の中で何を学ばせたいのかをよく考え、その為に有効な方法や授業展開を考えていく大切さを改めて学んだ。今後の授業にいかしていきたいと思う。
・食だけにスポットをあてて研修できる、これだけ深く、現場に生きる材を学べる機会は大変ありがたかった。特に、体験的に研修することは家庭科教員にとって必要なはずであることを改めて実感できた。現場に生かし発信していかなければならないのと同時に、さらに学び深めていきたいと感じている。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。 ・受講定員の削減及び研修の実際の内容の見直しを行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術・家庭：J-1)

団体名：横浜国立大学

日時	9:00	9:30	10:00	10:35	12:00	13:00	14:30	15:00	16:00	17:30
8月4日 (月)		受付	開講式 10:00 開会 10:02 挨拶 10:12 開会 オリエンテーション 10:15-10:25	(講義)「技術・家庭科(家庭分野)における食に関する指導の充実」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 中集会室 10:35-12:00	昼食	(講義)「3学年間を見通した食に関する指導計画」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) (報告)「技術・家庭科(家庭分野)における食に関する指導の実践事例」 30分×2人、質疑応答30分 (担当)細川浩美(佐倉市立佐倉中学校教諭) 大川美子(宇都宮市立陽西中学校教諭) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00				
8月5日 (火)	(実習)「調理科学の視点を重視した実習指導」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育人間科学部第1研究棟312室 調理学実験実習室 9:00-12:00				昼食	(講義)「ワークシヨップ」「技術・家庭科における食の授業デザイン」 (担当)堀内かおる(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00	休憩 十分		(演習)「学習指導案立案」① 16:10-17:30	
8月6日 (水)	(講義)食の現代的問題1 「食官における食品安全性」 (担当)山本和貴(農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 研究員) 教育文化ホール 中集会室 9:00-10:25	休憩 十分	(講義)食の現代的問題2 「らま味を知るー今、世界が注目する味覚と機能ー」 (担当)二宮くみ子(NPO法人うま味インフオメーションセンター 理事) 教育人間科学部 講義棟 7号館 310室 10:35-12:00	昼食	(講義)食の現代的問題3 「環境に配慮した調理」 (担当)上南昭子(東京ガス株式会社「食」情報センター) 教育人間科学部 第1研究棟 312室 調理学実験実習室 13:00-14:20	休憩 十分	(演習)「食の授業におけるICTの活用」 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育人間科学部 講義棟7号館 310室 14:30-16:00	休憩 十分	(演習)「学習指導案立案」② 16:10-17:30	
8月7日 (木)	(実習)「栄養バランスと食品選択を意識した献立実習」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育人間科学部 第1研究棟 312室 調理学実験実習室 9:00-12:00			昼食	(ディスカッション) 「技術・家庭科(家庭分野)での食に関する指導の充実」 学習指導案発表 (担当)堀内かおる、杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 13:00-14:30	休憩 十分	閉講式 14:40 開会 14:42 挨拶 14:50 修了証授与 15:00 閉会 アンケート回収 諸連絡			

実施会場：横浜国立大学

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（農業）『教科「農業」及び農業科指導法に関する講義と実習』							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者							
開 催 期 日	平成26年8月18日（月）～平成26年8月22日（金）					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	32	人	参加率	160.0%
開 催 場 所	南九州大学都城キャンパス(宮崎県都城市)							

※ 全体受講定員 60 人、 受講者数 79 人、 参加率 131.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	21	11	0	0	0	0	32
割合 (%)	65.6	34.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	32	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・現在の勤務地にただけでは知り得なかった、探究心をくすぐられることもなかったこと（食品衛生や色素について等）が多くあったことに気がついた。特に難しいと考えがちな教育法についてはわかりやすく、とても身近に感じられた。子供たちのためになる！！あたり前のことに気づけた。

・講師の先生方の専門的な知識を講義、実験で幅広い分野で学ぶ事ができた。また全国各地の先生方と情報交換や親睦を深める事ができ大変よかった。農業科教育法の単位数変更をもう少し早い時期に連絡していただきたかった。

・以前に受けた講習会でいくつか似た内容のものを学んでいたのですが、再確認という意味でも有意義なものであった。今回の研修自体は全体を通してとても良かったと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。

次年度に向けて

- ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成26年度産業教育実習助手研修日程

(農業科教育法，職業指導)

大学名 南九州大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月18日(月)			開講式 ガイダンス	昼休み	(講義) 学習指導要領と 教育課程	(講義) 農業の社会的な 意義や役割			
8月19日(火)	(講義) 造園空間の創造	(講義) 食品の安全性	昼休み	(講義) 農業教育の目的 と役割	(講義) 農業と環境				
8月20日(水)	(講義・実験) 植物バイオテクノロジー ジー〈花の色素〉	(講義) 植物色素科学 〈色素の機能性〉	昼休み	(講義) 職業指導の現状	(演習) 職業指導の課題				
8月21日(木)	(講義) 農業科教育と職業 指導	(講義) 高校の進路指導 ①	昼休み	(講義) 高校生の進路選 択とその支援	(演習) 高校の進路指導 ②				
8月22日(金)	(講義) キャリア教育におけ る各種機関の協力	(演習) 高校教育の視点から 職業指導を考える	昼休み	(試験) レポート提出	修了式				

実施会場：南九州大学 都城キャンパス

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（工業）『教科「工業」及び工業科教育法に関する講義と実習』						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。						
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者						
開 催 期 日	平成26年8月25日（月）～平成26年8月29日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	25	人	参加率 125.0%
開 催 場 所	足利工業大学(栃木県足利市)						

※ 全体受講定員 60 人、 受講者数 79 人、 参加率 131.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	20	80.0	5	20.0	0	0.0	0	0.0	25
		25	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

- ・様々な分野で講義をいただき、研修で学んだことを授業にいかしたいと思う。
- ・普段、今回の研修のような専門性の高い講義を受ける機会がないので、大変勉強になった。
- ・充実した5日間だと思う。専門外の講義が多く理解しづらいこともあったが、教育の幅を広げるということで色々と知識が深まった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。

次年度に向けて
・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成26年度産業教育実習助手研修日程

(工業)

大学名:足利工業大学

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8月25日 (月)	9:00 ～ 受付	9:15 ～ 開講式	9:30～11:00 (講義) 工業科教育法① 工業科学習指導要領 持田教科調査官	11:10～12:40 (講義) 工業科実践① 鋼構造(鉄の橋) 末武教授	休 憩	13:30～15:00 (講義) 工業科概論① 将来の産業活動で活 躍するモーター 萩原(弘)教授	15:10～16:40 (講義) 工業科教育法② 学習指導要領の変遷 から見た工業教育 三田教授	16:50～18:20 (講義) 工業科教育法③ 工業教科(実習)の内 容から見た工業教育 の変遷 三田教授		
			9:30～11:00 (講義) 工業科概論② 情報セキュリティと暗 号 寺井准教授	11:10～12:40 (講義) 工業科概論③ 伝統技法の活用 久芳准教授	休 憩	13:30～15:00 (講義) 工業科概論④ 地球環境化学 丁教授	15:10～16:40 (講義) 工業科教育法④ 学習指導と評価 三田教授	16:50～18:20 (講義) 工業科教育法⑤ 科学的な学習指導 三田教授		
8月27日 (水)			9:30～11:00 (講義) 工業科実践② 電気機器の発展と現 状 野澤教授	11:10～12:40 (講義) 工業科概論⑤ セラミック化学 萩原(俊)教授	休 憩	13:30～15:00 (講義) 工業科概論⑥ セラミック工業 萩原(俊)教授	15:10～16:40 (講義) 工業科教育法⑥ 教材・教具 三田教授	16:50～18:20 (講義) 工業科教育法⑦ 実習と安全 三田教授		
8月28日 (木)			9:30～11:00 (講義) 工業科概論⑦ 情報社会と情報倫理 川中子教授	11:10～12:40 (講義) 工業科実践③ 土木材料(コンクリート の長寿命化) 宮澤教授	休 憩	13:30～15:00 (講義) 工業科実践④ 自動車と省エネ ギ 根本教授	15:10～16:40 (講義) 工業科実践⑤ 原動機と再生可能工 ネルギ 根本教授	16:50～18:20 (講義) 工業科教育法⑧ さまざまな工業教育と まとめ 三田教授		
8月29日 (金)			9:30～11:00 (講義) 工業科実践⑥ 機械設計 塚本教授	11:10～12:40 (演習) 工業科実践⑦ 強度解析 塚本教授	休 憩	13:30～15:00 (講義) 工業科実践⑧ 都市開発概論 築瀬教授	15:10～16:40 (講義) 工業科概論⑧ 環境問題と自然エネ ルギ 牛山学長	16:50～17:20 閉講式		

実施会場:足利工業大学

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（水産）『教科「水産」及び水産科教育法に関する講義等』					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。					
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者					
開 催 期 日	平成26年8月4日（月）～平成26年8月8日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	22	参加率 110.0%
開 催 場 所	東京海洋大学（東京都港区）					

※ 全体受講定員 60 人、 受講者数 79 人、 参加率 131.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	15	68.2	7	31.8	0	0.0	0	0.0	22
		22	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・私は機関系の学科ですが海洋発電のしくみやトロール船の内部など実際に見ることがなかなかできないのでとても勉強になった。また原子力発電所の海洋汚染については、すぐに生徒に話してやりたい課題であった。 ・実習助手の研修という事で実験・実習なども研修に取り入れてほしい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度産業教育実習助手研修日程

(水産)

大学名：東京海洋大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8月4日 (月)		開 講 式	休憩	(講義) 海洋科学入門1	昼休 み	(講義) 水産科教育法1	休憩	(講義) 水産科教育法2	休 憩	(講義) 海洋科学入門2
8月5日 (火)		(講義) 海洋科学入門3	休憩	(講義) 海洋科学入門4	昼休 み	(講義) 水産科教育法3	休憩	(講義) 水産科教育法4	休 憩	(講義) 海洋科学入門5
8月6日 (水)		(講義) 海洋科学入門6	休憩	(講義) 海洋科学入門7	昼休 み	(講義) 水産科教育法5	休憩	(講義) 水産科教育法6	休 憩	(講義) 海洋科学入門8
8月7日 (木)		(講義) 海洋科学入門9	休憩	(講義) 海洋科学入門10	昼休 み	(講義) 水産科教育法7	休憩	(講義) 水産科教育法8	休 憩	(講義) 海洋科学入門11
8月8日 (金)		(講義) 海洋科学入門12	休憩	(講義) 海洋科学入門13	閉 講 式	(講義) 海洋科学入門14	休憩	(講義) 海洋科学入門15	閉 講 式	

実施会場：東京海洋大学 品川キャンパス

I 研修概要

研 修 名	学校評価指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 第二グループ					
研 修 目 的	組織的・継続的に教育活動その他の学校運営の改善を図ることを目的とした学校評価を円滑に推進するため、第三者評価の観点を含めた自己評価、学校関係者評価の生かし方等について、必要な知識及び技能を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成26年 7月14日（月）～平成26年 7月17日（木）				4 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	128	参加率 116.4%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	121	7	0	0	0	0	128
割合 (%)	94.5	5.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	128	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・講義が初日に集中し、2日目以降は演習が中心であったので、演習に積極的に取り組むことができた。 ・指導者養成という面も意識した研修であったため今後の活用ができそうである。 ・講義を聞いた上で事例を用いて協議演習を実施したことは大変良かった。どこをどう改善していけばよいかということも明確にすることができた。 ・講義、演習内容などに満足している。特に、演習に講師が入り適宜指導・助言していただき、班の演習がとてもスムーズ且つ適切に進んだ。 ・学期末の忙しい時期に4日間職場を離れるため、準備や引き継ぎが大変であった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・初日のアイスブレイキングを15分から30分に拡充した。 ・事例発表について、前年度受講生から1人選び、当該研修受講後、具体的にどのような活動ができたかなど、発表していただくこととした。 ・同じく事例発表について、発表校数を減らし、質疑応答、班別協議（意見交換）の時間を設け、より理解の深まる内容とした。 ・全体発表について、発表班の数を減らし、各部会講師の講評時間を拡充した。
次年度に向けて ・教育委員会部会を焦点化する。具体には、域内の学校から吸い上げるデータから具体的に何が読み取れるか、データの分析結果を教委内でどう生かすかなど、より具体的な内容を盛り込む。 ・最後のコマ（研修講師となるために）で、個人で研修計画を作成する時間を設定する。 ・研修開催時期を再検討する。 ・演習時間を拡充する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成26年度学校評価指導者養成研修 日程表

	9:15	9:45	10:15	11:45	12:15	13:15	15:00	15:15	17:00
7月14日（月）	受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「これからの学校評価に求められていること」 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇	班別協議	講義2 「学校経営の充実を図る学校評価」 常葉大学教職大学院 教授 小松 郁夫	休	講義3 「学校改革に必要なリーダーシップ」 筑波大学大学院 人間総合科学研究所 教授 浜田 博文	
				目的：学校評価ガイドライン（平成22年改訂）を踏まえ、学校評価の意義と目的を理解するとともに、現状と課題について整理する		目的：学校評価が学校経営に果たすべき役割及び相互の関係性の在り方について理解する		目的：学校評価を生かした学校運営を円滑に進めるために、管理職等に求められるリーダーシップについて理解を深める	

	8:30	11:45	12:45	13:45	14:00	17:00	
		休 憩				協 議	
7月15日（火）	受 付	事例発表・協議 「学校評価を生かした学校改善の取組 ～信頼される学校づくりを目指して～」 東京都世田谷区立東玉川小学校 校長 新村 出 愛知県高浜市立南中学校 教頭 真浦 博夫 教諭 森 一成 神奈川県横浜須賀野市教育委員会 指導主事 原口 尚延 〈指導助言者〉 山梨大学大学教育センター 教授 日永 龍彦 文部科学省初等中等教育局参事官付 運営支援推進係長 風岡 治	休 憩	講義4 「演習の進め方と演習方法」	休 憩	演習1 「学校評価の手法とその生かし方Ⅰ～情報の整理と検討～」 〈指導助言者〉 国立教育政策研究所 総括研究官 植田みどり 山梨大学大学教育センター 教授 日永 龍彦	協 議
		目的：先行事例の取組から、学校評価を生かした学校改善の手法、課題への対応策等の実際について理解を深める	休 憩	目的：演習の進め方の概要を理解するとともに、演習を充実させるための手法を学ぶ		目的：各地域における学校評価の取組について情報交換することにより、課題を共有するとともに、モデル事例についての現状と課題を把握する	

	8:30	11:45	12:45	17:00
		協議	協議	発表準備・発表
		休 憩	休 憩	
	演習2 「学校評価の手法とその生かし方Ⅱ ～改善方策の検討と見直し～」 〈指導助言者〉	休 憩	演習3 「学校評価の手法とその生かし方Ⅲ ～改善方策の発表～」 〈指導助言者〉	
7月16日（水）	受 付	兵庫教育大学大学院 准教授 大野 裕己 国立教育政策研究所 総括研究官 植田みどり 愛媛大学教育学部 教授 露口 健司 山梨大学大学教育センター 教授 日永 龍彦	昼 食	兵庫教育大学大学院 准教授 大野 裕己 国立教育政策研究所 総括研究官 植田みどり 愛媛大学教育学部 教授 露口 健司 山梨大学大学教育センター 教授 日永 龍彦
		目的：モデル事例について、課題解決のための改善方策の検討と見直しを行うことにより、学校運営の改善につながる学校評価の在り方についての理解を深める		目的：モデル事例の検討をおして明らかにになった改善方策について、整理し、発表することにより、効果的な学校評価の展開を図るための視点を学ぶ

	8:30	12:30	13:30	14:30	14:45
7月17日（木）	受付	演習4 「学校評価の手法とその生かし方Ⅳ ～改善方策の更なる検討～」 〈指導助言者〉 兵庫教育大学大学院 准教授 大野 裕己 国立教育政策研究所 総括研究官 植田みどり 愛媛大学教育学部 教授 露口 健司 山梨大学大学教育センター 教授 日永 龍彦	振り返り	講義5 「研修講師となるために」 山梨大学大学教育センター 教授 日永 龍彦	閉講式
		目的：モデル事例の検討をおして明らかにになった改善方策について更に検討をすることにより、効果的な学校評価の展開を図るための方策についての理解を深めるとともに、本研修の成果を整理する	昼食	目的：学校評価に関する研修講師となるための課題を整理する	

I 研修概要

研 修 名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるため、学校は地域や学校の実態等に即し、学校の特色を生かした適切な教育課程を編成、実施していくことが重要となる。 このため、学校においてカリキュラム・マネジメントを効果的に展開するための手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等、カリキュラム・マネジメントを円滑に行うために必要となる知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等、指導者となることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等、指導者としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成27年2月16日（月）～平成27年2月20日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	160	人	受講者数	157	参加率 98.1%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	138	87.9	19	12.1	0	0.0	157
		157	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・カリキュラム・マネジメントについて専門的な知識を得ることができ、とても有意義だった。全国の先生方と共に研鑽を積むことができたことも得難い機会だった。 ・これからの学校教育において、校長を中心とした、カリキュラム・マネジメントの必要性がよく理解できた。御講義いただいた先生方の事例を取り入れながらの講話等大変勉強になった。事例校の発表も刺激的で参考になった。また、演習を行うことでより実践的なものとなった（難しかったが）本研修を今後に生かしたい。 ・これからますます重要になってくるカリキュラム・マネジメントについて研修を通して学ぶことができ、今後の管理職研修等にとっても有益であると感じた。 ・大切な内容を、講義や協議、演習、発表などを通して、反復して思考・意見・記述をすることで、定着が図られた。5つの領域について、総合的に俯瞰して（教科も含めて）、PDCAを回し、それを継続させて、少しずつ改善・向上させるイメージをつくることができた。 ・カリキュラム、マネジメントの意義手法について、講義、事例、演習等、具体的に理解することができた。現場に還元していきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・領域別の部会を見直し、学校安全部会を増やした。 ・2日目のプログラム（事例発表・協議・講義）について、方法を見直し、発表を聞きながら付箋紙を使ったり、班別協議を行ったりする。 次年度に向けて

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成26年度 カリキュラム・マネジメント指導者養成研修 日程

2月16日(月)									
第1日目	9:20	9:45	10:30	12:00	13:00	14:50	15:05	17:00	
		受付	講義1 これからの学校教育 ～カリキュラム・マネジメントの観点から～ ◎目的:カリキュラム・マネジメントの意義とその必要性、また実践するうえでの現状と課題について理解する 文部科学省 視学官 太田 光春	昼食・休憩	講義2 カリキュラム・マネジメントの基本とその役割 ◎目的:カリキュラム・マネジメントとは何か、学校運営における役割とその方法について具体的な理解を深める 岐阜大学 准教授 田村 知子	休憩	演習1 各地域におけるカリキュラム・マネジメントの取組 ◎目的:各地域の取組を知るとともに、課題を共有する		
2月17日(火)									
第2日目	8:30	10:10	10:25	12:05	13:05	14:45	15:00	17:00	
	事例発表・協議・講義 学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実践と課題 ◎目的:先行事例をとおして、学校の特色を生かしたカリキュラムの編成とその適正なマネジメントによる学校改善の手法等について学ぶとともに、課題をもつ 【A言語活動】文部科学省 教科調査官 富山 哲也 ※全員 国立教育政策研究所 学力調査官 杉本 直美	休憩	【B道徳教育】 文部科学省 教科調査官 赤堀 博行 【C学校安全】 ※選択制 文部科学省 安全教育調査官 佐藤 浩樹	昼食・休憩	【Dキャリア教育】 お茶の水女子大学 准教授 望月 由起 【E総合的な学習の時間】 ※選択制 文部科学省 教科調査官 田村 学	休憩	講義3 カリキュラム・マネジメントによる評価と改善 ◎目的:学校づくりに生かすカリキュラム評価の考え方・進め方について学ぶ 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘 岐阜大学 准教授 田村 知子 筑波大学 准教授 根津 朋実		
2月18日(水)									
第3日目	8:30	10:30	10:45	11:30	12:30		15:45	15:55	17:00
	講義4 カリキュラム・マネジメントを促進するための研修の手法の展開 ◎目的:各校においてカリキュラム・マネジメントを実行するための研修手法及びその効果についての知識・理解を得る 鳴門教育大学 教授 村川 雅弘	休憩	演習2 【協議】 カリキュラム・マネジメントの実際 (部会別演習:A言語活動、B道徳教育、C学校安全、Dキャリア教育、E総合的な学習の時間) ◎目的:各部会におけるカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、事例検討をとおして必要な視点を学ぶ 【A】岐阜大学 准教授 田村 知子、奈良教育大学 准教授 赤沢 早人 【B】秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威 【C】文部科学省 安全教育調査官 佐藤 浩樹 【D】お茶の水女子大学 准教授 望月 由起 【E】鳴門教育大学 教授 村川 雅弘	昼食・休憩	【発表準備】	休憩	【部会別発表】	移動	【全体発表・講評】
2月19日(木)									
第4日目	8:30		12:00	13:00		15:30	15:45	17:00	
	演習3-1 カリキュラム・マネジメントを推進するために ～研修成果の活用に向けた資料作成～ (学校種別演習) ◎目的:カリキュラム・マネジメントに関する教員研修の構想・企画をとおして、本研修における成果を整理するとともに、各地域でカリキュラム・マネジメントを効果的に推進するための方法等について学ぶ 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人		昼食・休憩	(引き続き演習3-1)		休憩		【学校種別発表】	
2月20日(金)									
第5日目	8:30	10:45	11:00	12:00	12:15		2/17(火) 事例発表		
	演習3-2 カリキュラム・マネジメントを推進するために ～全体発表・協議～ ◎目的:カリキュラム・マネジメントを推進するための方策について理解を深める 奈良教育大学 准教授 赤沢 早人	休憩	講義5 研修講師となるために ◎目的:研修講師となるための課題を整理する 大阪教育大学 元学長 長尾 彰夫	閉講式					

【A言語活動】 横浜国立南高等学校附属中学校 校長 高橋 正尚
【B道徳教育】 東京都北区立飛鳥中学校 校長 鈴木 明雄
【C学校安全】 東京都台東区立金竜小学校 校長 牛島 三重子
【Dキャリア教育】 広島県立三次高等学校 校長 梶原 督三
【E総合的な学習の時間】 仙台市立広瀬小学校 教諭 鈴木 美佐緒

I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	平成23年度に中・高等学校において育成されるコミュニケーション能力の素地を養うことを目標に、小学校高学年において週1コマの外国語活動が導入された。また、平成25年度には、文部科学省から「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が公表され、小学校における英語教育の拡充強化とともに、小中高等学校を通じた英語教育の充実が求められている。 このような状況の中、本研修では、外国語活動を担当する指導主事等に、中学校との接続を意識し、児童が意欲的に取り組む活動の設定・指導法及び学習評価、及び教員の外国語活動指導力向上のための研修等について、必要な知識等を総合的に習得させることを通じて、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、円滑に行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 小学校及び特別支援学校、中学校外国語科の教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び、小学校における外国語活動推進の指導者として活動を行う者。					
開 催 期 日	平成26年10月22日（水）～10月24日（金）				3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	152	参加率 138.2%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センターつくば本部					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	132	86.8	20	13.2	0	0.0	0	0.0	152
		152	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・今後の小学校における新しい外国語教育について明確に理解する必要があると認識することができた。また、具体的な内容が多く、今後の研修企画に向け、改善したり、参考にしたりとすることのできることを多く学ぶことができた。
・小・中の連携がうまくいくように実に様々な取組をしており、感心した。その中には一教員として実践できるものもあれば、学校間や教育委員会が連携しないとできないものもあったが、自校や所属先にこれらを紹介し、よりよい連携の方法を探りたい。
・勤務する地区の実状を客観的に知ることができた。例えば、小中連携について中学校と小学校の教員が意思疎通のないまま教育を進めている現状に、大きな焦りと「何かしなくては」という思いを大きくすることができた。また、他地域の先生方との交流を通し、今後の研修への励ましとなる関係を築くことができた。
・外国語活動は、どのようにしていくと良いのか、市町村によってもバラバラで困っていた。しかし、多くの講義や意見交流によって、まずは、1人でなくチームでとりかかることが大切だと思った。また、外国語活動は言語を学ぶだけではなく、他者を知ろう、そして自分も知ろうということが大前提であると改めて感じた。小学校、中学校、お互いに知ろうと歩み寄る必要を感じた。
・国が示す今後の外国語教育の方向性について、現状の成果・課題をもとに理解することができた。また、全国の様子を事例発表や協議・演習から学び、本県の実態と照らしながらどう活かしていくかしっかり考えたい。
・改めて外国語活動についての目的とともに現状と課題について考えることができた。また全国の先生方の取組等も知ることができた。1つテーマにしぼったディスカッションのようなものがフロア全体でなく、半分に分けるなどできると、話し合いの深まりが出るような気がした。
・今後の外国語教育の方向性について分かりやすく解説していただくとともに、指導主事あるいは地区のリーダーとして、その方向性をふまえてやるべきことを示していただけた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・研修全体を通して取り組む2つの課題の内容を変更し、新たな内容を盛り込んだ。
・実施経費については、全額派遣者負担とした。
次年度に向けて

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成26年度小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修 日程

	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00
10月22日(水)		受付	オリエンテーション	講義1 外国語教育の現状と今後の方向性 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的: 学校教育における外国語教育の現状と課題を踏まえ、今後の外国語教育の重要性と方向性を理解する。	休憩・食	講義2 外国語教育の充実のために求められること 大阪教育大学教育学部 教授 加賀田 哲也 ◎目的: 外国語教育における小中連携の効果を知らるとともに、それを効果的に推進するために、小中学校それぞれに求められる課題を明確にし、これからの外国語教育の展望を理解する。	講義・演習1 各地域における外国語活動の取組状況と課題 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的: 各地域の外国語活動の取組を知るとともに、外国語教育の更なる充実に向けた課題を明らかにし、共有する。 ※事前課題で作成した各地域や学校における現在の取組状況について、どのような成果と課題があるかを共有し、今後の研修において解決方策への意識を高める。(班別協議)	
10月23日(木)	8:30 受付	事例発表・協議 「中学校との接続を意識し、児童が意欲的に取り組む活動の設定・指導法及び学習評価」 島根大学教育学部附属小学校 教諭 加藤 若江 「教員の外国語活動指導力向上のための研修等」 海田町教育委員会学校教育課 教育指導監 大里 弘美 ◎目的: 先進的な取組事例をとおして、効果的な小中連携の在り方を知り、小中学校それぞれにおける外国語教育の課題に対する解決方策についての視点や方法等を得る。	休憩	講義・演習2 小学校における外国語教育の課題 大阪教育大学教育学部 教授 加賀田 哲也 海田町教育委員会学校教育課 教育指導監 大里 弘美 ◎目的: これまでの研修内容をもとに、課題を解決するための方策等を探る。 (シンポジウム形式)	休憩・食	講義・演習3 外国語教育を円滑に進めるための方策I 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 海田町教育委員会学校教育課 教育指導監 大里 弘美 ◎目的: 外国語教育の推進及び充実のために必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法を探る。 ※講義・演習1において出された課題を解決するとともに、①中学校との接続を意識し、児童が意欲的に取り組む活動の設定・指導法及び学習評価、②教員の外国語活動指導力向上のための研修等について、指定された課題ごとのグループで解決策を協議し、具体的な実践方法を探るとともに、講義・演習4に向けた発表資料を作成する。		17:00
10月24日(金)	8:30 受付	講義・演習4 外国語教育を円滑に進めるための方策II 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 海田町教育委員会学校教育課 教育指導監 大里 弘美 ◎目的: 外国語教育の効果的な推進及び充実のために必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法等を知る。 ※講義・演習3で話し合った内容と作成した資料についてポスターセッション形式で発表し、情報の共有を図るとともに、実践に向けた方策を知る。	休憩・食	講義・演習5 研修講師となるために 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的: 本研修を振り返り、成果等をまとめるとともに、研修講師となるための課題を整理する。	閉講式			